

学生の確保の見通し等を記載した書類

(東京農業大学 地域環境科学部 地域創成科学科)

■ 目 次 ■

ア 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	1
1. 学生の確保の見通し	1
(1) 入学定員設定の考え方	1
(2) 定員充足の見込みと根拠	1
1) 本学及び他大学等の入試動向	1
2) 新設学科に対する入学意向調査	3
(3) 学生納付金設定の考え方	5
2. 学生確保に向けた具体的な取組状況	5
(1) 学生確保に向けた具体的な取組状況（予定含む）	5
(2) 学生確保についての具体的な取組状況及びその効果、反応等	6
イ 人材需要の動向等社会の要請	6
1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	6
2. 上記「1」が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであるこ との客観的な根拠	8

ア 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

1. 学生の確保の見通し

(1) 入学定員設定の考え方

中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」には、これらの予測困難な時代において高等教育段階で培うことが求められる「学士力」の重要な要素として、以下のとおり示されている。

- ・知識や技能を活用して複雑な事柄を問題として理解し、答えのない問題に解を見出していくための批判的、合理的な思考力をはじめとする認知的能力
- ・人間としての自らの責務を果たし、他者に配慮しながらチームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担う、倫理的、社会的能力
- ・総合的かつ持続的な学修経験に基づく創造力と構想力
- ・想定外の困難に際して的確な判断をするための基盤となる教養、知識、経験

本学科では、本学の教育の理念である「実学主義」に基づき、建学の精神「人物を畠に還す」を具現化した「地域社会の担い手・地域のリーダーの育成」を目的としている。そのため本学科では、地域が抱える問題を総合的に捉え、自然環境や生態系を損なうことなく人々の安心・安全な生活を維持でき、自然環境に配慮した「持続可能な地域づくり」を指向した教育研究を行えるよう、実験実習科目と講義科目による反復学習を通じて、学生に活きた知識と実践力を身につけさせるカリキュラム設計を行っている。この際に重要となるのが、研究室における教育研究活動である。

本学における教育研究組織の最小ユニットは研究室であり、教員は学生への専門教育指導や課外活動のサポートのみならず、学生生活指導や就職支援を行っている。そのため、学生は研究室での集団生活を通じて、社会生活を送る上で重要な教養や専門知識のみならず、他者とのコミュニケーション能力を身に付けることができる。つまり研究室での教育研究活動や集団生活は、学生が上述した「学士力」の重要な要素を育む源となっている。

本学科では、研究室を中心とした教育システムを有効に機能させ、掲げた教育の目的が達成可能な適正な学生数について、本学の資源を最大限に活用することを前提に、教員数や施設設備、学生納付金等の面から検討した結果、以下のとおり設定した。

① 入学定員 80 人（収容定員 320 人）

② 教員数 13 人

③ 初年度学生納付金 1,435,600 円

（入学金、授業料、実験実習演習費、施設設備費及び学生厚生費の合計）

(2) 定員充足の見込みと根拠

1) 本学及び他大学等の入試動向

内閣府が文部科学省の資料を基に作成した「18 歳人口と高等教育機関への進学率等

の推移」**資料1**によると、18歳人口は、平成21～32年頃までほぼ横ばい（120万人前後）で推移するが、平成33年頃から減少（114万人）し、高等教育機関への進学率はここ数年頭打ちの傾向が示されている。

一方、日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、平成23年度に69,494人であった農学系の志願者数は、平成27年度には85,235人となり、5年間で11,259人増（約22.7%増）となった。**資料2**

また、表-ア.1に示すとおり、農学系を志望する受験生の多くは本学を志願先として認知しており、農学系の志願者数の増加は本学の学生確保の見通しを担保する大きな要因といえる。

表-ア.1 志願者数（平成23年度から平成27年度）の推移

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
農学系(学部系統)（注）	69,494	72,512	77,662	82,167	85,235
東京農業大学	31,881	31,834	33,076	34,153	31,231

（注）出典：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」

表-ア.2は、日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」に基づき、平成23年～27年までの5ヶ年における大学のカテゴリー別に志願倍率を示したものである。これによると、本学と農学系の志願倍率は、他に比べいずれも高く、全国的な18歳人口の減少にかかわらず、本学は受験生から高い志願を維持している。

表-ア.2 カテゴリー別志願倍率（平成23年度から平成27年度）の推移

カテゴリー	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
全大学（注1）	7.09	7.02	7.39	7.53	7.58
入学定員(1500-3000人)（注1,2）	8.05	8.07	8.52	9.07	9.07
東京都(所在地)（注1）	9.99	9.67	9.75	9.68	9.63
農学系(学部系統)（注1）	9.93	10.42	11.16	11.81	11.34
東京農業大学	13.12	13.15	13.67	13.77	12.39

（注1）出典：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」

（注2）本学の入学定員は2,800人（平成29年度予定）

志願倍率は次式による。志願者÷入学定員

また、本学における直近5年間の入学志願動向をみると、志願者数は30,000人強、志願倍率（志願者数÷入学定員）は12倍から13倍で推移しており、いずれも全国平均を大きく上回っている。**資料3**、**資料4**

平成27年度入試を例に確認すると、志願者数の合計は31,231人であり、これは入学定員の2,520人の約12.4倍であり、過去の入試実績からも学生確保の見通しについて、

充分に担保できる状況にある。

以上、一般的な志願動向及び本学のこれまでの入試実績から、本学科の設置にあたり、充分に学生確保の見込みがあると判断した。更に、本学科に対する高校生の入学意向を把握するために、次のとおりアンケート調査を行った。**資料5**

2) 新設学科に対する入学意向調査

① 調査対象高校および対象者

アンケート調査は、平成27年8月～平成28年2月に、以下に示す高校2年生を対象に実施した。

- (A) 学科を新設する本学世田谷キャンパスの近隣に所在する高等学校、または、本学に進学実績のある高等学校を中心に1都1道16県（北海道、青森県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、三重県、熊本県）に所在する高等学校の在学者で平成29年度大学進学対象となる高校2年生。
- (B) 本学が開催、または参加するキャンパス見学会、進学相談会に参加した平成29年度大学進学対象となる高校2年生。

② 調査方法

アンケート調査は、(A)学科を新設する本学世田谷キャンパスの近隣に所在する高等学校、または本学に進学実績のある高等学校に対しては、本学科の概要を示したリーフレットおよびアンケート用紙を送付し、アンケート用紙に記入する方法、(B)キャンパス見学会、進学相談会に参加した学生に対しては、会場、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法、により実施した。

③ 調査結果

表-ア.3に示すように、有効回答者数61,693人のうち4年制大学、短期大学、専門学校を含めて高等学校卒業後に進学を希望する学生は、55,818人（90.4%）であり、調査結果の分析にあたっては、進学希望学生55,818人の回答結果を用いた。

表-ア.3 卒業後の進路

No.	カテゴリー	件数	(全体)%
1	4年制大学進学	49,007	79.4
2	短期大学進学	1,503	2.4
3	専門学校進学	5,308	8.6
4	就職	4,278	6.9
5	その他	1,472	2.4
	無回答	125	0.2
	N (%ペース)	945	100

表-ア.4 新学部・新学科への入学意向

No.	カテゴリー	件数	(全体)%
1	入学を希望する	1,113	7.6
2	入学を検討する	4,870	33.1
3	入学を希望しない	1,362	9.3
4	わからない	7,128	48.4
	無回答	242	1.6
	N (%ベース)	14,715	100

表-ア.4に示した新学部・新学科に「入学を希望する」または「入学を検討する」と回答した高校2年生5,983人のうち、本学科を第1志望とする学生は、表-ア.5に示すように757人であった。このことより、本学科の入学定員80人に対し、9.46倍の入学競争倍率を確保できることができた。また、「いずれの学科でもよい」とする学生は605人であり、各学科の第1志望者数の合計5,315名に対する本学科を第1志望とする学生の割合は14.2%であることから、「いずれの学科でもよい」とする学生を各学科に比例配分すると86名となり、合計843名の入学希望学生を確保できると解釈することもできる。この場合、入学競争倍率は10.5倍となる。

以上の調査結果より、本学科では約10倍の入学競争倍率を確保できることができた。さらに、調査対象の高等学校以外からの高校生の進学も考えられること、表-ア.6に示すように本学科を第2志望とする学生も確保できることから、充分な入学競争倍率を確保できるだけでなく、競争原理に従って質の高い学生も確保できるものと考えられる。

表-ア.5 入学を希望する新学部・新学科（第1志望）

No.	カテゴリー	件数	(全体)%
1	生命科学部バイオサイエンス学科に入学したい	1,756	29.3
2	生命科学部分子生命化学科に入学したい	1,041	17.4
3	生命科学部分子微生物学科に入学したい	464	7.8
4	地域環境科学部地域創成科学科に入学したい	757	12.7
5	国際食料情報学部国際食農科学科に入学したい	1,297	21.7
6	いずれの学科でもよい	605	10.1
	無回答	63	1.1
	N (%ベース)	5,983	100

表-ア.6 入学を希望する新学部・新学科（第2志望）

No.	カテゴリー	件数	(全体)%
1	生命科学部バイオサイエンス学科に入学したい	960	16.0
2	生命科学部分子生命化学科に入学したい	1,351	22.6
3	生命科学部分子微生物学科に入学したい	837	14.0
4	地域環境科学部地域創成科学科に入学したい	730	12.2
5	国際食料情報学部国際食農科学科に入学したい	631	10.5
6	いずれの学科でもよい	624	10.4
	無回答	850	14.2
	N (%ベース)	5,983	100

（3）学生納付金設定の考え方

本学科の教育目的を達成するため必要となる学生納付金は、本学の資源を最大限に利用することを前提に、設定した学生数と教員数及び必要となる施設設備等を基礎とし、初年度学生納付金(入学金、授業料及び施設設備費の合計)を1,435,600円に設定した。

本学科の初年度学生納付金の多寡について検討するために、ホームページ等の公開情報から本学科と類似する他大学の学科を特定し、日本私立大学団体連合会による「学生納付金等調査」をもとに比較調査を行った資料6。その結果、類似大学（6大学）は全て、本学科の初年度学生納付金を上回っており、その平均値は1,638,133円と本学科より約200,000円高い設定となっていることがわかった。

これらのことから、設定した学生納付金により、競合大学に対して学生確保の面における競争力が低下することはないと考える。

2. 学生確保に向けた具体的な取組状況

（1）学生確保に向けた具体的な取組状況（予定含む）

本学は、建学の精神「人物を畠に還す」と教育の理念「実学主義」に基づき、教育研究活動に取組んでいる。これを踏まえ、本学や農学系分野の特色及び各学科の教育内容等について高校教員、保護者、受験生、予備校関係者等の理解を得るために様々な媒体を利用して広報活動を実施している。本学科における平成29年度の学生募集活動は既設学部が例年行う内容と同様に実施する予定である。また、農学系や広く文系の相談会等にも積極的に参加予定である。

- ① 進学相談会（首都圏私立大学進学相談会15大学 資料7、農学・獣医学・生物環境系進学ガイダンス、大学フェア等）（動員数約1,631名）
- ② 高校訪問（訪問高校数 831校）
- ③ 出張講義（出張高校数 37校）
- ④ 大学見学（来学高校数 39校、 参加者821名）
- ⑤ 大学案内（学科、研究室、キャリア、入試日程等を紹介）
- ⑥ 新聞等（朝日、読売、日経新聞、高校生新聞等） 資料8
- ⑦ 看板広告（本厚木駅）

- ⑧ 受験雑誌等（雪時代、大学発見ナビ、マナビジョンブック（保護者版）等）
- ⑨ WEB 広報等（進学ネット、マナビジョン、パスナビ、マイナビ進学 U-17 等）、大学 HP

※ () 内数字は平成 27 年度実績

毎年開催している大学独自の各種イベント

- ① キャンパス見学ツアー（年 2 回開催）**資料 9**・・・（世田谷 1,875 名、厚木 521 名、オホーツク 135 名）
- ② キャンパス見学会（各キャンパスごとに開催）**資料 10**・・・（世田谷 9,123 名、厚木 2,686 名、オホーツク 480 名）
- ③ 収穫祭・進学相談会（各キャンパスごとに開催）**資料 11**・・・（世田谷 979 名、厚木 243 名、オホーツク 115 名）
- ④ ユメナビ**資料 12**（219 名） ミライガク**資料 13**（150 名）

※ () 内数字は平成 27 年度参加者数

（2）学生確保についての具体的な取組状況及びその効果、反応等

各種広報活動の実施により、入学定員を確保している。

充実した学生生活のため、アドミッションポリシーの発信や学科の教育内容や特徴、ディプロマポリシー等を明確に説明することで、学生が希望に沿った学科を選択できるように取組み、不本意入学をできるだけ防ぎ、卒業時に高い満足度が得られるよう配慮している。

このような取組が、以下の入学定員に対する志願者の倍率に示されるとおり、効果がでているものと考える。

表-ア.7 全学部の志願者の推移（入学定員・志願者数（全入試制度）・志願倍率）

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
入学定員	2,430 名	2,420 名	2,420 名	2,480 名	2,520 名
志願者数	31,881 名	31,834 名	33,076 名	34,153 名	31,233 名
志願倍率	13.12 倍	13.15 倍	13.67 倍	13.77 倍	12.39 倍

イ 人材需要の動向等社会の要請

1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

（1）本学科設置の趣旨

水資源や食料生産、環境保全等を担ってきた農山村地域の保全・再生、持続的発展のためには、農業の振興と、人々の安心・安全な生活を維持できる地域社会の創成が必要である。

本学部では、地域社会の創成とこれを担う人材の継続的な育成が重要な課題であるため、源流域から中山間地域を経て平野部に至る農山村地域、都市地域を対象とし、林学・

農業工学・造園学の3つの学問分野において個別のフィールドで地域環境、地域資源の保全・利用等に資する人材の養成を目的に教育研究を行ってきた。

本学部の中において本学科は、広範囲におよぶ農山村地域を対象として課題を解決するため、本学部の教育研究において数十年に亘って培ってきたノウハウを結集させ、表-イ.1に示す（ア）林学・農業工学・造園学を融合した新しい教育研究システム（学問分野）を学ぶことによって、（イ）地域環境科学に関連する幅広い専門的な知識と技術を身に付け、（ウ）それらの知識・技術を運用できるマネジメント能力を持った地域社会の担い手となる人材を継続的に養成していくことで、農山村地域の保全・再生、持続的発展に貢献することを目的とし、本学部に森林総合科学科、生産環境工学科、造園学科に次ぐ第4の学科として、本学科を平成29（2017）年4月、本学世田谷キャンパス（東京都世田谷区）に設置する。

表-イ.1 これからの地域環境科学の学問分野・対象フィールド

学問分野	林学	農業工学	造園学
横断的な新しい学問分野（地域創成科学）			
対象フィールド	山地～中山間地	中山間～平地の農業地域	農業地域～都市地域
	農山村地域（山地～中山間地～平地の農業地域）		

（2）養成する人材像

本学科では、中央教育審議会の答申「我が国の高等教育の将来像」で分類しているところの「幅広い職業人養成」と「社会貢献機能」の比重を高くし、自然環境に配慮した持続可能な地域の創成を指向した実学型の教育研究を行うとともに、地域社会を担うリーダーの育成を目指している。具体的には、（ア）生物多様性や生態系に配慮した土地利用方法、（イ）地域防災や農業基盤に関連する保全・管理技術、（ウ）環境アセスメント手法や環境教育、（エ）地域マネジメント手法などの幅広い専門的能力、を有するとともに、以下のような人材の養成を目的としている。

- ① 自然環境、生活環境および社会環境の関わりについて広い知識と豊かな感性を有する人材
- ② 観察力、論理的思考能力、高い倫理観を有し、フィールドにおける多様な課題の解決に向けて積極的に行動できる人材
- ③ 生物文化多様性や土地・社会資本の保全、地域振興等の観点から持続可能な地域の創成に貢献できる人材

この養成する人材像を達成するために、本学科では林学・造園学・農業工学に関連する専門知識だけではなく、低学年次に配当される教養的科目や基礎的専門科目も重視している。そのため、低学年での教養教育の充実を図るとともに、学科に設置する「自然再生分野」と「地域マネジメント分野」の2つの教育研究分野において基礎的～基幹的な専門教育を行っていくものである。

(3) 教育研究上の目的

本学科の2つの教育研究分野のうち「自然再生分野」は、源流域から中山間地域を経て平野部に至る「農域」の自然環境を主たる教育研究の対象としており、自然環境の適切な保全・再生手法や生物多様性に配慮した持続可能な生産基盤や生存環境の保全方法など、生物多様性や生態系に配慮した土地利用方法、環境アセスメント手法に関する教育研究を行うことを目的としている。一方「地域マネジメント分野」では、農域における生活・社会環境を主たる対象とし、生活・社会環境の持続可能性を確保するための農業基盤に関する防災を含む保全・管理技術や、流域連携、都市農村交流などを通じた6次産業化事業や地域マネジメント手法、環境教育推進手法に関する教育研究を行うことを目的としている。

本学科では、これらの教育研究上の目的を達成するために、以下のカリキュラムポリシーを設定し、講義科目や実習演習科目だけでなく、フィールドでの実習にも重点を置いた専門教育課程の編成を行うこととした。

- ① 地域環境を構成する生物、土、水、地形地質および文化や社会といった基本構成要素にかかる基礎科目と、地域創成科学を理解し学習の動機づけをねらいとする科目から構成される専門基礎科目
- ② 生物多様性や生態系に配慮した土地利用方法、地域防災や農業基盤に関する保全・管理技術、環境教育や地域マネジメント手法などの専門コア科目、それらを横断的に理解するための情報技術や環境アセスメント手法からなる学際領域科目
- ③ 専門基礎科目、専門コア科目、学際領域科目で学んだ専門知識・技術を運用し、持続可能な地域づくりを考究するための総合化科目

上述のカリキュラムポリシーを設定した理由は、実践活動を通じて「地域創成（地域づくり）」のための確かな技術を身につけた人材の養成、つまり地域環境の調査・分析、環境アセスメントなど環境構成要素に関する専門知識や、生物多様性や生態系に配慮した土地利用方法、地域防災や農業基盤に関する保全・管理技術、それらを連携する事業や政策といった幅広い知識と技術を学ぶことによって、

- ① 論理的・多面的に物事を考える能力
- ② 知識や技術を応用できる能力
- ③ 他者と協力し問題を解決に導く能力

など、「地域社会の担い手や地域のリーダー」となるために必要な素養の習得することを目標としているためである。

2. 上記「1」が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学科では、「水資源や食料生産、環境保全等を担ってきた農山村地域の保全・再生、持続的発展のためには、農業の振興と、人々の安心・安全な生活を維持できる地域社会

の創成が必要である」とし、林学・農業工学・造園学を融合した新しい学問分野である「地域創成科学」の教育研究を通じて地域社会の担い手や地域のリーダーとなる人材の養成を目指している。しかし、本学科の設置の趣旨等の正当性を評価するためには、第三者機関による調査結果を用い、記載内容を精査する必要がある。そのため、ここでは内閣府による世論調査結果、文部科学省による調査結果を引用し、設置の趣旨等の記載内容の正当性を精査するとともに、本学科卒業生が社会的に必要とされているか否かについて検討するものである。

（1）学科の設置に関して

内閣府が国民の意識を把握し、施策立案の参考とするために実施している世論調査の中に「農山漁村に関する世論調査」がある。2014 年度に実施した世論調査結果によると、農村の持つ重要な役割として以下の 6 項目を主として挙げている。なお、回答者数は 1,880 名であり、そのうち 700 名が農山漁村地域住民である。

- ・食料を生産する場としての役割 (83.4%)
- ・多くの生物が生息できる環境の保全や良好な景観を形成する役割 (49.8%)
- ・地域の人々が働き、かつ生活する場としての役割 (48.7%)
- ・水資源を貯え、土砂崩れや洪水などの災害を防止する役割 (32.5%)
- ・農村での生活や農業体験を通しての野外における教育の場としての役割 (30.1%)
- ・伝統文化を保存する場としての役割 (22.4%)
- ・保健休養などのレクリエーションの場としての役割 (9.8%)

農村の持つ重要な役割の 6 項目は、本学科の設置の趣旨に示した農山村地域の保全・再生、持続的発展のために保守すべき役割や目指すべき教育研究の方向性に含まれている。つまり、この結果は、国民の多くに本学科の設置の趣旨が理解され得ることを示しているといえる。

また、同世論調査では、農山漁村地域住民および都市地域住民に対して実施した「これからの中山間地域に関する施策についてどうしたらよいと考えるか」という問い合わせに対して、以下の回答結果が得られている。

- ・経済性・効率性の観点よりも国土・環境保全などの機能を重視すべき (21.0%)
- ・経済性・効率性の向上に努めつつ国土・環境保全などの機能も重視すべき (63.1%)
- ・国土・環境保全などの機能よりも経済性・効率性の観点を重視すべき (7.8%)

この結果より、押し並べて 80%以上の方が中山間地域の国土・環境保全の必要性を認識しており、年齢層が若くなるにしたがって中山間地域の保全に対する関心が高くなっていることがわかる。学生の保護者世代は 40～50 代が中心であり、この世代は 20 代（学生世代）に比べて中山間地域の国土・環境保全に対する関心は低いものの、85%以上が理解を示している。したがってこの結果は、農山村地域の保全・再生、持続的発展を目指す本学科の取り組みは、受験生の保護者にも理解され易いことを示していると考

えられる。

さらに、農山漁村地域住民に対して行った農山漁村地域の集落や自治会といった地域コミュニティに求めるものは何かという問い合わせに対しては、以下の 6 項目が主たる回答となっている。

- ・高齢者・子どもの見守り（52.0%）
- ・地域の信頼感・連帯感の醸成（46.6%）
- ・防災対策（41.4%）
- ・お祭りなど伝統行事の維持（33.3%）
- ・環境保全活動（30.3%）
- ・公民館、農道、用排水路、共同利用場所などの維持管理（27.6%）

「環境保全活動」や「防災対策」、「農道、用排水路などの維持管理」、「お祭りなど伝統行事（文化多様性）の維持」、「地域の信頼感・連帯感の醸成（地域連携）」は、生物多様性や生態系に配慮した土地利用方法、地域防災や農業基盤に関連する保全・管理技術、それらを連携する事業や政策といった、本学科の教育研究の中で直接的に取り扱うことを主張している領域である。一方で、回答率が最多であった「高齢者・子どもの見守り」は、文言として「設置の趣旨等を記載した書類」には記してはいないが、ソフトインフラ整備と呼ばれる事業により対応するものであり、”安心・安全な生活の維持”という文言に含まれるところである。したがって、本学科が掲げる「教育研究上の目的」は、農村地域住民の希望に沿うものであり、農村地域において必要とされているものであることがわかる。

一方で、「国土の長期展望 中間とりまとめ」（国土交通省）によると、日本の総人口は 2004 年の 1 億 2784 万人をピークに 2050 年には約 3300 万人減少し、これに伴って高齢化率は 2050 年には約 40%まで上昇するだけでなく、居住地域の 2 割が無居住化すると試算されている。また、将来的に無居住・低密度居住化する地域の土地利用・自然植生の約 9 割は、二次林、農用地等、植林地等、農業または林業に関係する土地であり、里地里山の約 40%（国土全体の 10%）が存続の危機に晒されていると指摘されている。これに対し、「設置の趣旨等を記載した書類」でも記したように、都市地域住民に対して実施した農山漁村への定住希望の回答結果では、図-イ.1 に示すように、

- ・農山漁村への定住希望者は平成 17 年度（20.6%）に比べて 11%増加（31.6%）
- ・特に 20 歳代の男女の定住希望割合は全年齢層を通じて最も高い 38.8%

となっていることから、地方への I ターン就職を希望する学生は今後増加していくものと考えられる。

本学では、日本全国 47 都道府県、世界 11 カ国の卒業生組織（校友会）との繋がりから、国内外の学生を広く受け入れている。過去 4 ヶ年の国内入学者の出身地割合は表-イ.2 に示す通りで、1 都 3 県以外の関東地方出身者を含む約 40% の学生が自宅外通学生であり、本学科の入学生も同様の傾向になるものと考えられる。したがって、図-イ.1

の調査結果に鑑みると、本学科卒業生のうち地方へのUターン就職を希望する学生は、今後増加するものと考えられる。

表-イ.2 本学入学者の出身地割合（過去4ヶ年）

北海道 ・東北	関東 (1都3県)	北陸・ 甲信越	東海	近畿	中国・ 四国	九州・ 沖縄
8%	70% (59%)	6%	7%	2%	3%	4%

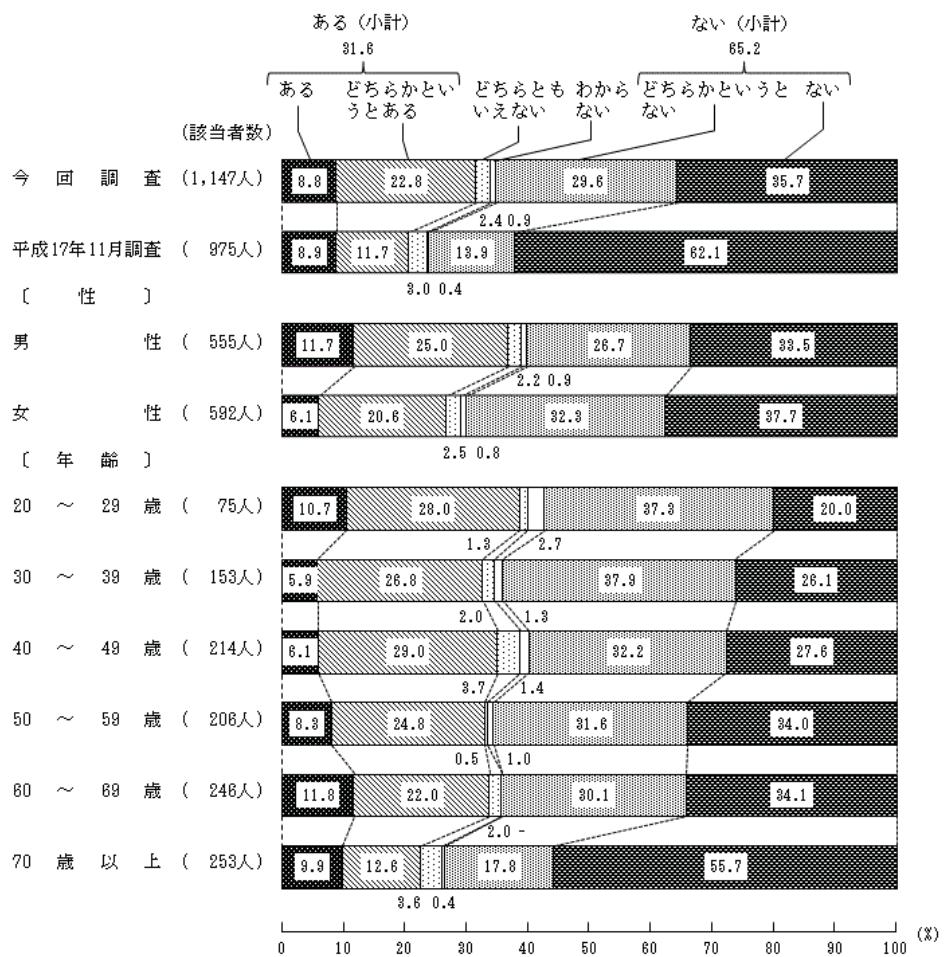


図-イ.1 都市住民の農山漁村地域への定住願望の有無

このようなUターン・Iターン就職希望者の増加予想に鑑みると、進学を除いて想定される卒業後の進路としては、農産物流通業、建設業（土木・造園）、農林業、観光・レクリエーション業、環境コンサルタント業の他、地方自治体の公務員（一般職、技術職）や教員など、地域に根差した活動を行っている組織が挙げられる。

また、農山漁村地域住民の都市地域への移住については、図-イ.2に示すように、

- ・「移住したい」とする者の割合が19.7%
- ・「移住したくない」とする者の割合が77.4%

となっている。図-イ.2 からわかるように、「移住したくない」とする割合は年齢層が高くなるにつれて大きくなり、70歳以上で 88.5% となっている。一方、将来の農山漁村を担う 20 代では 61.8% と最も少ないが、過半数を超える若者が農山漁村での定住を望んでいることがわかる。

明治大学の小田切徳美教授は、著書「農山村は消滅しない（岩波新書）」において、図-イ.1、イ.2 で示したように、人口減少社会の到来によって農山村地域の人口も減少していくことは予測されるが、都市地域の若者を中心とする「田園回帰」の動きが顕在化しており、農山村地域が消滅する可能性は極めて低いことを指摘している。

これらのことより、本学科の教育研究の対象フィールドとなる農山村地域は、農林水産省の「食料・農業・農村基本計画（2015）」において国民に対する食料の安定的な供給のため食料自給率の向上が重要な課題とされていることからもわかるように、今後も「食料を生産する場」として存在し続けるものと考えられる。また、農山村地域の保全・再生、持続的発展に資する「地域社会の担い手や地域のリーダー」となる人材の養成を目指す本学科の存在意義は大きく、地域に根差した様々な組織において、本学科卒業生の活躍が期待できると考えられる。

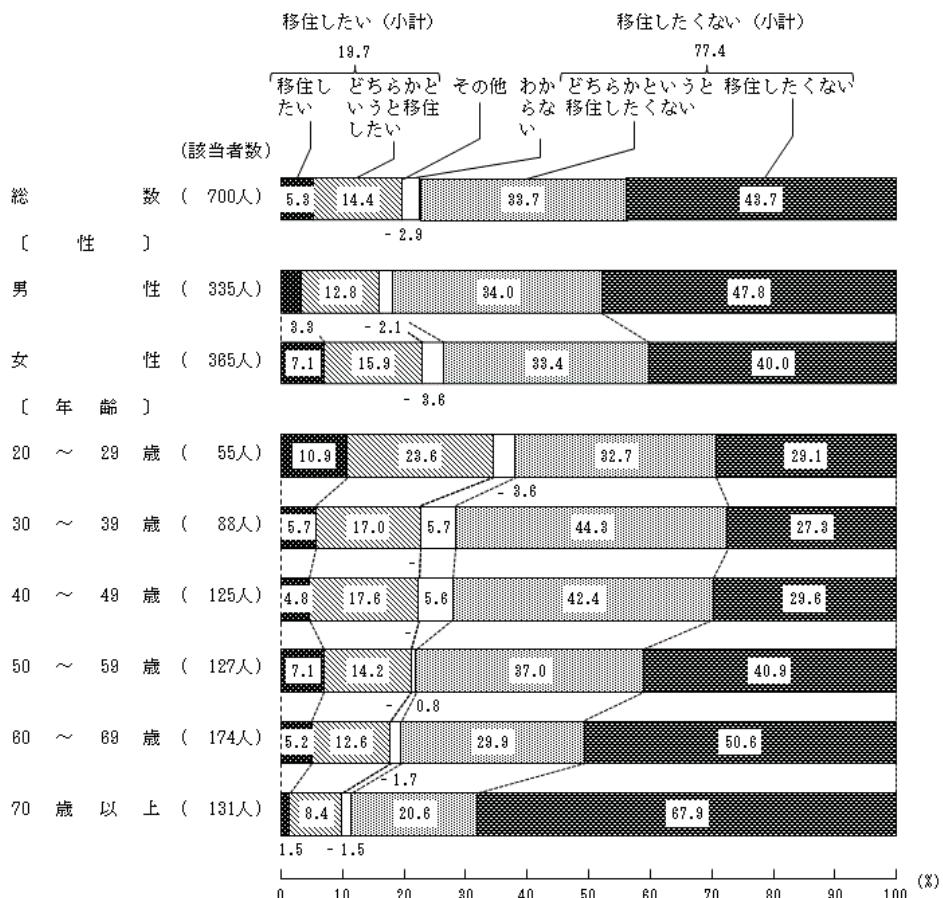


図-イ.2 農山漁村地域住民の都市地域への移住希望

(2) 人材需要の動向について

1) 公的機関による調査データからの分析

本学科では、進学を除く本学科卒業生の進路としては、農産物流通業、建設業（土木・造園）、農林業、観光・レクリエーション業、環境コンサルタント業の他、地方自治体の公務員（一般職、技術職）や教員など、地域に根差した活動を行っている組織を想定している。

ここでは、文部科学省が実施した学校基本調査結果のうち、大学卒業者を対象として行った過去10年間（2005年から2014年まで）の職業別・産業別の就業者調査結果を用い、これまでの就業者の動向を把握し、本学科卒業生の人材需要の動向を予測するものである。なお、産業別・職業別の求人倍率等に関するデータは入手できなかったことから、ここでは「就業者数の増加=就業機会（求人数）の増加」と考える。

学校基本調査によると、大学卒業者数は、2010年に5千人ほど減少したが、30万人から40万人の間で推移しており、農学系学部卒業者数が卒業者数全体に占める割合は2~3%で、9千人から1万1千人と大学卒業者数と同様の推移を示していた。

この大学卒業者数の傾向に対して、本学科で想定している卒業生進路先の就職者数がどのように推移しているかを示しているのが図-I.3、イ.4であり、産業別データのうち農学系学部卒業者のみのデータを用いている。

産業別データでは、ペティ・クラークの法則に基づいて第一次～第三次の産業別に就職者数が示されており、第二次産業の製造業、第三次産業の教育・学習支援業については内訳が示されていたため、本学科に関係する領域（製造業では食品等製造業、教育・学習支援業では学校教育）を抽出し、表-I.3に示すように分類した。

表-I.3 卒業生進路先の産業別分類

本学科で想定している卒業生進路先	産業別データの分類
農産物流通業	卸売・小売業、製造業
建設業（土木・造園）、環境コンサルタント業	建設業
農林業	農林業
観光・レクリエーション業	複合サービス業
地方自治体の公務員（一般職、技術職）	公務
教員	教育・学習支援業

図-I.3、イ.4より、卸売・小売業、製造業、公務への就職者数がその他の産業に比べて多いことがわかる。また、製造業・学習支援業を除いた各産業での就職者数は概ね右肩上がりの傾向にあることがわかる。このことより、規模の大小はあるが、卸売・小売業、建設業、農林業、複合サービス業、公務における人材需要は、GDPは大きく変動せず人口減少が進んでいる現状に鑑みると、今後も続いていくものと考えられる。製造業については、増加傾向には無いものの、過去5年は横ばいで推移しており、就職人数も卸売・小売業に次いでいることから、卸売・小売業～公務と同様に一定の人材需要は見込めるものと考えられる。教育・学習支援業については、団塊の世代が退職し始めた

2007年から2012年までは採用人数は増え続けてはいたものの、人口減少に伴い人材需要は低下するものと予想される。しかし、食料自給率の向上が喫緊の課題となっているわが国において、地域における高校での農業教育は重要な位置を占めてくるものと考えられる。そのため、高校教員免許（農業）の取得を想定している本学科では、少人数ながら教育・学習支援業における一定の人材需要はあるものと考えられる。

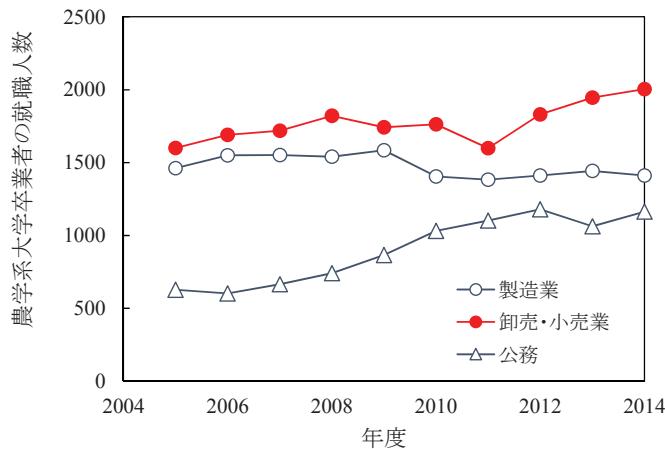


図-イ.3 農学系学部卒業者における産業別就業者数の推移(1)

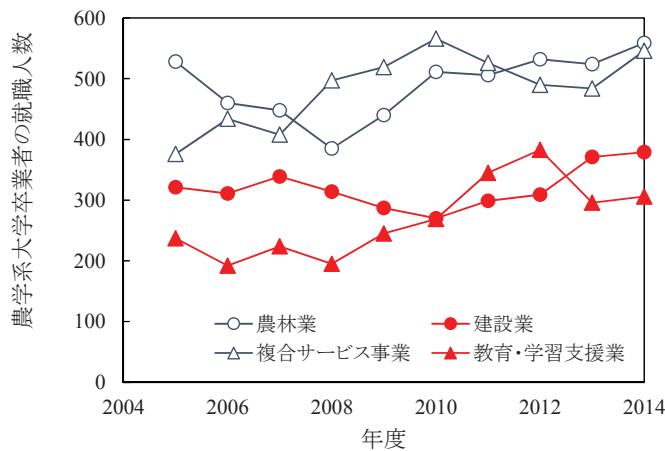


図-イ.4 農学系学部卒業者における産業別就業者数の推移(2)

卸売・小売業、建設業、農林業、複合サービス業、公務の産業のうち、本学科の目指す「農山村地域の保全・再生、持続的発展」とわが国の食料自給率の向上に寄与し、地域に根差した地元密着型の第一次産業である農林業に注目し、就業者数の推移を見てみることとする。

図-イ.5は、全大学卒業生と農学系学部卒業生の農林業就業者数がどのように推移しているのかを示している。図-イ.5からわかるように、農林業就業者数は大学卒業者数の1%未満ではあるが、2008年に最低値を示して以降、その後2010年の卒業者減少の影響を受けず、就業者数は伸びている。これは、小田切教授が指摘したように、都市の

若者を中心とする「田園回帰」の動きが顕在化している結果であると考えられる。一方、農学系学部卒業生の就業者数は全体の就業者数の約半数を占め、僅かに増加傾向はあるものの、2008年以前と比べて全体に占める割合は低下していることがわかる。これは、農学系学部以外の卒業者が農林業に就業し始めているためである。

今後、TPPの本格運用に向けて、食料自給率だけでなく、農産物のブランド力向上に向けた動きが活発化していくものと予想される。これに伴って、その受け皿となる農業生産法人等の人材需要が増加し、本学科の卒業生に対する人材需要は益々高くなっているものと考えられる。

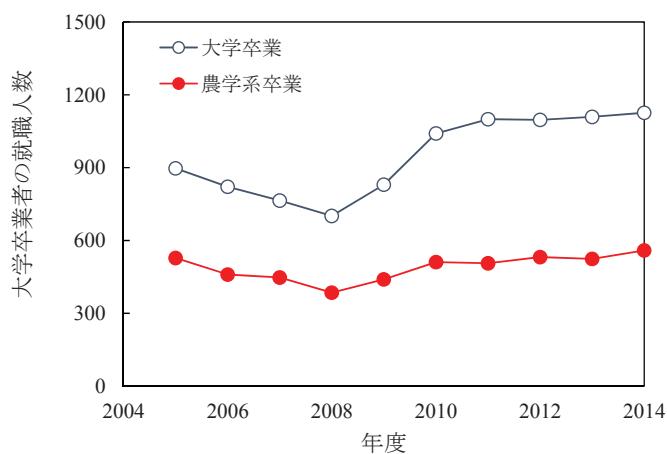


図-イ.5 農林業就業者数の推移

2) 卒業生に対する採用意向調査

本学科の設置構想に基づき、第三者機関である「一般財団法人 日本開発構想研究所」への委託による「東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査」を平成27年9月～11月に実施した。（資料14「卒業生に対する企業等の採用意向等に関するアンケート調査報告」を参照）

調査対象は、本学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる企業等4,000社の採用担当者にアンケート用紙及び東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答については第三者機関へ企業等から直接郵送による回収とした。

アンケート調査を実施した産業別業種と件数は表-イ.4に示す通りで、表-イ.3に示した卒業生進路先の産業別分類は網羅されていることがわかる。

表-イ.4 アンケート調査を実施した業種と件数

No.	カテゴリー	件数	(全体)%
1	農業・林業	40	4.2
2	漁業	1	0.1
3	鉱業・採石業・砂利採取業	2	0.2
4	建設業	77	8.1
5	製造業	202	21.4
6	電気・ガス・熱供給・水道業	3	0.3
7	情報通信業	31	3.3
8	運輸業・郵便業	15	1.6
9	卸売業・小売業	206	21.8
10	金融業・保険業	16	1.7
11	不動産業・物品賃貸業	9	1
12	学術研究・専門技術サービス業	24	2.5
13	宿泊業・飲食サービス業	40	4.2
14	生活関連サービス業・娯楽業	13	1.4
15	教育・学習支援業	13	1.4
16	医療・福祉	48	5.1
17	複合サービス業	16	1.7
18	サービス業（他に分類されないもの）	66	7
19	公務（他に分類されるものを除く）	43	4.6
20	その他	78	8.3
	無回答	2	0.2
	N (%ベース)	945	100

表-イ.5 は、本学科の社会的必要性について調査した結果を示している。回答のあつた企業等 945 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 491 件 (52.0%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」294 件 (31.1%)、「わからない」99 件 (10.5%)、「あまり必要性を感じない」36 件 (3.8%)、「無回答」17 件 (1.8%)、「必要性はない」6 件 (0.6%)、「その他」2 件 (0.2%) の順になっている。なお、本学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、785 件 (83.1%) と、概ね好意的な結果が得られていることがわかる。

表-イ.5 本学科の社会的必要性

No.	カテゴリー	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	491	52
2	一応、社会的必要性を感じる	294	31.1
3	あまり必要性を感じない	36	3.8
4	必要性はない	6	0.6
5	わからない	99	10.5
6	その他	2	0.2
	無回答	17	1.8
	N (%ベース)	945	100

本学科の卒業生の採用意向についての調査結果は表-イ.6に示す通りである。この結果より、回答のあった企業等945件のうち、「採用を検討したい」が462件(48.9%)と最も多く、次いで「採用したい」253件(26.8%)、「採用は考えない」179件(18.9%)、「無回答」51件(5.4%)の順になっており、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、715件(75.7%)となっていることがわかる。

次に、肯定的な採用意向を示した715件に対して、本学科卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、表-イ.7に示すように「人数は未確定」が506件(70.8%)と最も多く、次いで「1人」131件(18.3%)、「2人」33件(4.6%)、「無回答」19件(2.7%)、「3人」13件(1.8%)、「5人以上」12件(1.7%)、「4人」1件(0.1%)の順であった。

表-イ.6 本学科卒業生の採用意向

No.	カテゴリー	件数	(全体)%
1	採用したい	253	26.8
2	採用を検討したい	462	48.9
3	採用は考えない	179	18.9
	無回答	51	5.4
	N (%ベース)	945	100

表-イ.7 本学科卒業生の採用人数

No.	カテゴリー	件数	(全体)%
1	1人	131	18.3
2	2人	33	4.6
3	3人	13	1.8
4	4人	1	0.1
5	5人以上	12	1.7
6	人数は未確定	506	70.8
	無回答	19	2.7
	N (%ベース)	715	100

表-イ.8 本学科卒業生の採用意向人数(1)

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 のみ	合計
1人(A)	53 (a)	(A)×(a) 53
2人(B)	25 (b)	(B)×(b) 50
3人(C)	11 (c)	(C)×(c) 33
4人(D)	1 (d)	(D)×(d) 4
5人以上(E)	11 (e)	(E)×(e) 55
人数は未確定(F)	146 (f)	(F)×(f) 146
無回答	6	計 341

表-イ.9 本学科卒業生の採用意向人数(2)

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 「採用を検討し たい」の合計	合計
1人(A)	131 (a)	(A)×(a) 131
2人(B)	33 (b)	(B)×(b) 66
3人(C)	13 (c)	(C)×(c) 39
4人(D)	1 (d)	(D)×(d) 4
5人以上(E)	12 (e)	(E)×(e) 60
人数は未確定(F)	506 (f)	(F)×(f) 506
無回答	19	合計採用意向 806

以上の結果より、本学科卒業生に対する将来的な採用意向人数を推定するために、表-イ.6 における「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答数と、表-イ.7 に示した将来的な採用人数の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定」）を乗じ、これを合計した。なお、「人数は未確定」とは、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、ここでは「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。これを表-イ.8 と表-イ.9 に示す。

表-イ.8 より、本学科卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、341 人分となる。入学定員は 80 名であるため、4.26 倍の採用意向を確保できていることがわかる。また、表-イ.9 に示したように、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は 806 人となり、これは、入学定員 80 名に対して、10.07 倍となることがわかる。

以上の調査結果より、農山村地域の保全・再生、持続的発展を目指す本学科の取り組みは、「農山漁村に関する世論調査」結果と同様に、企業においても評価されていることがわかった。また、「学校基本調査」結果から推定したように、社会における本学科卒業生の人材需要は高く、卒業後の進路は十分に確保できるものと考えられる。

学生の確保の見通し等を記載した書類

(東京農業大学 地域環境科学部 地域創成科学科)

資料目次

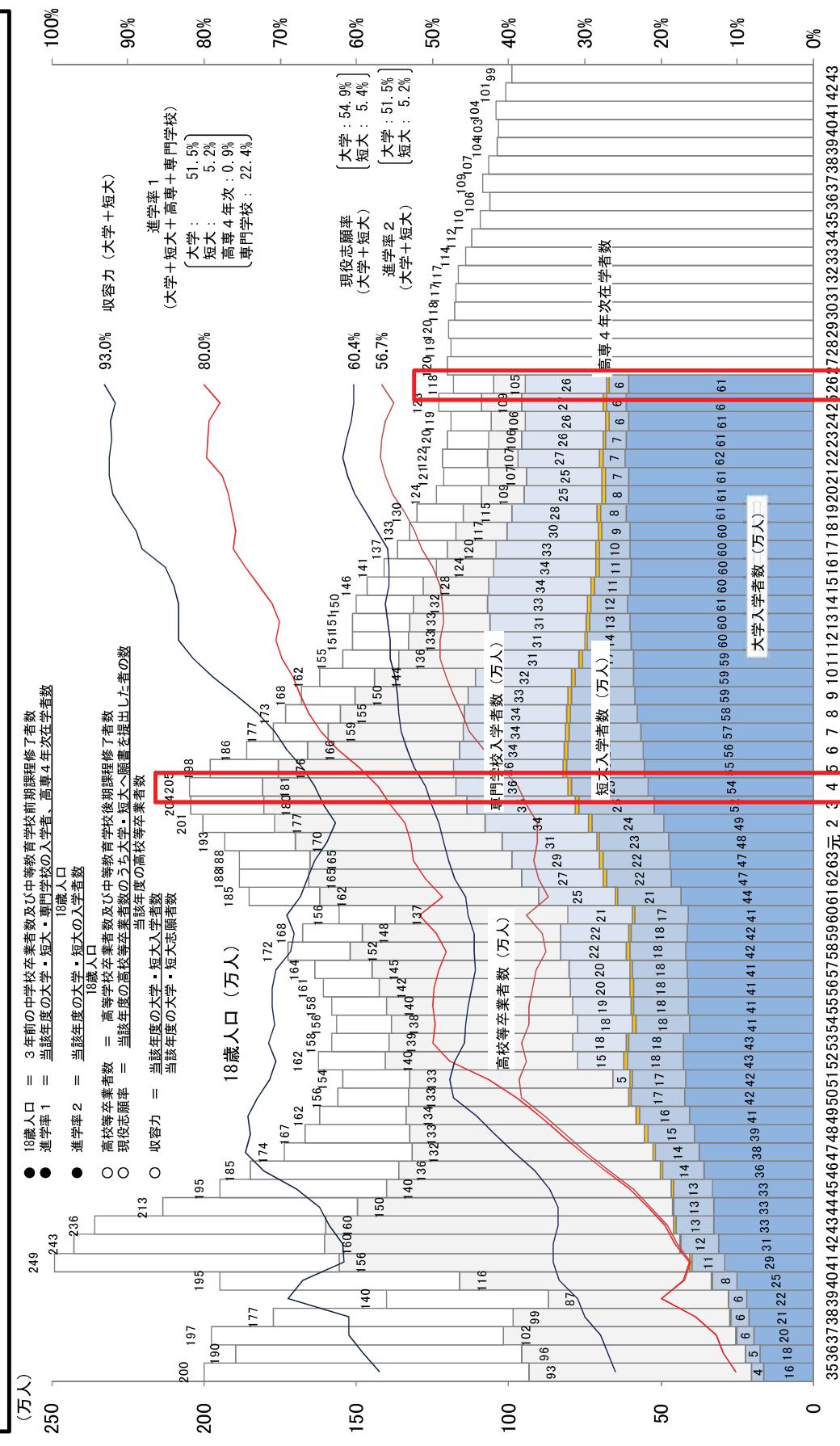
- 資料 1 18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移（内閣府）
- 資料 2 平成21年度～平成27年度農学系大学志願者数の推移
- 資料 3 平成23年度～平成27年度カテゴリー別志願倍率の推移
- 資料 4 平成23年度～平成27年度東京農業大学入試動向
- 資料 5 高校生の入学意向に関するアンケート調査報告
(一般財団法人日本開発構想研究所)
- 資料 6 新学部・新学科と類似する近隣の大学・学部・学科との初年度学生納付金の比較
- 資料 7 首都圏私立大学進学ガイダンス
- 資料 8 高校生新聞（7・8月号、10月号）
- 資料 9 世田谷キャンパス見学ツアー2015
- 資料 10 OPEN CAMPUS 2015（パンフレット）
- 資料 11 進学説明会（第124回収穫祭同時開催）
- 資料 12 夢ナビライブ2015（国公私立大学 合同進学ガイダンス）
- 資料 13 ミライガク2015（ゼミ・研究室体験型イベント）
- 資料 14 卒業生に対する企業等の採用意向等に関するアンケート調査報告
(一般財団法人日本開発構想研究所)

以上

18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移

科学技術イノベーション人材の育成・流動化

- 18歳人口は、平成21～32年頃までぼんやりと横ばいで推移するが、平成33年頃から減少することが予測されている。(18歳人口について、平成4年度：205万人→平成26年度：118万人)
- 高等教育機関への進学率は、ここ数年頭打ち。



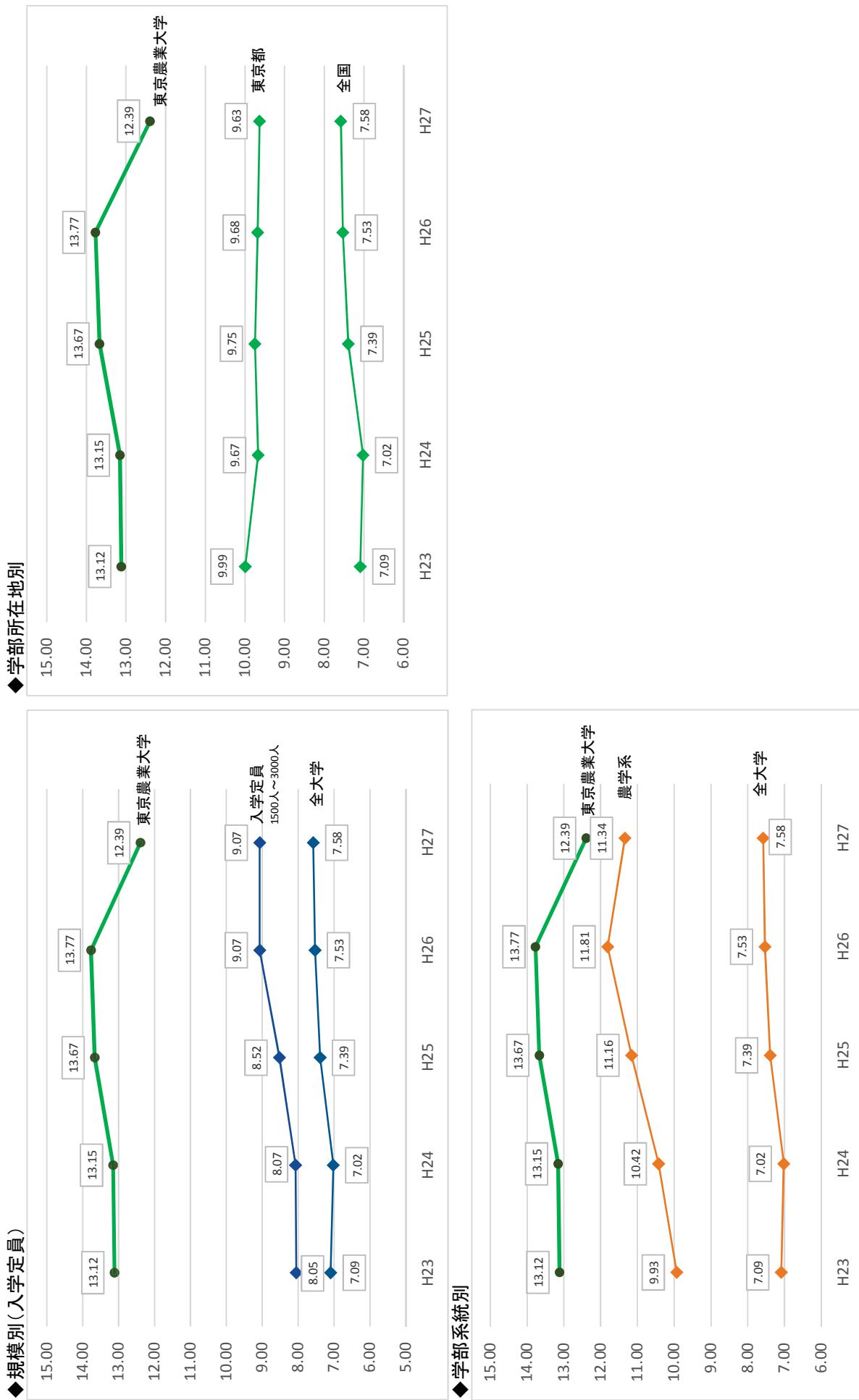
出典：文部科学省作成資料を基に、内閣府作成

平成21年度～平成27年度 農学系大学 志願者数の推移



年度	集計学部数	入学定員A	志願者B	受験者C	合格者D	入学者E	志願倍率B/A	合格率D/C	歩留率E/D	入学定員充足率E/A
H21	16	6,755	62,133	59,421	19,996	7,441	8.8	33.65	37.21	110.16
H22	17	6,865	64,588	62,052	20,075	7,745	8.8	32.35	32.35	112.82
H23	17	7,000	69,494	66,487	20,722	8,096	8.0	31.17	31.17	115.66
H24	17	6,960	72,512	69,536	20,988	7,921	8.0	30.42	30.18	113.81
H25	17	6,960	77,662	74,596	20,640	7,814	8.0	27.67	27.67	112.27
H26	17	6,960	82,167	78,620	21,842	7,789	8.0	27.78	27.78	111.91
H27	18	7,515	85,235	81,261	24,459	8,491	8.0	30.1	34.72	112.99

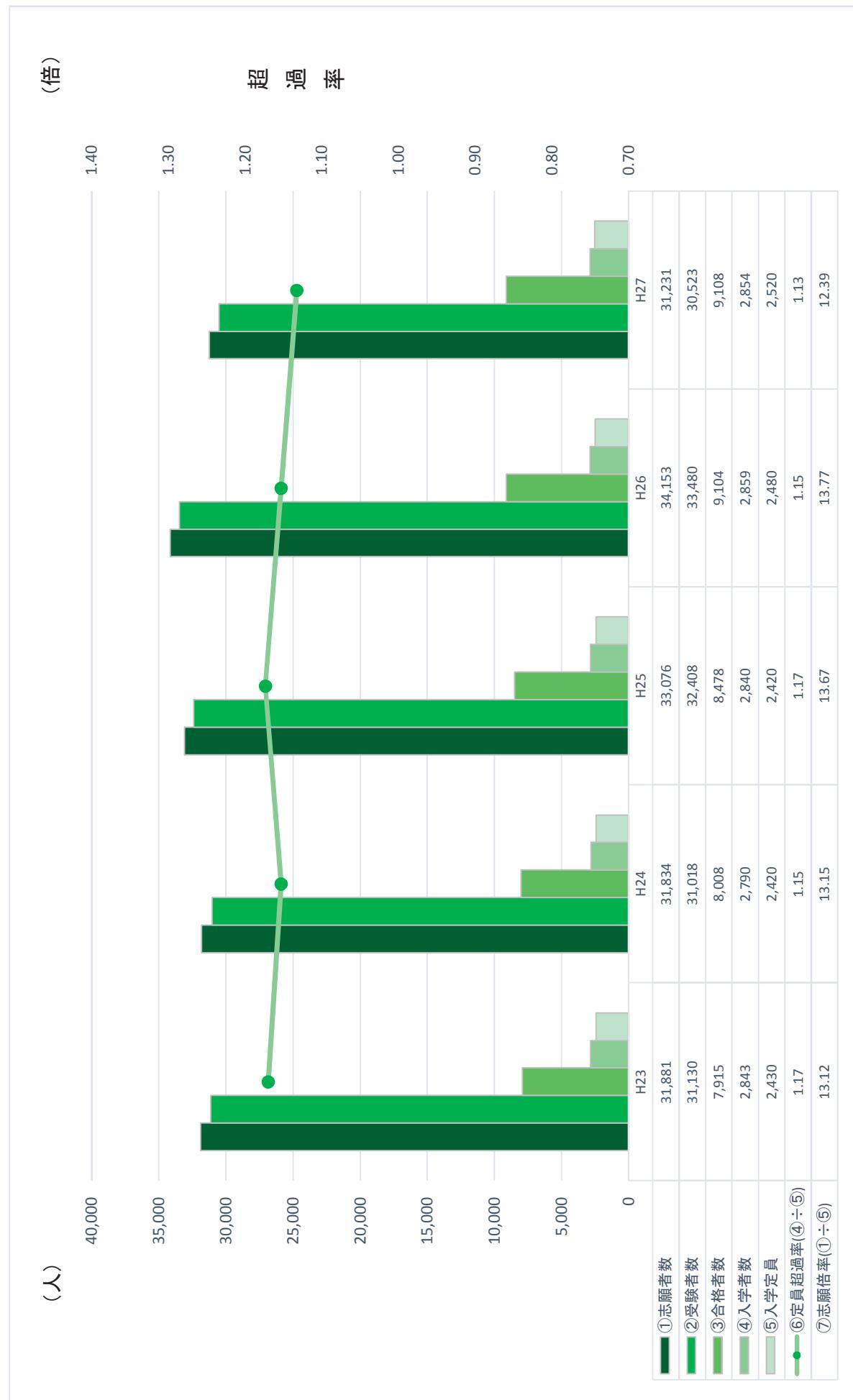
平成23年度～平成27年度 カテゴリー別志願倍率の推移



※志願倍率は志願者数を入学定員で除して算出した。

※本学以外の数値は日本私立学校振興・共済事業団が発行する「私立大学・短期大学等 入学志願動向」から算出している。

平成23年度～平成27年度 東京農業大学 入試動向



東京農業大学生命科学部（仮称）、
地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、
国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）への
高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

平成 28 年 2 月

一般財団法人 日本開発構想研究所

東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、
国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）への高校生の入学意向に関する
アンケート調査報告

1. 調査概要

（1） 調査目的

平成 29 年 4 月に予定している東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の開設に向けて、設置年度の進学対象層に対する東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）への入学意向を把握することを目的とする。

（2） 調査対象高校及び対象者

- ①近隣に所在する高等学校、または、東京農業大学に進学実績のある高等学校を中心
に 1 都 1 道 16 県（北海道、青森県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼
玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、三
重県、熊本県）に所在する高等学校の在学者で平成 29 年度大学進学対象となる高校
2 年生。
- ②東京農業大学が開催、または参加するキャンパス見学会、進学相談会に参加した平
成 29 年度大学進学対象となる高校 2 年生。

（3） 調査方法

- ①近隣に所在する高等学校、または、東京農業大学に進学実績のあるものを中心とした
高等学校 367 校へアンケート用紙及び東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境
科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の概要を
示したリーフレットを送付し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により
実施。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ高校から郵送。
- ②東京農業大学が開催、または参加するキャンパス見学会、進学相談会に参加した平
成 29 年度大学進学対象となる高校 2 年生に、会場、教室等で直接アンケート用紙に
記入する方法により実施。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ東京農業
大学から直接郵送。

この結果、①と②を合わせて、高校 2 年生 61,693 人から有効回答があった。

集計結果より、東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、
国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）への入学意向を分析した。

(4) 調査実施期間

平成 27 年 8 月～平成 28 年 2 月

(5) 有効回答者数

高校 2 年生 61,693 人

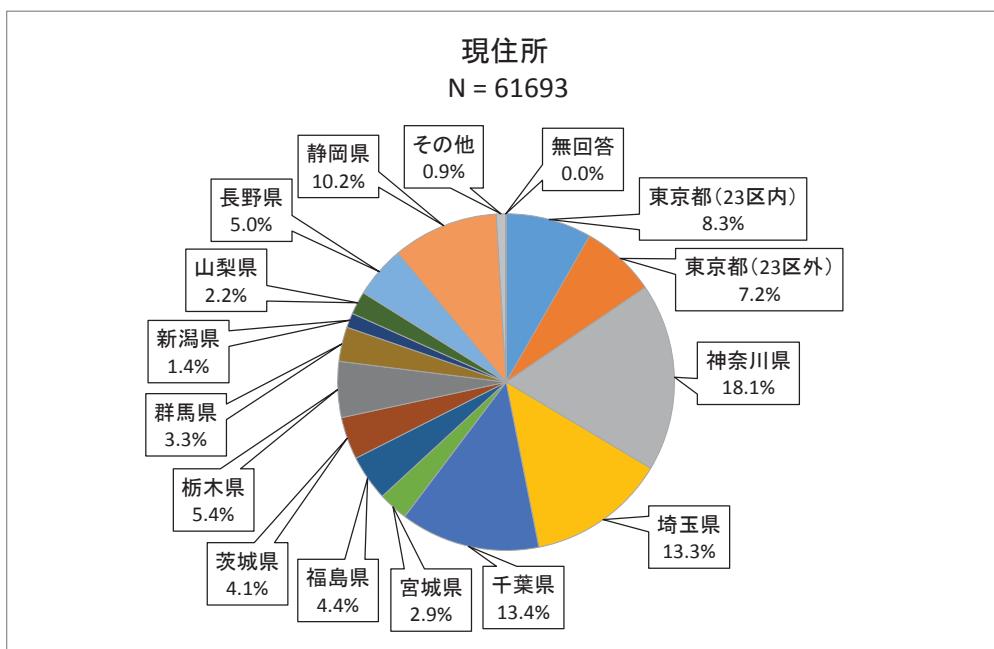
※東京農業大学にて設置を構想している生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科は仮称であるが、本文中ではその旨の表示を省略した。

2. 調査結果

(1) 現住所について

現住所について調査した結果、高校2年生61,693人のうち、「神奈川県」が11,144人(18.1%)と最も多く、次いで「千葉県」8,269人(13.4%)、「埼玉県」8,219人(13.3%)、「静岡県」6,280人(10.2%)、「東京都(23区内)」5,098人(8.3%)、「東京都(23区外)」4,460人(7.2%)、「栃木県」3,311人(5.4%)、「長野県」3,078人(5.0%)、「福島県」2,709人(4.4%)、「茨城県」2,517人(4.1%)、「群馬県」2,042人(3.3%)、「宮城県」1,764人(2.9%)、「山梨県」1,367人(2.2%)、「新潟県」865人(1.4%)、「その他」543人(0.9%)、「無回答」27人(0%)の順になっている。

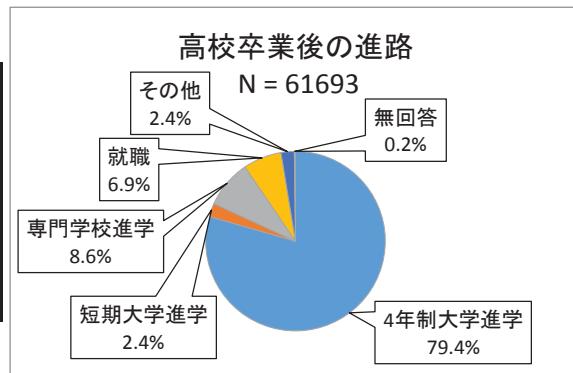
現住所			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京都(23区内)	5,098	8.3
2	東京都(23区外)	4,460	7.2
3	神奈川県	11,144	18.1
4	埼玉県	8,219	13.3
5	千葉県	8,269	13.4
6	宮城県	1,764	2.9
7	福島県	2,709	4.4
8	茨城県	2,517	4.1
9	栃木県	3,311	5.4
10	群馬県	2,042	3.3
11	新潟県	865	1.4
12	山梨県	1,367	2.2
13	長野県	3,078	5.0
14	静岡県	6,280	10.2
15	その他	543	0.9
	無回答	27	0.0
	N (%ベース)	61,693	100



(2) 高校卒業後の進路について

高校卒業後の進路について調査した結果、高校2年生61,693人のうち、49,007人（79.4%）が「4年制大学進学」を希望しており、「短期大学進学」は1,503人（2.4%）、合わせて50,510人（81.8%）が国内の高等教育機関への進学を希望している。さらに、「専門学校進学」5,308人（8.6%）を合わせると、55,818人（90.4%）が高等学校卒業後、進学を希望している。

高校卒業後の進路			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	4年制大学進学	49,007	79.4
2	短期大学進学	1,503	2.4
3	専門学校進学	5,308	8.6
4	就職	4,278	6.9
5	その他	1,472	2.4
	無回答	125	0.2
	N (%ベース)	61,693	100

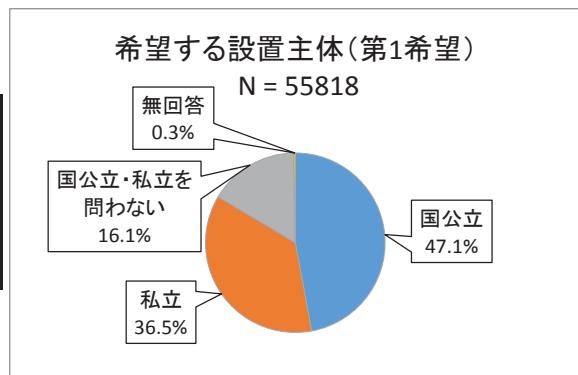


(3) 希望する設置主体について

3-1 希望する設置主体（第1希望）について

「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 55,818 人に、希望する設置主体（第1希望）について調査した。その結果は、「国公立」が 26,280 人（47.1%）と最も多く、次いで「私立」20,360 人（36.5%）、「国公立・私立を問わない」8,994 人（16.1%）、「無回答」184 人（0.3%）の順になっている。

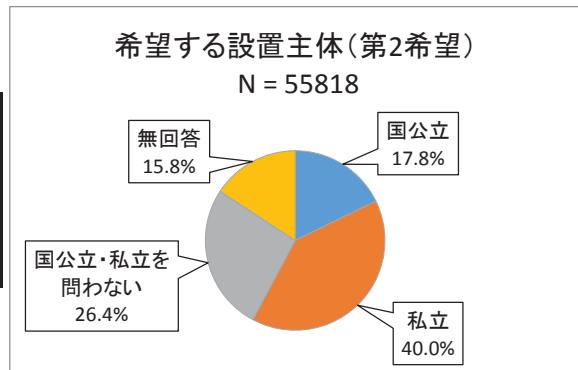
希望する設置主体(第1希望)		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	国公立	26,280 47.1
2	私立	20,360 36.5
3	国公立・私立を問わない	8,994 16.1
	無回答	184 0.3
	N (%ベース)	55,818 100



3-2 希望する設置主体（第2希望）について

「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 55,818 人に、希望する設置主体（第2希望）について調査した。その結果は、「私立」が 22,354 人（40.0%）と最も多く、次いで「国公立・私立を問わない」14,752 人（26.4%）、「国公立」9,910 人（17.8%）、「無回答」8,802 人（15.8%）の順になっている。

希望する設置主体(第2希望)		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	国公立	9,910 17.8
2	私立	22,354 40.0
3	国公立・私立を問わない	14,752 26.4
	無回答	8,802 15.8
	N (%ベース)	55,818 100



(4) 興味のある分野について

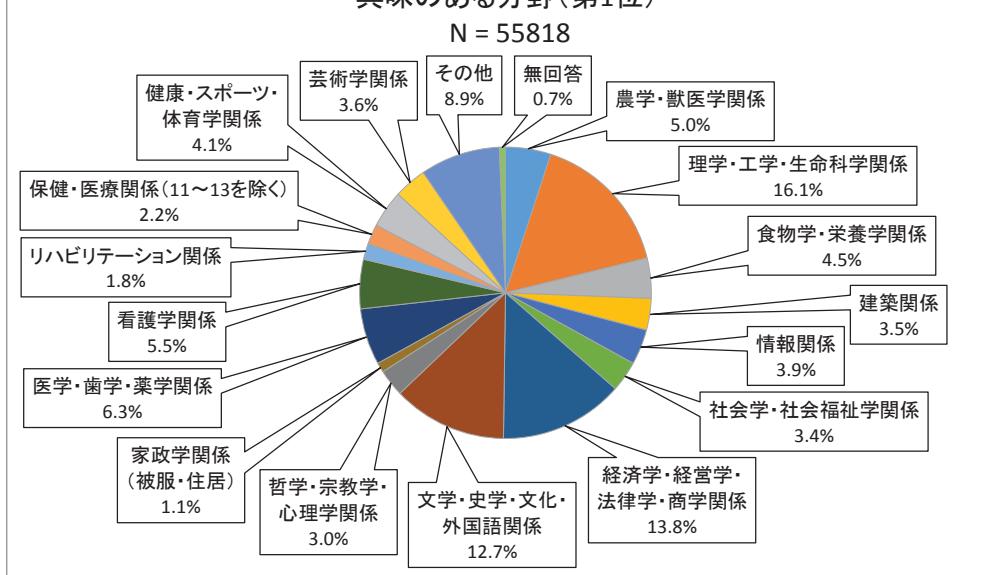
4-1 興味のある分野（第1位）について

「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 55,818 人に、興味のある分野（第1位）について調査した。その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「理学・工学・生命科学関係」が 8,998 人（16.1%）と最も多く、次いで「経済学・経営学・法律学・商学関係」7,695 人（13.8%）、「文学・史学・文化・外国語関係」7,066 人（12.7%）、「その他」4,944 人（8.9%）、「医学・歯学・薬学関係」3,496 人（6.3%）、「看護学関係」3,054 人（5.5%）、「農学・獣医学関係」2,810 人（5.0%）の順になっている。

興味のある分野（第1位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農学・獣医学関係	2,810	5.0
2	理学・工学・生命科学関係	8,998	16.1
3	食物学・栄養学関係	2,492	4.5
4	建築関係	1,953	3.5
5	情報関係	2,192	3.9
6	社会学・社会福祉学関係	1,892	3.4
7	経済学・経営学・法律学・商学関係	7,695	13.8
8	文学・史学・文化・外国語関係	7,066	12.7
9	哲学・宗教学・心理学関係	1,679	3.0
10	家政学関係(被服・住居)	604	1.1
11	医学・歯学・薬学関係	3,496	6.3
12	看護学関係	3,054	5.5
13	リハビリテーション関係	985	1.8
14	保健・医療関係(11～13を除く)	1,234	2.2
15	健康・スポーツ・体育学関係	2,316	4.1
16	芸術学関係	2,030	3.6
17	その他	4,944	8.9
	無回答	378	0.7
	N (%ベース)	55,818	100

興味のある分野（第1位）



4-2 興味のある分野（第2位）について

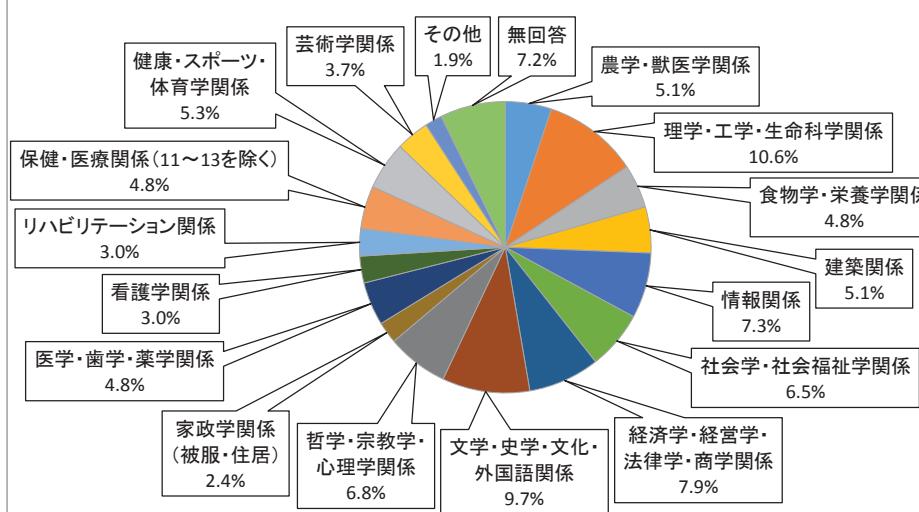
「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 55,818 人に、興味のある分野（第2位）について調査した。その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「理学・工学・生命科学関係」が 5,899 人（10.6%）と最も多く、次いで「文学・史学・文化・外国語関係」5,422 人（9.7%）、「経済学・経営学・法律学・商学関係」4,422 人（7.9%）、「情報関係」4,055 人（7.3%）、「無回答」4,043 人（7.2%）、「哲学・宗教学・心理学関係」3,813 人（6.8%）、「社会学・社会福祉学関係」3,617 人（6.5%）、「健康・スポーツ・体育学関係」2,975 人（5.3%）、「農学・獣医学関係」2,863 人（5.1%）、「建築関係」2,847 人（5.1%）の順になっている。

興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農学・獣医学関係	2,863	5.1
2	理学・工学・生命科学関係	5,899	10.6
3	食物学・栄養学関係	2,701	4.8
4	建築関係	2,847	5.1
5	情報関係	4,055	7.3
6	社会学・社会福祉学関係	3,617	6.5
7	経済学・経営学・法律学・商学関係	4,422	7.9
8	文学・史学・文化・外国語関係	5,422	9.7
9	哲学・宗教学・心理学関係	3,813	6.8
10	家政学関係(被服・住居)	1,337	2.4
11	医学・歯学・薬学関係	2,686	4.8
12	看護学関係	1,659	3.0
13	リハビリテーション関係	1,693	3.0
14	保健・医療関係(11～13を除く)	2,660	4.8
15	健康・スポーツ・体育学関係	2,975	5.3
16	芸術学関係	2,061	3.7
17	その他	1,065	1.9
	無回答	4,043	7.2
	N (%ペース)	55,818	100

興味のある分野(第2位)

N = 55818



4・3 興味のある分野（第3位）について

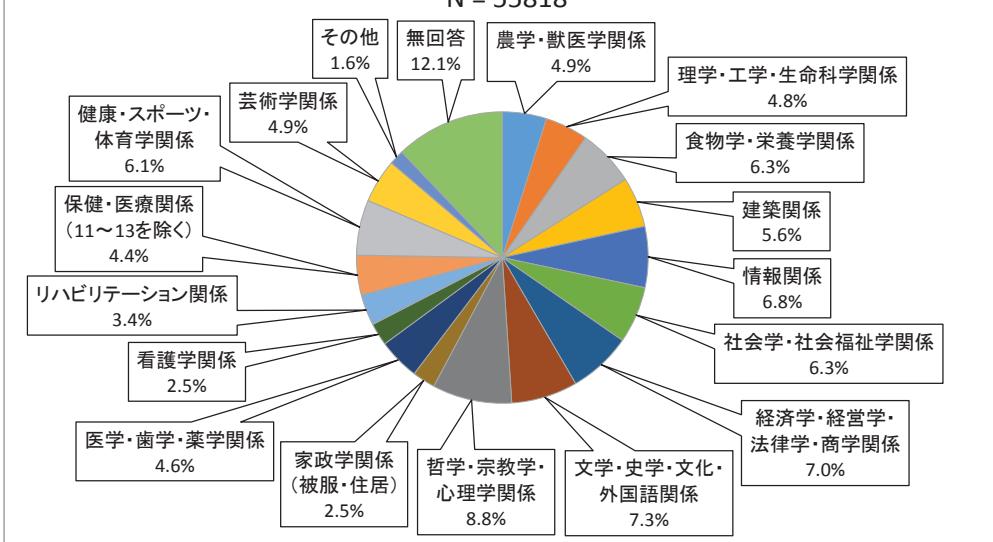
「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 55,818 人に、興味のある分野（第3位）について調査した。その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「無回答」が 6,763 人（12.1%）と最も多く、次いで「哲学・宗教学・心理学関係」4,924 人（8.8%）、「文学・史学・文化・外国語関係」4,099 人（7.3%）、「経済学・経営学・法律学・商学関係」3,911 人（7.0%）、「情報関係」3,781 人（6.8%）、「食物学・栄養学関係」3,539 人（6.3%）、「社会学・社会福祉学関係」3,513 人（6.3%）、「健康・スポーツ・体育学関係」3,421 人（6.1%）、「建築関係」3,099 人（5.6%）の順になっている。

興味のある分野(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農学・獣医学関係	2,738	4.9
2	理学・工学・生命科学関係	2,652	4.8
3	食物学・栄養学関係	3,539	6.3
4	建築関係	3,099	5.6
5	情報関係	3,781	6.8
6	社会学・社会福祉学関係	3,513	6.3
7	経済学・経営学・法律学・商学関係	3,911	7.0
8	文学・史学・文化・外国語関係	4,099	7.3
9	哲学・宗教学・心理学関係	4,924	8.8
10	家政学関係(被服・住居)	1,417	2.5
11	医学・歯学・薬学関係	2,564	4.6
12	看護学関係	1,389	2.5
13	リハビリテーション関係	1,920	3.4
14	保健・医療関係(11～13を除く)	2,466	4.4
15	健康・スポーツ・体育学関係	3,421	6.1
16	芸術学関係	2,712	4.9
17	その他	910	1.6
	無回答	6,763	12.1
	N (%ペースト)	55,818	100

興味のある分野(第3位)

N = 55818

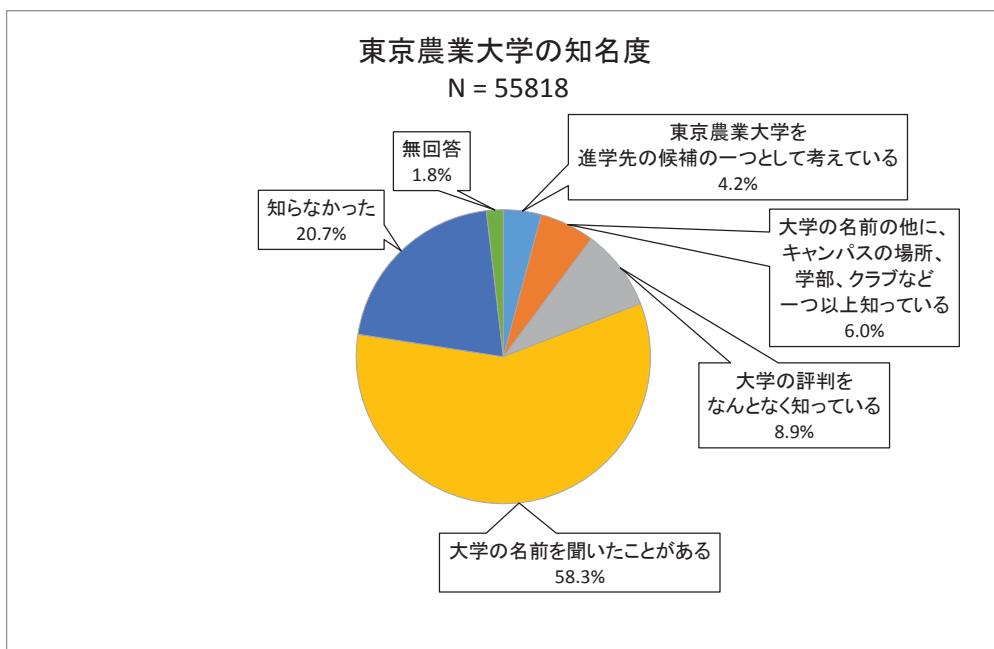


(5) 東京農業大学の知名度について

「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 55,818 人に、東京農業大学の知名度について調査した。その結果は、「大学の名前を聞いたことがある」が 32,552 人（58.3%）と最も多く、次いで「知らなかった」 11,564 人（20.7%）、「大学の評判をなんとなく知っている」 4,986 人（8.9%）、「大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている」 3,368 人（6.0%）、「東京農業大学を進学先の候補の一つとして考えている」 2,321 人（4.2%）、「無回答」 1,027 人（1.8%）の順になっている。

東京農業大学の知名度

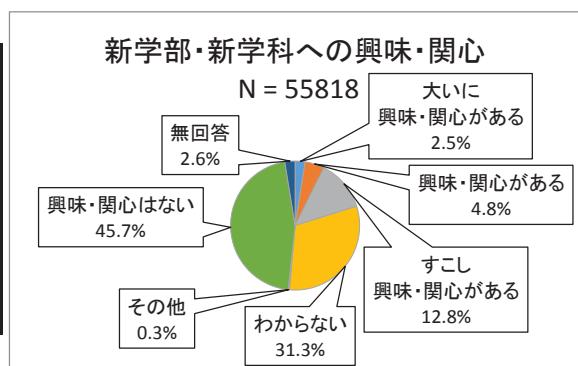
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京農業大学を進学先の候補の一つとして考えている	2,321	4.2
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている	3,368	6.0
3	大学の評判をなんとなく知っている	4,986	8.9
4	大学の名前を聞いたことがある	32,552	58.3
5	知らなかった	11,564	20.7
	無回答	1,027	1.8
	N (%ベース)	55,818	100



(6) 新学部・新学科への興味・関心について

「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 55,818 人のうち、東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科について「大いに興味・関心がある」と回答したのは 1,398 人（2.5%）である。また、「興味・関心がある」2,706 人（4.8%）、「すこし興味・関心がある」7,143 人（12.8%）との回答があり、「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」の合計 11,247 人（20.1%）が東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科に興味を示している。

新学部・新学科への興味・関心		件数	(全体)%
No.	カテゴリ		
1	大いに興味・関心がある	1,398	2.5
2	興味・関心がある	2,706	4.8
3	すこし興味・関心がある	7,143	12.8
4	わからない	17,461	31.3
5	その他	160	0.3
6	興味・関心はない	25,522	45.7
	無回答	1,428	2.6
	N (%ベース)	55,818	100



(7) 興味・関心の理由について（複数回答）

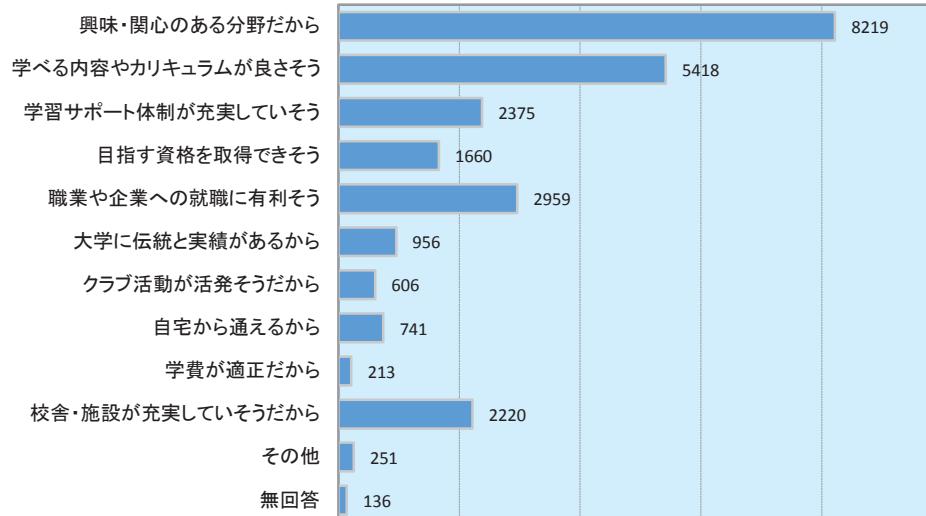
興味・関心の理由については、「(6) 新学部・新学科への興味・関心について」にて東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科に興味・関心を示した 11,247 人のうち、「興味・関心のある分野だから」が 8,219 人 (73.1%) と最も多く、次いで「学べる内容やカリキュラムが良さそう」 5,418 人 (48.2%)、「職業や企業への就職に有利そう」 2,959 人 (26.3%)、「学習サポート体制が充実していそう」 2,375 人 (21.1%)、「校舎・施設が充実していそうだから」 2,220 人 (19.7%)、「目指す資格を取得できそう」 1,660 人 (14.8%)、「大学に伝統と実績があるから」 956 人 (8.5%)、「自宅から通えるから」 741 人 (6.6%)、「クラブ活動が活発そうだから」 606 人 (5.4%)、「その他」 251 人 (2.2%)、「学費が適正だから」 213 人 (1.9%)、「無回答」 136 人 (1.2%) の順になっている。

興味・関心の理由(複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	8,219	73.1
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	5,418	48.2
3	学習サポート体制が充実していそう	2,375	21.1
4	目指す資格を取得できそう	1,660	14.8
5	職業や企業への就職に有利そう	2,959	26.3
6	大学に伝統と実績があるから	956	8.5
7	クラブ活動が活発そうだから	606	5.4
8	自宅から通えるから	741	6.6
9	学費が適正だから	213	1.9
10	校舎・施設が充実していそうだから	2,220	19.7
11	その他	251	2.2
	無回答	136	1.2
	N (%ベース)	11,247	100

興味・関心の理由(複数回答)

N = 11247

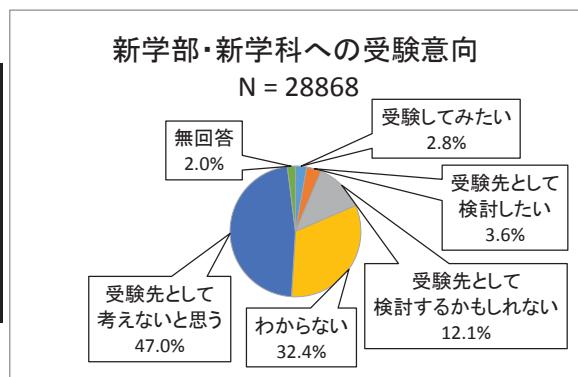


(8) 新学部・新学科への受験意向について

「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 55,818 人のうち、「(6) 新学部・新学科への興味・関心について」にて「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」、「わからない」、「その他」と回答した 28,868 人に、東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科への受験意向について調査した。

その結果は、「受験してみたい」 798 人 (2.8%)、「受験先として検討したい」 1,048 人 (3.6%)、「受験先として検討するかもしれない」 3,504 人 (12.1%) の合計 5,350 人 (18.5%) が東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科への受験意向を示している。

新学部・新学科への受験意向		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	受験してみたい	798 2.8
2	受験先として検討したい	1,048 3.6
3	受験先として検討するかもしれない	3,504 12.1
4	わからない	9,365 32.4
5	受験先として考えないと思う	13,579 47.0
	無回答	574 2.0
	N (%ベース)	28,868 100

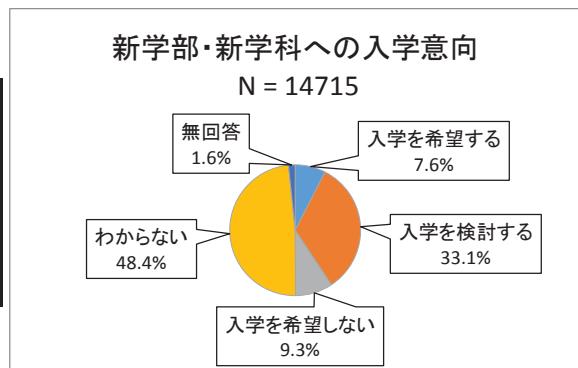


(9) 新学部・新学科への入学意向について

「(8) 新学部・新学科への受験意向について」にて、東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科への受験意向を示した 5,350 人と、「わからない」と回答した 9,365 人、合計 14,715 人に、東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科を受験し、合格した場合の入学意向について調査した。

その結果は、「入学を希望する」が 1,113 人 (7.6%)、「入学を検討する」が 4,870 人 (33.1%) となり、合計 5,983 人 (40.7%) が東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科への入学意向を示している。

新学部・新学科への入学意向		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	入学を希望する	1,113 7.6
2	入学を検討する	4,870 33.1
3	入学を希望しない	1,362 9.3
4	わからない	7,128 48.4
	無回答	242 1.6
	N (%ベース)	14,715 100



(10) 入学を希望する新学部・新学科について

10-1 入学を希望する新学部・新学科（第1希望）について

「(9) 新学部・新学科への入学意向について」にて、東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科への入学意向を示した 5,983 人に、入学を希望する新学部・新学科（第1希望）について調査した。

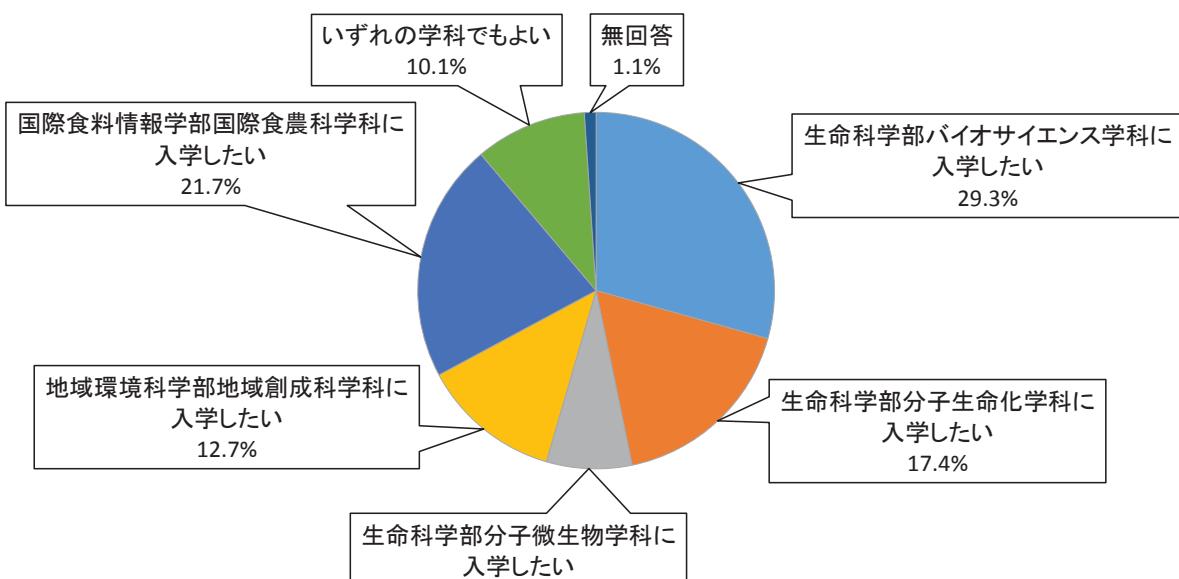
その結果は、「生命科学部バイオサイエンス学科に入学したい」が 1,756 人（29.3%）と最も多く、次いで「国際食料情報学部国際食農科学科に入学したい」 1,297 人（21.7%）、「生命科学部分子生命化学科に入学したい」 1,041 人（17.4%）、「地域環境科学部地域創成科学科に入学したい」 757 人（12.7%）、「いずれの学科でもよい」 605 人（10.1%）、「生命科学部分子微生物学科に入学したい」 464 人（7.8%）、「無回答」 63 人（1.1%）の順になっている。

入学を希望する新学部・新学科（第1希望）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	生命科学部バイオサイエンス学科に入学したい	1,756	29.3
2	生命科学部分子生命化学科に入学したい	1,041	17.4
3	生命科学部分子微生物学科に入学したい	464	7.8
4	地域環境科学部地域創成科学科に入学したい	757	12.7
5	国際食料情報学部国際食農科学科に入学したい	1,297	21.7
6	いずれの学科でもよい	605	10.1
	無回答	63	1.1
	N (%ベース)	5,983	100

入学を希望する新学部・新学科（第1希望）

N = 5983



10-2 入学を希望する新学部・新学科（第2希望）について

「(9) 新学部・新学科への入学意向について」にて、東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科への入学意向を示した 5,983 人に、入学を希望する新学部・新学科（第2希望）について調査した。

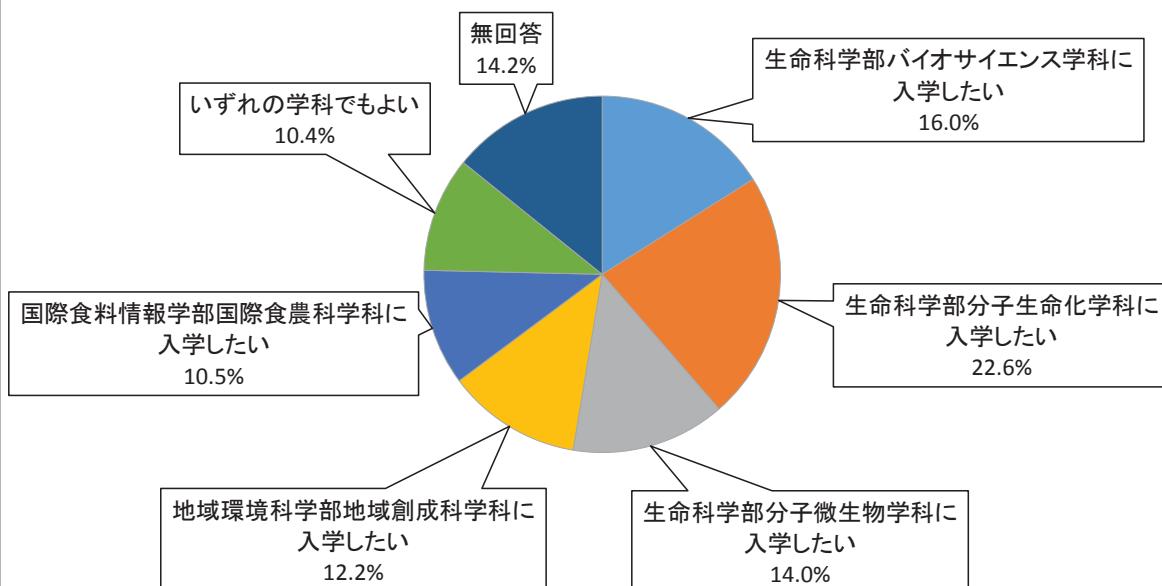
その結果は、「生命科学部分子生命化学科に入学したい」が 1,351 人（22.6%）と最も多く、次いで「生命科学部バイオサイエンス学科に入学したい」960 人（16.0%）、「無回答」850 人（14.2%）、「生命科学部分子微生物学科に入学したい」837 人（14.0%）、「地域環境科学部地域創成科学科に入学したい」730 人（12.2%）、「国際食料情報学部国際食農科学科に入学したい」631 人（10.5%）、「いずれの学科でもよい」624 人（10.4%）の順になっている。

入学を希望する新学部・新学科（第2希望）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	生命科学部バイオサイエンス学科に入学したい	960	16.0
2	生命科学部分子生命化学科に入学したい	1,351	22.6
3	生命科学部分子微生物学科に入学したい	837	14.0
4	地域環境科学部地域創成科学科に入学したい	730	12.2
5	国際食料情報学部国際食農科学科に入学したい	631	10.5
6	いずれの学科でもよい	624	10.4
	無回答	850	14.2
	N (%ベース)	5,983	100

入学を希望する新学部・新学科（第2希望）

N = 5983



3. 調査結果のまとめ

「(9) 新学部・新学科への入学意向について」と、「(10) 10-1 入学を希望する新学部・新学科（第1希望）について」の調査結果をクロス集計した結果は下表である。

入学意向 × 希望学科(第1志望)

希望学科 (第1志望)	上段:度数 下段:%	入学意向		
		合計	入学を希望する	入学を検討する
希望学科 (第1志望)	全体	5,983 100.0	1,113 18.6	4,870 81.4
	生命科学部バイオサイエンス学科に入学したい	1,756 100.0	414 23.6	1,342 76.4
	生命科学部分子生命化学科に入学したい	1,041 100.0	155 14.9	886 85.1
	生命科学部分子微生物学科に入学したい	464 100.0	120 25.9	344 74.1
	地域環境科学部地域創成科学科に入学したい	757 100.0	114 15.1	643 84.9
	国際食料情報学部国際食農科学科に入学したい	1,297 100.0	236 18.2	1,061 81.8
	いずれの学科でもよい	605 100.0	67 11.1	538 88.9
	無回答	63 100.0	7 11.1	56 88.9

① 生命科学部バイオサイエンス学科について

「入学を希望する」と回答した高校2年生は414人となり、東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の入学定員140人に対し、約2.95倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校2年生は合計1,756人となり、東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の入学定員140人に対し、約12.54倍の入学意向を示している。

② 生命科学部分子生命化学科について

「入学を希望する」と回答した高校2年生は155人となり、東京農業大学生命科学部分子生命化学科の入学定員115人に対し、約1.34倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校2年生は合計1,041人となり、東京農業大学生命科学部分子生命化学科の入学定員115人に対し、約9.05倍の入学意向を示している。

③ 生命科学部分子微生物学科について

「入学を希望する」と回答した高校2年生は120人となり、東京農業大学生命科学部分子微生物学科の入学定員115人に対し、約1.04倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校2年生は合計464人となり、東京農業大学生命科学部分子微生物学科の入学定員115人に対し、約4.03倍の入学意向を示している。

④ 地域環境科学部地域創成科学科について

「入学を希望する」と回答した高校2年生は114人となり、東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科の入学定員80人に対し、約1.42倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校2年生は合計757人となり、東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科の入学定員80人に対し、約9.46倍の入学意向を示している。

⑤ 国際食料情報学部国際食農科学科について

「入学を希望する」と回答した高校2年生は236人となり、東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科の入学定員100人に対し、2.36倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校2年生は合計1,297人となり、東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科の入学定員100人に対し、12.97倍の入学意向を示している。

以上の調査結果と、調査対象の高等学校以外からの高校生の進学も考えられることから、東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科の各学科の入学定員を満たす学生は十分に確保できるものと考える。

調査票

東京農業大学 生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、
国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)設置に係るアンケート調査

- ・このアンケート調査は2017年4月に設置を予定している新学部・学科の設置構想の基礎資料とするため、高校2年生のみなさんの卒業後の進路等についてお聞きするものです。ご協力ををお願いいたします。
- ・このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。

回答は、該当する番号を回答欄へ直接記入してください。

[あなたに関することについてお答えください]

【回答欄】

問1 あなたの学年をおたずねします。

- 1 高校1年生 2 高校2年生 3 高校3年生

問2 あなたの性別についておたずねします。

- 1 男子 2 女子

問3 あなたのお住まい(現住所)についておたずねします。

- | | | | |
|-------------|-------|--------|-----------|
| 1 東京都(23区内) | 5 千葉県 | 9 栃木県 | 13 長野県 |
| 2 東京都(23区外) | 6 宮城県 | 10 群馬県 | 14 静岡県 |
| 3 神奈川県 | 7 福島県 | 11 新潟県 | 15 その他() |
| 4 埼玉県 | 8 茨城県 | 12 山梨県 | |

[卒業後の進路についてお答えください]

問4 あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 4年制大学進学
2 短期大学進学
3 専門学校進学
4 就職
5 その他()

}

1、2、3を選ばれた方は問5へお進みください。
4、5を選ばれた方は本アンケート終了です。

問5 あなたはどのような設置主体の学校に進学したいですか。次の中からあてはまるものを第2希望まで選んでください。

- 1 国公立
2 私立
3 国公立・私立を問わない

第1希望

第2希望

問6 あなたは進学先(4年制大学、短期大学、専門学校)で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていらっしゃいますか。次の中であてはまるものを第3位まで選んでください。

- | | | |
|--------------------|----------------------|-----|
| 1 農学・獣医学関係 | 10 家政学関係(被服・住居) | 第1位 |
| 2 理学・工学・生命科学関係 | 11 医学・歯学・薬学関係 | |
| 3 食物学・栄養学関係 | 12 看護学関係 | |
| 4 建築関係 | 13 リハビリテーション関係 | |
| 5 情報関係 | 14 保健・医療関係(11~13を除く) | 第2位 |
| 6 社会学・社会福祉学関係 | 15 健康・スポーツ・体育学関係 | |
| 7 経済学・経営学・法律学・商学関係 | 16芸術学関係 | |
| 8 文学・史学・文化・外国語関係 | 17 その他(具体的に) | 第3位 |
| 9 哲学・宗教学・心理学関係 | | |

第2位

第3位

一次の頁へお進みくださいー

ここからは生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、
国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)の概要(リーフレット)と、
類似する近隣の大学・学部・学科一覧をご覧いただいた上でお答えください。

問 7 あなたは東京農業大学を知っていますか。次の中から 1 つだけ選んでください。

【回答欄】

- 1 東京農業大学を進学先の候補の一つとして考えている
- 2 大学の名前その他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている
- 3 大学の評判をなんとなく知っている
- 4 大学の名前を聞いたことがある
- 5 知らなかった

問 8 あなたは東京農業大学の生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)について、どのように考えますか。次の中から 1 つだけ選んでください。

- 1 大いに興味・関心がある
- 2 興味・関心がある
- 3 すこし興味・関心がある
- 4 わからない
- 5 その他(具体的に)
- 6 興味・関心はない

} 1、2、3 を選ばれた方は問 9 へお進み下さい。
4、5 を選ばれた方は問 10 へお進み下さい。
6 を選ばれた方は本アンケート終了です。

問 9 問 8 で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「すこし興味・関心がある」と回答された方におたずねします。それは、どのような理由からですか。次の中から 3 つまで選んでください。回答後は問 10 へお進みください。

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 興味・関心のある分野だから | 7 クラブ活動が活発だから |
| 2 学べる内容やカリキュラムが良さそう | 8 自宅から通えるから |
| 3 学習サポート体制が充実している | 9 学費が適正だから |
| 4 目指す資格を取得できそう | 10 校舎・施設が充実しているから |
| 5 職業や企業への就職に有利そう | 11 その他
(具体的に) |
| 6 大学に伝統と実績があるから | |

問 10 あなたは東京農業大学の生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)を受験したいと思いますか。次の中から 1 つだけ選んでください。

- 1 受験してみたい
- 2 受験先として検討したい
- 3 受験先として検討するかもしれない
- 4 わからない
- 5 受験先として考えないと思う

} 1、2、3、4 を選ばれた方は問 11 へお進み下さい。
5 を選ばれた方は本アンケート終了です。

問 11 東京農業大学の生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)を受験し、合格した場合の入学意向について次の中から 1 つだけ選んでください。

- 1 入学を希望する
- 2 入学を検討する
- 3 入学を希望しない
- 4 わからない

} 1、2 を選ばれた方は問 12 へお進みください。
3、4 を選ばれた方は本アンケート終了です。

問 12 問 11 で「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答された方におたずねします。生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)のうち、どちらの学科に入学したいですか。第 2 希望まで選んでください。

- 1 生命科学部バイオサイエンス学科(仮称)に入学したい
- 2 生命科学部分子生命化学科(仮称)に入学したい
- 3 生命科学部分子微生物学科(仮称)に入学したい
- 4 地域環境科学部地域創成科学科(仮称)に入学したい
- 5 国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)に入学したい
- 6 いずれの学科でもよい

第 1 希望

第 2 希望

◆ご協力ありがとうございました

新学部・新学科と類似する近隣の大学・学部・学科一覧

東京農業大学 新学部・新学科：
生命科学部（仮称）：バイオサイエンス学科（仮称）、分子生命化学科（仮称）、分子微生物学科（仮称）
地域環境科学部：地域創成科学科（仮称） 国際食料情報学部：国際食農科学科（仮称）

所在地	区分	大学名	学部名	学科名	専攻（コース）名	入学定員	入学金	授業料	施設設備費	実験・実習・体育費	教育充実費特別納付金	維持費他	合計
生命科学部 バイオサイエンス学科（仮称）													
東京都	私立	玉川大学	農学部	生命化学科		100	250,000	1,029,000	250,000	275,200	0	0	1,804,200
東京都	私立	帝京科学大学	生命環境学部	生命科学科		80	200,000	860,000	200,000	180,000	0	40,000	1,480,000
東京都	私立	東洋大学	生命科学部	生命科学科		100	250,000	970,000	260,000	70,000	0	0	1,550,000
東京都	私立	日本大学	工学部	生命応用化学科		160	260,000	900,000	220,000	80,000	0	0	1,460,000
東京都	私立	日本獣医学研究所	応用生命科学部	食品科学科		80	250,000	750,000	300,000	100,000	200,000	20,000	1,620,000
東京都	私立	明治大学	農学部	農芸化学科		130	200,000	1,129,000	0	80,000	312,000	0	1,721,000
東京都	私立	東京農業大学	生命科学部（仮称）	バイオサイエンス学科（仮称）		140	270,000	760,000	230,000	250,000	0	25,600	1,535,600
生命科学部 分子生命化学科（仮称）													
東京都	私立	青山学院大学	理工学部	化学・生命科学科		110	200,000	1,191,000	257,000	90,000	0	0	1,738,000
東京都	私立	工学院大学	先進工学部	生命化学科		70	200,000	998,000	300,000	100,000	0	0	1,598,000
東京都	私立	東京薬科大学	生命科学部	分子生命科学科		60	260,000	1,110,000	480,000	0	0	0	1,850,000
東京都	私立	日本大学	生産工学部	応用分子化学科		160	260,000	1,000,000	220,000	80,000	0	0	1,560,000
東京都	私立	明星大学	理工学部	総合理工学科	生命科学・化学系	400	250,000	940,000	300,000	100,000	0	0	1,590,000
神奈川県	私立	神奈川大学	工学部	物質生命科学科		165	300,000	760,000	310,000	150,000	0	0	1,520,000
東京都	私立	東京農業大学	生命科学部（仮称）	分子生命科学科（仮称）		115	270,000	760,000	230,000	250,000	0	25,600	1,535,600
生命科学部 分子微生物学科（仮称）													
東京都	私立	中央大学	理工学部	生命科学科		70	240,000	1,108,000	252,400	103,400	0	0	1,703,800
東京都	私立	東洋大学	生命科学部	応用生物科学科	微生物利用コース	100	250,000	970,000	260,000	70,000	0	0	1,550,000
東京都	私立	日本大学	生物資源科学部	生命化学科		130	260,000	1,050,000	200,000	150,000	0	0	1,660,000
東京都	私立	法政大学	生命科学部	応用植物科学科	グリーンテクノロジーコース	78	180,000	1,111,000	312,000	147,000	0	0	1,750,000
神奈川県	私立	神奈川工科大学	応用バイオ科学部	応用バイオ科学科		120	170,000	1,370,000	0	0	0	0	1,540,000
静岡県	私立	静岡理工科大学	理工学部	物質生命科学科		60	300,000	1,240,000	0	0	0	0	1,540,000
東京都	私立	東京農業大学	生命科学部（仮称）	分子微生物学科（仮称）		115	270,000	760,000	230,000	250,000	0	25,600	1,535,600
地域環境科学部 地域創成科学科（仮称）													
東京都	私立	芝浦工業大学	システム理工学部	環境システム学科		80	280,000	1,099,000	283,000	0	0	0	1,662,000
東京都	私立	中央大学	理工学部	都市環境学科	環境クリエーターコース	80	240,000	1,108,000	252,400	103,400	0	0	1,703,800
東京都	私立	東京都市大学	環境学部	環境創生学科		90	270,000	1,220,000	0	0	0	0	1,490,000
東京都	私立	東邦大学	理学部	生命圈環境科学科		60	300,000	992,000	0	0	300,000	0	1,592,000
東京都	私立	日本大学	生物資源科学部	生物環境工学科		130	260,000	1,050,000	200,000	150,000	0	0	1,660,000
東京都	私立	明治大学	農学部	農学科	食糧生産・環境コース	130	200,000	1,129,000	0	80,000	312,000	0	1,721,000
東京都	私立	東京農業大学	地域環境科学部	地域創成科学科（仮称）		80	270,000	760,000	230,000	150,000	0	25,600	1,435,600
国際食料情報学部 国際食農科学科（仮称）													
千葉県	私立	城西国際大学	環境社会学部	環境社会学科		80	300,000	770,000	240,000	0	0	0	1,310,000
東京都	私立	東洋大学	食環境科学部	食環境科学科	フードサイエンス専攻 (学科合計)	120	250,000	970,000	260,000	70,000	0	0	1,550,000
東京都	私立	日本大学	生物資源科学部	国際地域開発学科	農業・農村開発コース	130	260,000	850,000	170,000	100,000	0	0	1,380,000
東京都	私立	法政大学	生命科学部	応用植物科学科	グリーンマネジメントコース	78	180,000	1,111,000	312,000	147,000	0	0	1,750,000
東京都	私立	明治大学	農学部	食料環境政策学科		130	200,000	1,020,000	0	40,000	307,000	0	1,567,000
東京都	私立	明治大学	農学部	農学科	総合農学コース	130	200,000	1,129,000	0	80,000	312,000	0	1,721,000
東京都	私立	東京農業大学	国際食料情報学部	国際食農科学科（仮称）		100	270,000	760,000	230,000	200,000	0	25,600	1,485,600

注1) 各大学情報については、学生納付金等調査（平成27年度入学生（日本私立大学団体連合会））および平成26年度全国大学一覧（公益財團法人人文教協会）より転載。

注2) 各大学の学費については、諸会費などを含んでいない場合があるため、概算として参考にして下さい。

注3) 東京農業大学の学費は予定であり、変更する場合があります。

お問い合わせ先

東京農業大学 大学改革推進室
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
電話：03-5477-2650 FAX：03-5477-2804

「農のこころ」を育み “生きる”を支える東京農業大学



東京農業大学学長
農学博士 高野 克己



進化する東京農業大学

2017年4月設置構想中

新設 生命科学部※<仮称> 世田谷キャンパス

新設 バイオサイエンス学科※<仮称> 定員140名

新設 分子生命化学科※<仮称> 定員80名

新設 分子微生物学科※<仮称> 定員115名

新設 地球環境科学部 世田谷キャンパス

新設 地域創成科学科※<仮称> 定員80名

新設 国際食料情報学部 世田谷キャンパス

新設 国際食農科学科※<仮称> 定員100名

東京農大は生命・食料・環境・建築・エネルギー・地域再生など、人類の生存に関する幅広い農学領域を対象に、国内外の様々な課題解決に取り組んでいます。

人類はその歴史により自然の恵みを享受し、高度に複雑化した現代社会を創造しました。一方では、人口増加による食料危機、水不足、生活環境の悪化、経済格差の拡大など、地球とそこに生きる多様な生き物、人類の生存を脅かす課題に直面しています。東京農大は建学の精神「人物を畑に還す」と教育・研究の理念「実学主義」に基づき、世界水準の先端研究と生命を大切にする「農のこころ」を育む実践教育を推進し、未來の問題を解決できる人物をグローバル社会に輩出します。

東京農大は農と生命を科学し、“生きる”を支えるエシカル（環境保全・社会貢献など）な社会の構築を目指します。

●国際食料情報学部

東京農大が世界無形文化遺産に、「能日本舞」が世界無形文化遺産に、「能日本舞」が世界無形文化遺産に登録されるなど、伝統的農業文化に対する認識が世界で高まっています。こうした背景から、農業生産をとりまく社会では、地域の農業文化を継承し世界に発信していくことのできる人材、また、農業を基盤とした経営のひろがりや農業への発展に貢献できる人材、さらには世界市場に向けた経営開拓を実現できる人材の育成がかけられています。そのため、日本と世界の食料・農業・農村問題の解決のために、総合的に情報の発信する人材を育むことを目的として、持続可能な循環型社会の構築に貢献し、地域で活躍できる人材の育成をめざします。

※学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。

東京農業大学
TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE FOUNDED IN 1891



キャラバンより新物方面を望む



学生がひろがる「ユリノキ広場」は学生の気ностリート



6階建ての講義棟・1号館

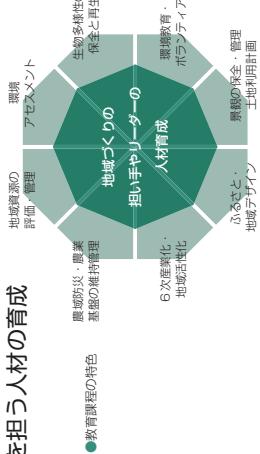
緑あふれる都市型キャンパス

東京農業大学のメインキャンパスである世田谷キャンパスは、小田急線駅を最も乗り換えている。新宿まで30分強、渋谷へは正門前バス停からやはり30分程度ということもあり、非常に都心にアクセスしやすい立地にあります。広い敷地内には、100種類以上の樹木があられ、落ち葉した雰囲気で包まれています。講義棟である1号館、図書館やコンピュータセンターが入った「農大アカデミーセンター」など、新校舎も次々に誕生しています。



地域創成科学部 ※1 <仮称／設置構想中>

里山などの「地域」の伝統的な文化や知識と最新の技術を融合させ、持続可能な土地利用の構築、地域づくりの実現に貢献します。地域が抱える問題を総合的に捉え、生物多様性や生態系に配慮した地利運用、地域防災に関連する保全・管理技術、環境教育、改築立案、地域マネジメントといった実践型教育を通じて、地域づくりの担い手やリーダーになり得る人材の育成を目指します。



■ 設置资格(予定)
生物学・農業栽培・園芸・畜産・獣医学・生物資源工学、農業土木、自然生土保、樹木医學、園芸士等、
准教授、助教、准助教、助教等級。
■ 教育課程の特色
和食文化・農業栽培・園芸・畜産等の伝統的な農業文化、食文化に対する理解と最新技術の融合による農業の活性化。
■ 予想される道路
大学院、農業資源、植物資源、土木、園芸、農業協同組合、電気、レクリエーション、地方自治体、教員など
■ ホームページ
www.nodai.ac.jp



国際食農科学部 ※1 <仮称／設置構想中>



■ 設置資格(予定)
生物学・農業栽培・園芸・畜産・獣医学・生物資源工学、農業土木、自然生土保、樹木医學、園芸士等級。
■ 教育課程の特色
和食文化・農業栽培・園芸・畜産等の伝統的な農業文化、食文化に対する理解と最新技術の融合による農業の活性化。
■ 予想される道路
大学院、農業資源、植物資源、土木、園芸、農業協同組合、電気、レクリエーション、地方自治体、教員など
■ ホームページ
www.nodai.ac.jp

世界に向けて日本の食農技術・文化を展開

日本の食と農に関する文化、それらを支える栽培技術や加工技術は、今日、世界的に注目を集めています。本学科では、農学の柱となる生産科学系、食品科学系、食農文化系、食農改善系、食農教育系など多くの多様性のある教育システムで、総合的に食と農の伝統と新たな発展の可能性を理解し、視野で活躍できる人材の育成を目指します。

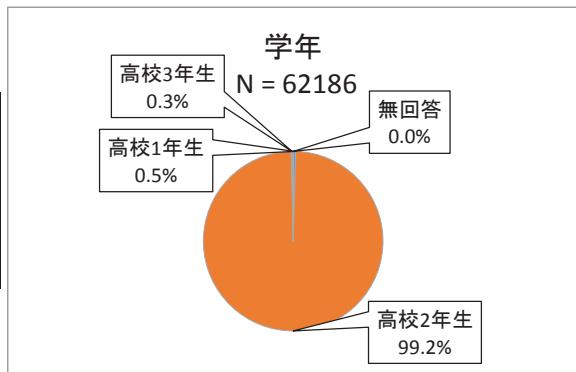
東京農業大学
www.nodai.ac.jp
TEL 03-5477-2226 (入試センター)
お問い合わせ先
〒156-8502 東京都世田谷区袋丘 1-1-1
TEL 03-5477-2226 (入試センター)

※1 学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。

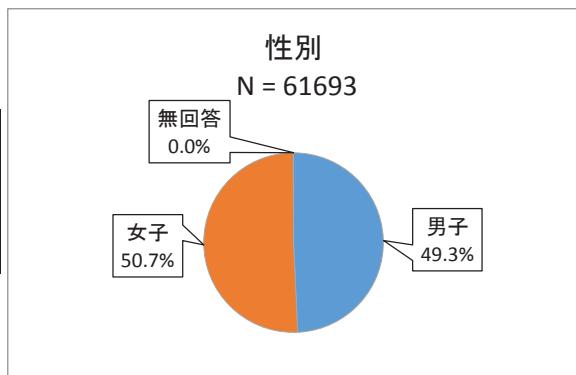
※2 課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

单纯集計表

学年			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	高校1年生	285	0.5
2	高校2年生	61,693	99.2
3	高校3年生	183	0.3
	無回答	25	0.0
	N (%ベース)	62,186	100



性別			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	男子	30,388	49.3
2	女子	31,279	50.7
	無回答	26	0.0
	N (%ベース)	61,693	100

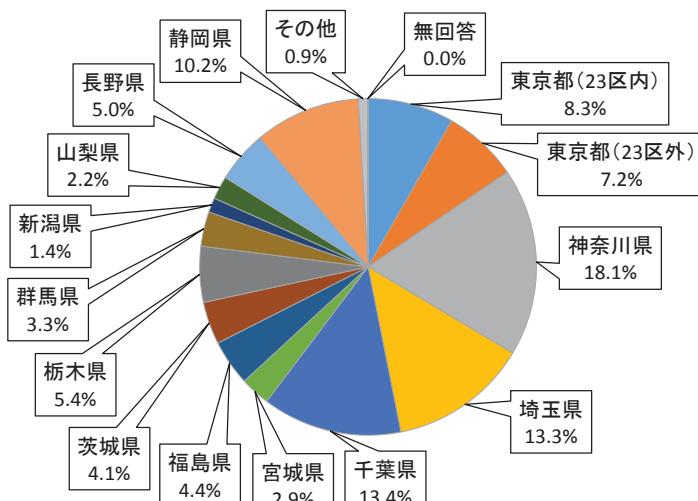


現住所

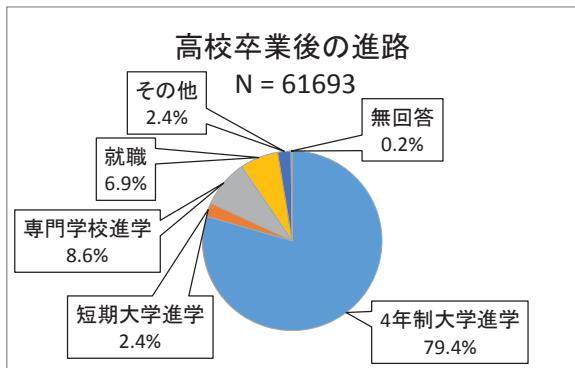
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京都(23区内)	5,098	8.3
2	東京都(23区外)	4,460	7.2
3	神奈川県	11,144	18.1
4	埼玉県	8,219	13.3
5	千葉県	8,269	13.4
6	宮城県	1,764	2.9
7	福島県	2,709	4.4
8	茨城県	2,517	4.1
9	栃木県	3,311	5.4
10	群馬県	2,042	3.3
11	新潟県	865	1.4
12	山梨県	1,367	2.2
13	長野県	3,078	5.0
14	静岡県	6,280	10.2
15	その他	543	0.9
	無回答	27	0.0
	N (%ベース)	61,693	100

現住所

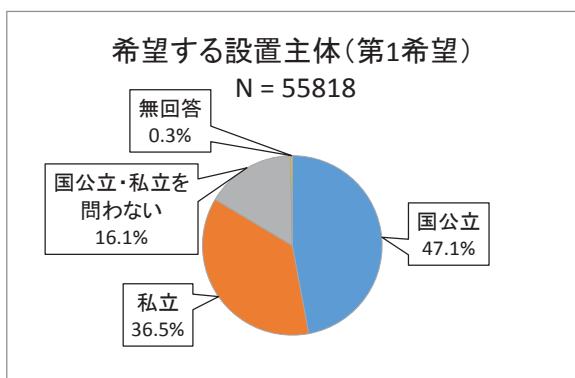
N = 61693



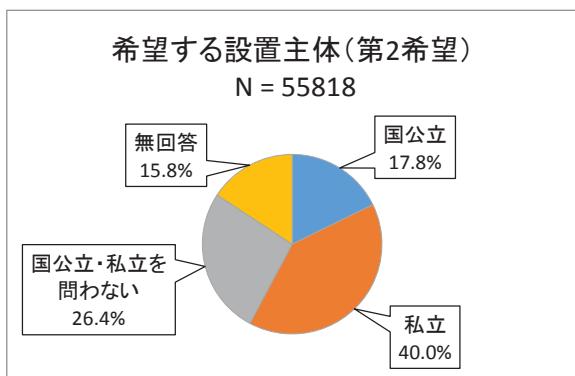
高校卒業後の進路			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	4年制大学進学	49,007	79.4
2	短期大学進学	1,503	2.4
3	専門学校進学	5,308	8.6
4	就職	4,278	6.9
5	その他	1,472	2.4
	無回答	125	0.2
N (%ベース)		61,693	100



希望する設置主体(第1希望)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	国公立	26,280	47.1
2	私立	20,360	36.5
3	国公立・私立を問わない	8,994	16.1
	無回答	184	0.3
N (%ベース)		55,818	100



希望する設置主体(第2希望)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	国公立	9,910	17.8
2	私立	22,354	40.0
3	国公立・私立を問わない	14,752	26.4
	無回答	8,802	15.8
N (%ベース)		55,818	100

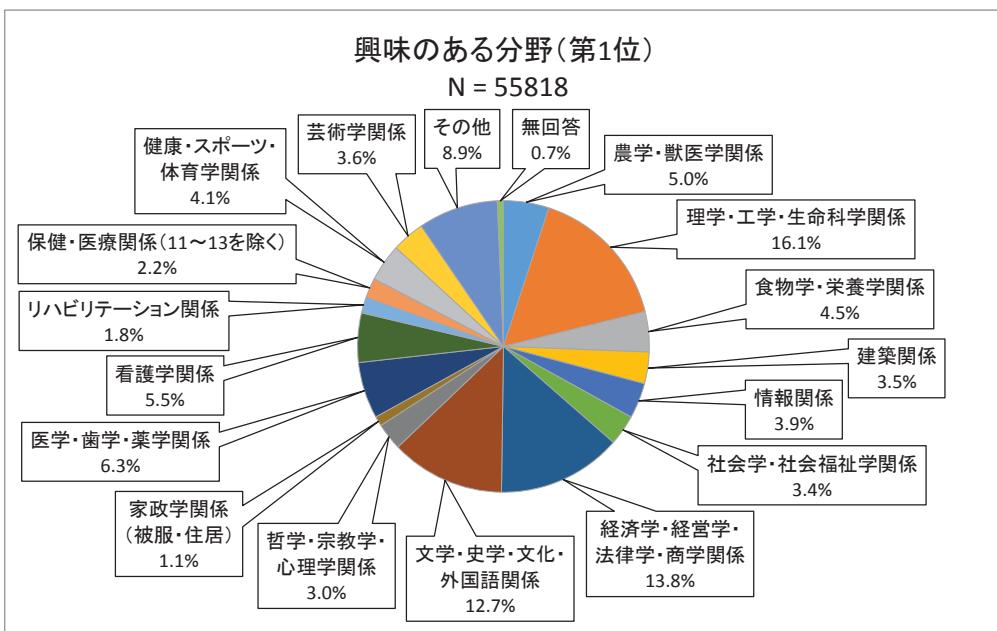


興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農学・獣医学関係	2,810	5.0
2	理学・工学・生命科学関係	8,998	16.1
3	食物学・栄養学関係	2,492	4.5
4	建築関係	1,953	3.5
5	情報関係	2,192	3.9
6	社会学・社会福祉学関係	1,892	3.4
7	経済学・経営学・法律学・商学関係	7,695	13.8
8	文学・史学・文化・外国語関係	7,066	12.7
9	哲学・宗教学・心理学関係	1,679	3.0
10	家政学関係(被服・住居)	604	1.1
11	医学・歯学・薬学関係	3,496	6.3
12	看護学関係	3,054	5.5
13	リハビリテーション関係	985	1.8
14	保健・医療関係(11~13を除く)	1,234	2.2
15	健康・スポーツ・体育学関係	2,316	4.1
16	芸術学関係	2,030	3.6
17	その他	4,944	8.9
	無回答	378	0.7
	N (%ベース)	55,818	100

興味のある分野(第1位)

N = 55818

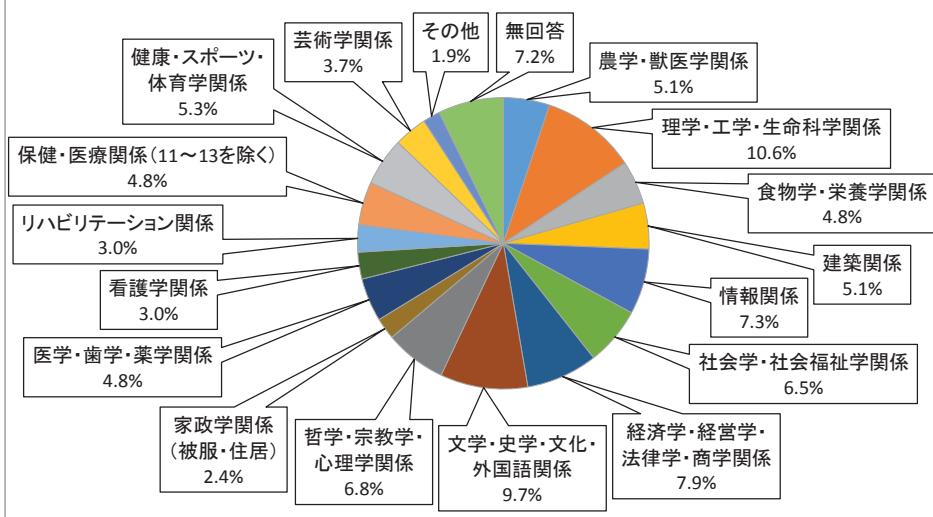


興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農学・獣医学関係	2,863	5.1
2	理学・工学・生命科学関係	5,899	10.6
3	食物学・栄養学関係	2,701	4.8
4	建築関係	2,847	5.1
5	情報関係	4,055	7.3
6	社会学・社会福祉学関係	3,617	6.5
7	経済学・経営学・法律学・商学関係	4,422	7.9
8	文学・史学・文化・外国語関係	5,422	9.7
9	哲学・宗教学・心理学関係	3,813	6.8
10	家政学関係(被服・住居)	1,337	2.4
11	医学・歯学・薬学関係	2,686	4.8
12	看護学関係	1,659	3.0
13	リハビリテーション関係	1,693	3.0
14	保健・医療関係(11~13を除く)	2,660	4.8
15	健康・スポーツ・体育学関係	2,975	5.3
16	芸術学関係	2,061	3.7
17	その他	1,065	1.9
	無回答	4,043	7.2
	N (%ベース)	55,818	100

興味のある分野(第2位)

N = 55818

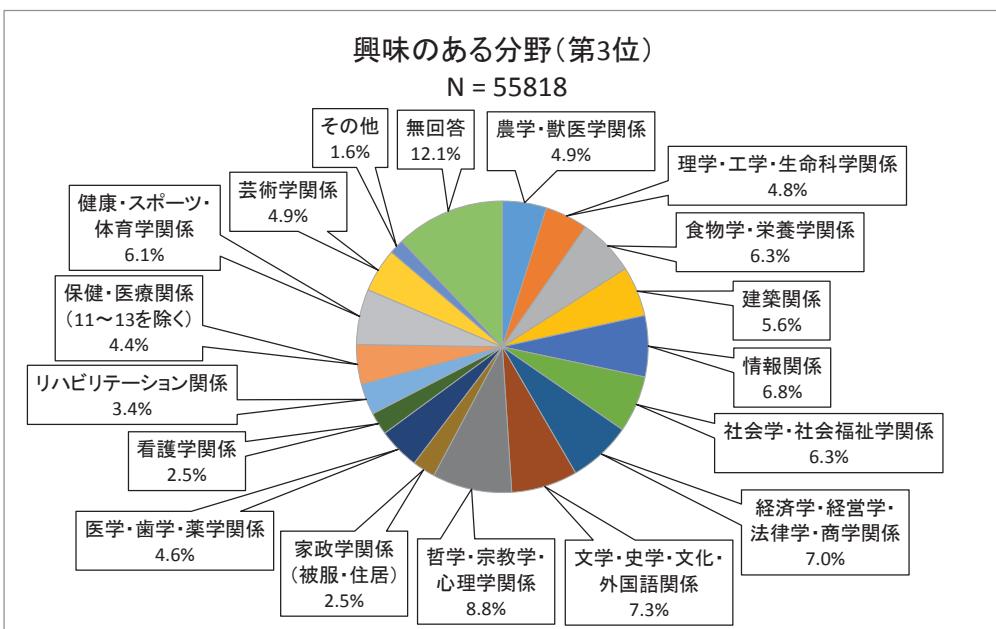


興味のある分野(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農学・獣医学関係	2,738	4.9
2	理学・工学・生命科学関係	2,652	4.8
3	食物学・栄養学関係	3,539	6.3
4	建築関係	3,099	5.6
5	情報関係	3,781	6.8
6	社会学・社会福祉学関係	3,513	6.3
7	経済学・経営学・法律学・商学関係	3,911	7.0
8	文学・史学・文化・外国語関係	4,099	7.3
9	哲学・宗教学・心理学関係	4,924	8.8
10	家政学関係(被服・住居)	1,417	2.5
11	医学・歯学・薬学関係	2,564	4.6
12	看護学関係	1,389	2.5
13	リハビリテーション関係	1,920	3.4
14	保健・医療関係(11~13を除く)	2,466	4.4
15	健康・スポーツ・体育学関係	3,421	6.1
16	芸術学関係	2,712	4.9
17	その他	910	1.6
	無回答	6,763	12.1
	N (%ベース)	55,818	100

興味のある分野(第3位)

N = 55818

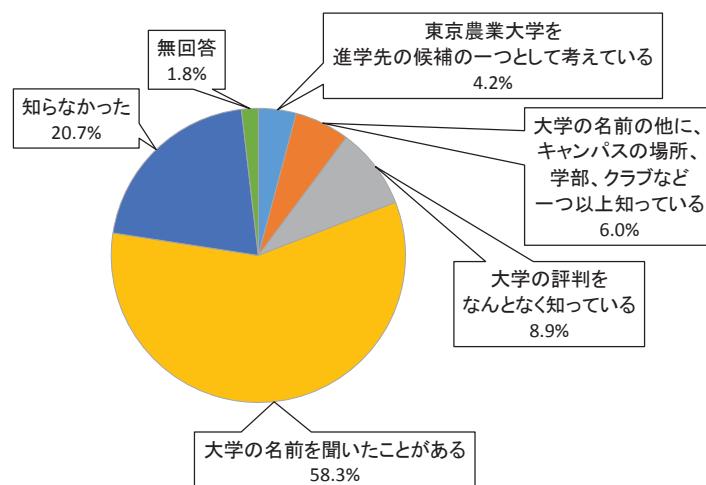


東京農業大学の知名度

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京農業大学を進学先の候補の一つとして考えている	2,321	4.2
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている	3,368	6.0
3	大学の評判をなんとなく知っている	4,986	8.9
4	大学の名前を聞いたことがある	32,552	58.3
5	知らなかった	11,564	20.7
	無回答	1,027	1.8
	N (%ベース)	55,818	100

東京農業大学の知名度

N = 55818

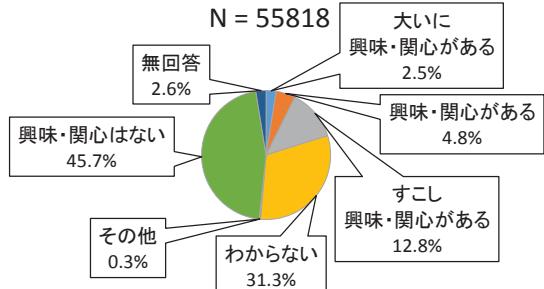


新学部・新学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	1,398	2.5
2	興味・関心がある	2,706	4.8
3	すこし興味・関心がある	7,143	12.8
4	わからない	17,461	31.3
5	その他	160	0.3
6	興味・関心はない	25,522	45.7
	無回答	1,428	2.6
	N (%ベース)	55,818	100

新学部・新学科への興味・関心

N = 55818

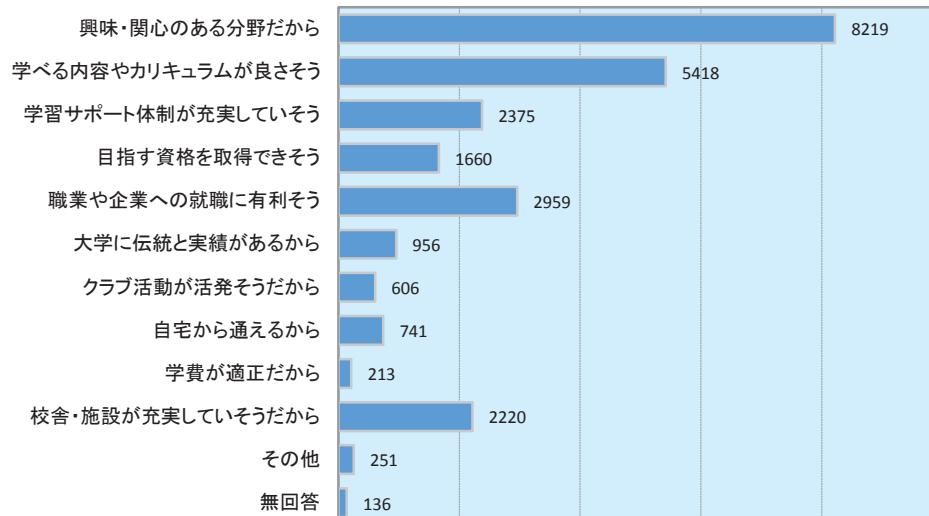


興味・関心の理由(複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	8,219	73.1
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	5,418	48.2
3	学習サポート体制が充実していそう	2,375	21.1
4	目指す資格を取得できそう	1,660	14.8
5	職業や企業への就職に有利そう	2,959	26.3
6	大学に伝統と実績があるから	956	8.5
7	クラブ活動が活発そうだから	606	5.4
8	自宅から通えるから	741	6.6
9	学費が適正だから	213	1.9
10	校舎・施設が充実していそうだから	2,220	19.7
11	その他	251	2.2
	無回答	136	1.2
	N (%ペース)	11,247	100

興味・関心の理由(複数回答)

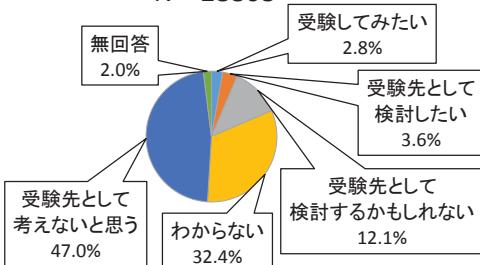
N = 11247



新学部・新学科への受験意向			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	798	2.8
2	受験先として検討したい	1,048	3.6
3	受験先として検討するかもしれない	3,504	12.1
4	わからない	9,365	32.4
5	受験先として考えないと思う	13,579	47.0
	無回答	574	2.0
	N (%ベース)	28,868	100

新学部・新学科への受験意向

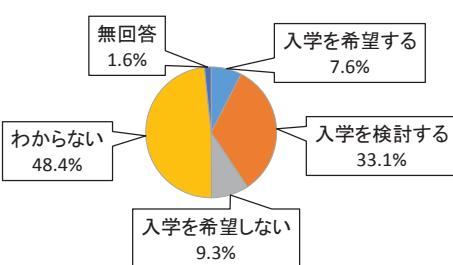
N = 28868



新学部・新学科への入学意向			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	1,113	7.6
2	入学を検討する	4,870	33.1
3	入学を希望しない	1,362	9.3
4	わからない	7,128	48.4
	無回答	242	1.6
	N (%ベース)	14,715	100

新学部・新学科への入学意向

N = 14715

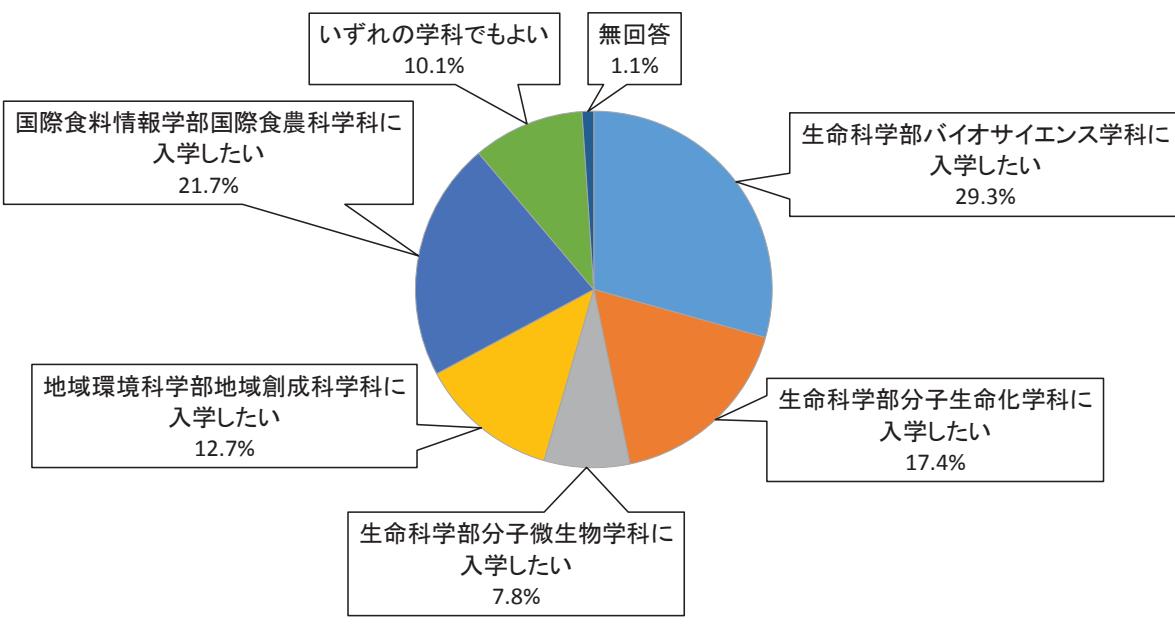


入学を希望する新学部・新学科(第1希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	生命科学部バイオサイエンス学科に入学したい	1,756	29.3
2	生命科学部分子生命化学科に入学したい	1,041	17.4
3	生命科学部分子微生物学科に入学したい	464	7.8
4	地域環境科学部地域創成科学科に入学したい	757	12.7
5	国際食料情報学部国際食農科学科に入学したい	1,297	21.7
6	いずれの学科でもよい	605	10.1
	無回答	63	1.1
	N (%ベース)	5,983	100

入学を希望する新学部・新学科(第1希望)

N = 5983

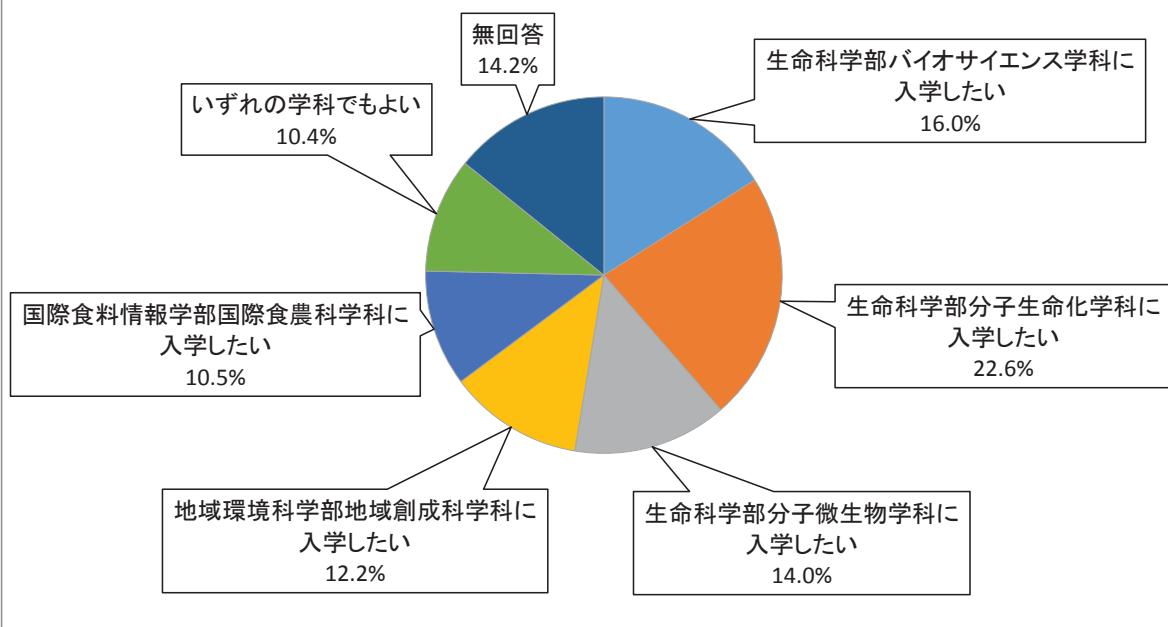


入学を希望する新学部・新学科(第2希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	生命科学部バイオサイエンス学科に入学したい	960	16.0
2	生命科学部分子生命化学科に入学したい	1,351	22.6
3	生命科学部分子微生物学科に入学したい	837	14.0
4	地域環境科学部地域創成科学科に入学したい	730	12.2
5	国際食料情報学部国際食農科学科に入学したい	631	10.5
6	いずれの学科でもよい	624	10.4
	無回答	850	14.2
	N (%ベース)	5,983	100

入学を希望する新学部・新学科(第2希望)

N = 5983



資料6

新学部・新学科と類似する近隣の大学・学部・学科との初年度学生納付金の比較

所在地	区分	大学名	学部名	学科名	入学金	授業料	施設設備費	実験・実習・体育費	教育充実費特別納付金	維持費他	合計
生命科学部 バイオサイエンス学科（仮称）											
東京都	私立	玉川大学	農学部	生命化学科	250,000	1,029,000	250,000	275,200	0	0	1,804,200
東京都	私立	帝京科学大学	生命環境学部	生命科学科	200,000	860,000	200,000	180,000	0	40,000	1,480,000
東京都	私立	東洋大学	生命科学部	生命科学科	250,000	970,000	260,000	70,000	0	0	1,550,000
東京都	私立	日本大学	工学部	生命応用化学科	260,000	900,000	220,000	80,000	0	0	1,460,000
東京都	私立	日本獣医生命科学大学	応用生命科学部	食品科学科	250,000	750,000	300,000	100,000	200,000	20,000	1,620,000
東京都	私立	明治大学	農学部	農芸化学科	200,000	1,129,000	0	80,000	312,000	0	1,721,000
上記6大学の平均					235,000	939,667	205,000	130,867	85,333	10,000	1,605,867
東京都	私立	東京農業大学	生命科学部（仮称）	バイオサイエンス学科（仮称）	270,000	760,000	230,000	250,000	0	25,600	1,535,600
生命科学部 分子生命化学科（仮称）											
東京都	私立	青山学院大学	理工学部	化学・生命科学科	200,000	1,191,000	257,000	90,000	0	0	1,738,000
東京都	私立	工学院大学	先進工学部	生命化学科	200,000	998,000	300,000	100,000	0	0	1,598,000
東京都	私立	東京理科大学	生命科学部	分子生命科学科	260,000	1,110,000	480,000	0	0	0	1,850,000
東京都	私立	日本大学	生産工学部	応用分子化学科	260,000	1,000,000	220,000	80,000	0	0	1,560,000
東京都	私立	明星大学	理工学部	総合理工学科	250,000	940,000	300,000	100,000	0	0	1,590,000
神奈川県	私立	神奈川大学	工学部	物質生命化学科	300,000	760,000	310,000	150,000	0	0	1,520,000
上記6大学の平均					245,000	999,833	311,167	86,667	0	0	1,642,667
東京都	私立	東京農業大学	生命科学部（仮称）	分子生命化学科（仮称）	270,000	760,000	230,000	250,000	0	25,600	1,535,600
生命科学部 分子微生物学科（仮称）											
東京都	私立	中央大学	理工学部	生命科学科	240,000	1,108,000	252,400	103,400	0	0	1,703,800
東京都	私立	東洋大学	生命科学部	応用生物科学科	250,000	970,000	260,000	70,000	0	0	1,550,000
東京都	私立	日本大学	生物資源科学部	生命化学科	260,000	1,050,000	200,000	150,000	0	0	1,660,000
東京都	私立	法政大学	生命科学部	応用植物科学科	180,000	1,111,000	312,000	147,000	0	0	1,750,000
神奈川県	私立	神奈川工科大学	応用バイオ科学部	応用バイオ科学科	170,000	1,370,000	0	0	0	0	1,540,000
静岡県	私立	静岡理科大学	理工学部	物質生命科学科	300,000	1,240,000	0	0	0	0	1,540,000
上記6大学の平均					233,333	1,141,500	170,733	78,400	0	0	1,623,967
東京都	私立	東京農業大学	生命科学部（仮称）	分子微生物学科（仮称）	270,000	760,000	230,000	250,000	0	25,600	1,535,600
地域環境科学部 地域創成科学科（仮称）											
東京都	私立	芝浦工業大学	システム理工学部	環境システム学科	280,000	1,099,000	283,000	0	0	0	1,662,000
東京都	私立	中央大学	理工学部	都市環境学科	240,000	1,108,000	252,400	103,400	0	0	1,703,800
東京都	私立	東京都市大学	環境学部	環境創生学科	270,000	1,220,000	0	0	0	0	1,490,000
東京都	私立	東邦大学	理学部	生命圏環境科学科	300,000	992,000	0	0	300,000	0	1,592,000
東京都	私立	日本大学	生物資源科学部	生物環境工学科	260,000	1,050,000	200,000	150,000	0	0	1,660,000
東京都	私立	明治大学	農学部	農学科	200,000	1,129,000	0	80,000	312,000	0	1,721,000
上記6大学の平均					258,333	1,099,667	122,567	55,567	102,000	0	1,638,133
東京都	私立	東京農業大学	地域環境科学部	地域創成科学科（仮称）	270,000	760,000	230,000	150,000	0	25,600	1,435,600
国際食料情報学部 国際食農科学科（仮称）											
千葉県	私立	城西国際大学	環境社会学部	環境社会学科	300,000	770,000	240,000	0	0	0	1,310,000
東京都	私立	東洋大学	食環境科学部	食環境科学科	250,000	970,000	260,000	70,000	0	0	1,550,000
東京都	私立	日本大学	生物資源科学部	国際地域開発学科	260,000	850,000	170,000	100,000	0	0	1,380,000
東京都	私立	法政大学	生命科学部	応用植物科学科	180,000	1,111,000	312,000	147,000	0	0	1,750,000
東京都	私立	明治大学	農学部	食料環境政策学科	200,000	1,020,000	0	40,000	307,000	0	1,567,000
東京都	私立	明治大学	農学部	農学科	200,000	1,129,000	0	80,000	312,000	0	1,721,000
上記6大学の平均					231,667	975,000	163,667	72,833	103,167	0	1,546,333
東京都	私立	東京農業大学	国際食料情報学部	国際食農科学科（仮称）	270,000	760,000	230,000	200,000	0	25,600	1,485,600

注1) 各大学情報については、学生納付金等調査（平成27年度入生（日本私立大学団体連合会））より転載しました。

注2) 各大学の学費については、諸会費などを含んでいない場合があります。

注3) 東京農業大学の学費は予定であり、変更する場合があります。

大学受験のための進学相談会

首都圏私立大学進学ガイダンス会場案内図

5/31日 11:00▶17:00

秋葉原ダイビル 2Fコンベンションホール

文系・理系 91学部 240学科

日 時 場 所

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-18-13

参 加 大 学

東京電機大学
東京都市大学
東京農業大学
東洋大学
立正大学
千葉工業大学
千葉商科大学
東京経済大学
拓殖大学
玉川大学
成城大学
大東文化大学
神奈川大学
亞細亞大学
駒澤大学
成蹊大学
千葉工業大学
千葉工業大学
東京電機大学
東京経済大学
東京農業大学
東洋大学
立正大学

来場者受付
アンケート記入コーナー

大学グッズ
プレゼントコーナー

出 口

首都圏私立大学進学ガイダンス会場案内図

5/31日 11:00▶17:00

秋葉原ダイビル 2Fコンベンションホール

文系・理系 91学部 240学科

日 時 場 所

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-18-13

参 加 大 学

亜細亞大学
神奈川大学
駒澤大学
成蹊大学
大東文化大学
立正大学
千葉工業大学
千葉商科大学
東京経済大学
拓殖大学
玉川大学
成城大学
大東文化大学
神奈川大学
亞細亞大学
駒澤大学
成蹊大学
千葉工業大学
千葉工業大学
東京電機大学
東京農業大学
東洋大学
立正大学

来場者受付
アンケート記入コーナー

大学グッズ
プレゼントコーナー

出 口

首都圏私立大学進学ガイダンス会場案内図

5/31日 11:00▶17:00

秋葉原ダイビル 2Fコンベンションホール

文系・理系 91学部 240学科

日 時 場 所

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-18-13

参 加 大 学

亜細亞大学
神奈川大学
駒澤大学
成蹊大学
大東文化大学
立正大学
千葉工業大学
千葉商科大学
東京経済大学
拓殖大学
玉川大学
成城大学
大東文化大学
神奈川大学
亞細亞大学
駒澤大学
成蹊大学
千葉工業大学
千葉工業大学
東京電機大学
東京農業大学
東洋大学
立正大学

来場者受付
アンケート記入コーナー

大学グッズ
プレゼントコーナー

出 口

屋上を森に? 壁を花畠に?? 都市空間を 緑で彩る

緑は私たちの心を和ませ、季節の移ろいや生命の躍動感を教えてくれます。近年は都市化が進み、緑に触れる機会も少なくなっていますが、実は地面がない場所でも緑を楽しむことはできるのです。都市空間に緑地を創り、守り、育していく技術を研究している東京農業大学造園科学科の水庭千鶴子准教授にお話を伺いました。

都市の緑を どう創り、守るか

「ここは造園科学科の教員、卒業生、在学生と一緒に作ってたんですよ。」そう言って水庭准教授が案内してくれたのは、東京農業大学世田谷キャンパスの中庭だ。木々に囲まれた緑の芝生の上に立つと、心地よい風が吹き抜け、ここが東京の真ん中だとはとても思えない。昨年4月に約3,000平方㍍の更地に2日間かけて芝を張り、その後の維持管理も水庭准教授の研究室の学生も含めてボランティアで行っている。

また、キャンパス隣接する東京農業大学第一高等学校の屋上庭園も、研究室の卒業生と在学生による力作だ。樹齢100年を超えるヨウマツなどを配した野点のできる和風庭園で、こちらも都心のビルの屋上とは思えないしっとりとした雰囲気が漂う。「たとえコンクリートに囲まれた都会に暮らしていても、やはり緑がほしいですよね。私たちの研究室では、屋上緑化や建物を植物で覆う壁面緑化などの技術について研究し、都市空間にどのように緑地を作り、守っていくかを考えています。」



東京農大の中庭「ユリノキ広場」の作業風景

緑は「生きた 空気清浄機」

緑は私たちの目を楽しませるだけでなく、暮らしに役立つさまざまな効果ももっている。その一つが空気を浄化する作用だ。「室内の空気中に有害な化学物質『ホルムアルデヒド』を含ませ、観葉

※ホルムアルデヒド…建材の接着剤や塗料などに含まれることの多い化学物質で、頭痛や皮膚の炎症といった「シックハウス症候群」を引き起こす。現在は使用制限が設けられている。

植物を置いて実験したところ、植物がこの物質を吸収し、わずか2~3時間で空気が浄化されました。まさに植物は「生きた空気清浄機」なのです。また、土壤や水質を浄化する効果もあるという。

水庭准教授が緑による環境改善効果を研究しているには理由がある。「実家が造園業を営んでいて、子どものころから公園が作られるのを見たくて見てきました。でも、宅地化などでもとからあった緑がすべて伐採され整地されていく様子に、いつか緑が消えてしまうのでは、と危機感を抱いたんです。」緑を守りたい。そのためには、「緑がなくなったら大変だ」ということをみんなに認識してもらわなければ。そんな思いが、こうした研究の原点になったそうだ。

緑がもたらす効果はほかにもある。例えば、屋上緑化をすれば都市の保水力が向上する。近年の「ゲリラ豪雨」のような大量に降った雨水も、屋上緑地にいったん貯めて少しづつ排水することで下水道や河川の氾濫を抑えられる。また、壁面緑化を施せば、真夏でも建物全体の熱上昇を抑制できる。「緑が私たちの生活にいかに役立っているかを伝えことで、「緑は大切なのだ」という思いがみんなの中に根付いてくれれば」と水庭准教授は期待する。

人々のニーズに 合った緑を創る

植物にとって都市空間は快適な生育場所とは言い難い。ビル風や日照不足、乾燥といった厳しい環境にさらされる上、土壤の質も違う。日本の土壤はもともと弱酸性なのだが、都市部にはコンクリートが多いため、そこに含まれているアルカリ性水溶液が溶け出し、土壤が弱アルカリ性に変わりつつあるのだ。このため適応できる植物も以前とは異なり、ツツジやサツキのような酸性土壤を

好み日本古来の植物よりも、オリーブのようなヨーロッパ型の植物のほうが元気に育つそうだ。水庭准教授の研究室では、どんな植物がどのくらい乾燥や寒さ、ビル風などに耐えられるかといった植物の耐環境性を長年研究し、データを蓄積してきた。研究室には緑地開発に関する相談が寄せられることも多く、こうしたデータに基づいて個々の環境条件に最適な植物を提案している。

また、環境条件だけでなく、人々のニーズに合った緑を選ぶことも重要なポイントだ。「この先も緑を守り、残していくためには、みんなから愛される緑を作ることが大切です。最近はクリスマスローズが人気ですが、例えば、日陰を好む植物を日向に植えたいという要望があれば、植物の南側に少し背の高い落葉樹を植えて、夏に日陰を作るといったアドバイスを行い、ニーズに応えます。」

時には、「芝生を屋内で育てたい」(でも、芝生は日光が大好き)、「西日が照りつける場所でモミジを植えたい」(でも、モミジは高温乾燥が苦手)、「狭い空間に大きな木を植えたい」(…),といった難題が寄せられ頭を抱えることもあるが、みんなが楽しめる緑の空間を作っていくために、これからもさまざまな場面で協力していくといふ。「緑を守っていかない。そう思っている人に、ぜひこの研究室と一緒に活動してほしいですね。」



水庭千鶴子准教授

東京農業大学
地域環境科学部 造園科学科
ランドスケープ資源・植物分野 都市緑化技術研究室

緑の効果



東京農業大学「2015年度オープンキャンパス」

オホーツクキャンパス

7/25(土) 26(日)

10:00~16:00 (予約不要)

【プログラム】学科別マニピ体験、入試相談、学外リソース、在学生トークライズ、保護者向け説明会など
連絡先: 0152-46-3814 入試課

厚木キャンパス

8/1(土) 2(日)

10:00~17:00 (予約不要)

【プログラム】学科別マニピ体験、見学ツアー、模擬講義、キャンパスライフ紹介、入試相談、学生生活相談など

世田谷キャンパス

8/2(日) 3(月)

10:00~17:00 (予約不要)

【プログラム】学科別マニピ体験、模擬講義、入試対策講義、キャンパスライフ紹介、学生の取り組みの紹介など
詳細はHPをご覧ください。

みんな
来てね!



樹木の年輪が 教えてくれること

木は、地球上で最も長生きをする生き物だといえるかもしれません。日本にも樹齢1000年を超す古木が現存しています。そして、木が生きてきた歴史が刻まれているのが、幹の内部にある「年輪」です。年輪と気候の関係などを研究している東京農業大学森林総合科学科の桃井尊央助教にお話を伺いました。

すべての木に 年輪があるの？

年輪は、樹木の断面に形成される同心円状の模様だ。樹皮の下にある形成層という部分が、木部を内側に押し込みながら外側に向かって成長していく過程ができる。1年に一つずつ増えるので、年輪を数えれば樹齢がわかる。

「ただし、年輪ができるのは日本のようく季節の違いがはっきりしている地域の樹木。例えば、合板（ベニヤ板）に使われる『ラワン』のように、熱帯などで育つものにはできないんです」と桃井助教が教えてくれた。

年輪の幅は一定ではない。狭いところもあれば広いところもあり、広いほど成長がよかったことを表している。そういうえば、樹木は日の当たる南側がよく成長するから、年輪もそちらに向かって格円になる。だから、山で迷った時は切り株の年輪を見れば方角がわかる、と言わっているけれど、本当だろうか。

「年輪の幅が広いほうが南だ、という説ですね。あれは間違いなんです（笑）。例えば斜面に生えている場合、幹が傾かないように、針葉樹は谷側が、広葉樹は山側がより成長するので年輪が格円になるんです。なので、残念ながら年輪から方角を知ることはできません。でも、年輪を読解すると、もっと面白いことがわかるんですよ」

年輪は過去を測る 「モナシ」

年輪を解析することで得られる情報の一つが、過去の気候変動だ。

桃井助教は東京農業大学奥多摩演習林で、樹木の年輪と、この地域の気候との関係を研究している。調査を進める中で、最近興味深いことがわかつてきたそうだ。2~3月の気温が高いとアカマツなどの針葉樹の年輪の輪が広くなり、低

いとくなるのだ。「樹木が実際に成長するのは4月から10月頃までなのですが、成長の良し悪しは春先の気温の高低によってかなり制限されています」

さらに、過去50年間の年輪幅の年変動と、気温の年変動を照らし合わせたところ、両者の変動パターンはほぼ同じだった。「つまり、樹木には生育地域の気候変動が忠実に反映されているということです。だから、年輪幅の変動を『モナシ』として使えば、たとえ気象データのないはるか昔の気候でも『復元』できるんです」

過去の気候変動を知ることは、今後の環境変化を予測していく上で非常に重要だ。実際に、気象庁などから発表されている気候予測には、年輪幅の変動を元にしたデータも使われている。また、年輪幅の変動を用いれば、遺跡から発掘された古い木製品などがいつ頃作られたかも正確につきとめられるというから驚く。

年輪は気温や降水量といった気候だけでなく、動物や虫による害などからも影響を受ける。「年輪は、私たちが知ることのできない遠い昔のことを記憶し、今に伝えてくれるのです」

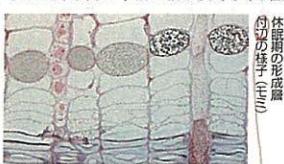
アフリカで 樹木の成長を調査

桃井助教は、奥多摩のみならず、アフリカのジブチ共和国でも樹木の調査を行っている。東京農業大学が推進している沙漠緑化プロジェクトのメンバーの一人として、現地の緑化樹木の選定に取り組んでいるのだ。

「現地の人々の暮らしに役立つように、成長が早く、木材として活用できる樹木を探したい。その前段階として、まずは現地の樹木がどのように成長して

体感! 東京農大/ 収穫祭

受験生必見!
進学説明会も開催



ジブチ共和国の
マングローブ林の
様子

年輪幅
方角がわかるって
ホント！？

いるのかを調べています」とはいえ、極度の乾燥地帯だけに年輪がない樹木が多く、樹齢を把握するのも容易ではない。そこで、幹に小さな傷をつけ、新しく形成された細胞を見て成長の仕方や速度を調べています。

もともとは獣医師を目指していたという桃井助教。野鳥や動物を観察するために山歩きをするうちに、動物を守るために彼らのすみかである山を守ることが必要だと気づいて林学を学ぼうと決意した。「そこから木へ、さらには木の幹へ、と興味がどんどん広がっていました。大学3年次にチベットで川下りをしながら採取した樹木の年輪を卒論で研究したことがきっかけで、年輪から離されなくなってしまいました」と笑う。

実は、樹木の年輪からは幅だけではなく密度や年輪に固着された炭素や酸素などの情報を得られるそうだ。「年輪は様々な分野の研究者と連携できる身近で面白いツールです。このような研究も木材研究の一つなんですよ」



桃井尊央 助教
東京農業大学 地域環境科学部 森林総合科学科
木材工学科研究室



農大池が左に見えたら
南に進め!
南!! キヨ
キヨ

あ! 年輪幅が
広いから!
南はあちだ!! ←

こりゃ!
年輪幅と
方角は無関係じゃ!
南はコト

東京農大の学園祭「収穫祭」は世田谷・厚木・オホーツクの3キャンパス合計で15万人以上が訪れるビッグイベント。野菜無料配布をはじめ、個性的な模擬店など、お腹も好奇心も大満足のイベントが目白押しです。受験生に対しては進学説明会で個別相談などを実施。各学科の先生が丁寧にお答えします。ぜひ、東京農大を体感してみてください。

オホーツクキャンパス …… 10/11日・12日 [予約不要]
キャンパスツアー・進学相談会 (10:00~15:00)

世田谷キャンパス …… 10/30金～11/1日 [予約不要]
10/31水～11/1日のみ・進学説明会 (10:00~16:00)

厚木キャンパス …… 10/31水～11/1日 [予約不要]
進学説明会 (10:00~16:00)

■ これらの受験生向けイベントは予約が必要です。なお、オホーツクキャンパスのイベントは旅費一括助成制度もあります。お問い合わせ先0152-48-3814 (オホーツクキャンパス入試課)

世田谷キャンパスツアーアー2015

Event1 キャンパスツアー

学生がキャンパスをご案内！

普段見ることのできない施設や実験室を見学し、東京農業大学のマナビやキャンパスライフを体感しよう！ 詳細[は]裏面をご覧ください！



Event2 在学生トークブース

農大在学生と話しませんか？！

学科別にブースをご用意！

受験勉強や研究室のこと、学生生活など実際に経験をした先輩だからこそお話しできる情報が沢山あります。

詳細[は]裏面をご覧ください！

Event4 特別講義

Rice 農 Future ~農学から見るお米~

日本人にとって一番身近な食材である「お米」。この「コメ」をテーマに、様々な学科が講義をおこないます。農学が変われば見方が変わる。農学の面白さ、マナビの違いをぜひ味わってください！

5月24日(日)スケジュール

10:45～	食品化学(ー) ～ご飯ち化学できるよ～ コメの生産だけではない水田の役割	生物応用化学科 食料環境経済学科	10:45～ 「米麹」麹力ビを利用して日本の醸造の原点	造園科学科 醸造科学科
12:00～	タブレットを活用した新しい官農指導メソッド	国際バイオビジネス学科	12:00～ タブレットを活用した新しい官農指導メソッド	国際バイオビジネス学科
13:15～	コメから生まれた栄養学・コメから生まれた食品学	栄養科学科	13:15～ 食品化学(ー) ～ご飯も化学できるよ～ ご飯と清酒の味はコメの削り方でも決まる？	食品安全健康学科 生物応用化学科
14:30～	酒米とこうじ(麹)	醸造科学科	14:30～ コメから生まれた栄養学・コメから生まれた食品学	生産環境工学科 栄養科学科
13:15～	ご飯と清酒の味はコメの削り方でも決まる？	生産環境工学科	中国の米消費事情 日本の炊飯器が売れる理由	食料環境経済学科

Event3 入試ガイダンス

推薦入試、センター試験利用入試、一般入試について入試センター職員が詳しく説明します。
最新の入試情報や併願制度などを知りたい方はぜひご参加ください。



[場所] 1号館1階 131教室
[開催時間] 10:00～16:00

[場所] 1号館1階 142教室
[開催時間]
11:00～11:45
13:00～13:45
15:00～15:45

12:00～12:45
14:00～14:45
16:00～16:45

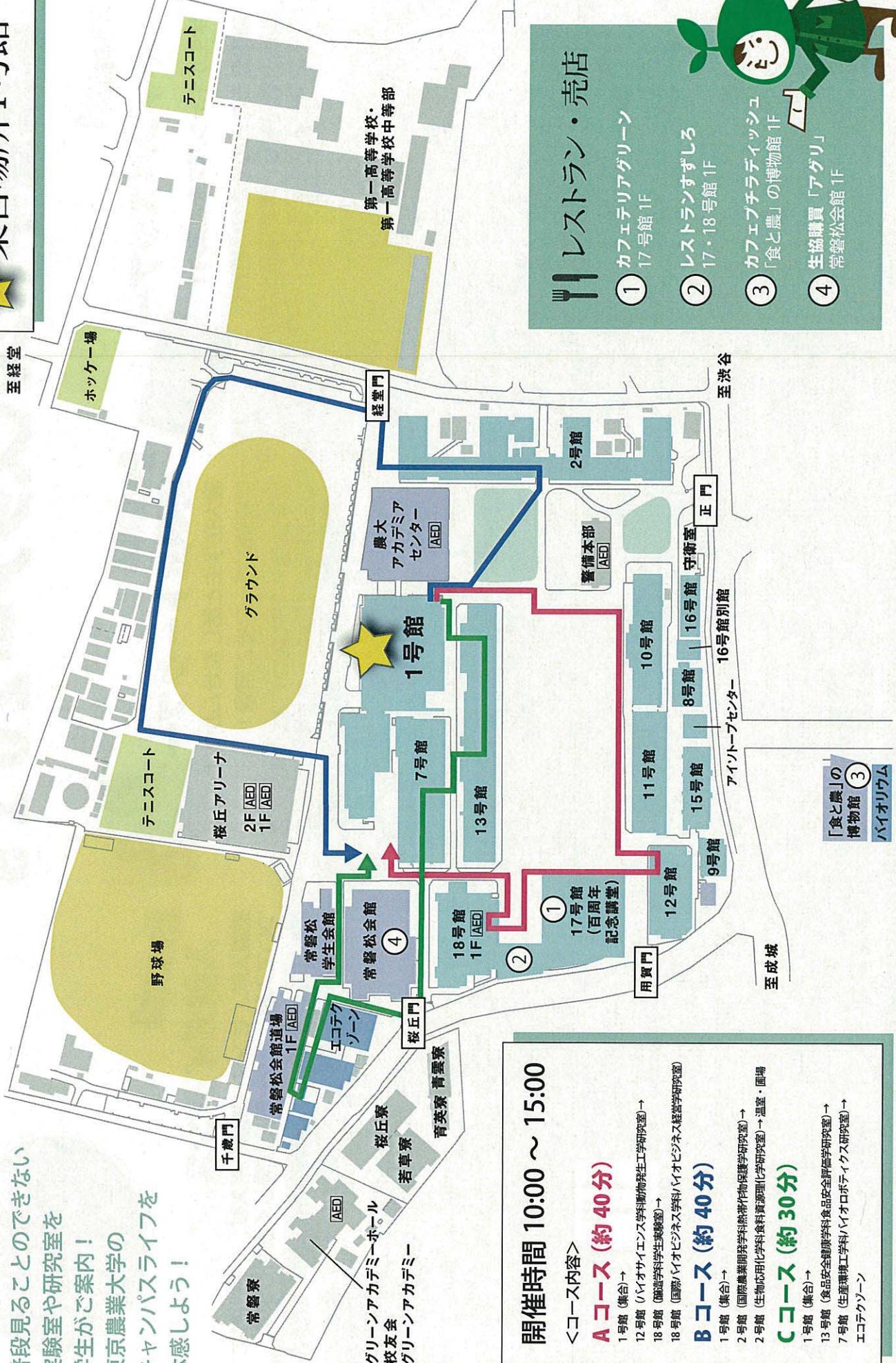


学生食堂も
楽しめます！

2つの学生食堂「レス
トランすずしろ」「カ
フェテリアグリーン」
が本日15時までオ
ープンしています。
ぜひ食べに来てくださいね！(詳細は裏面で)

ナショナルパスツアーマップ

普段見ることのできない
実験室や研究室を
学生がご案内！
東京農業大学の
キャンパスライフを
体感しよう！



集合場所 1号館



開催時間 10:00 ~ 15:00

<コース内容>

Aコース (約 40分)

1号館 (集合) →
12号館 (バイオサイエンス学部動物衛生工学科研究室) →
18号館 (畜産学部学生実験室) →
18号館 (国際バイオビジネス学科「バイオビジネス経営学研究室」)

Bコース (約 40分)

1号館 (集合) →
2号館 (国際農業開発学部熱帯作物保育学研究室) →
2号館 (生物応用化学科食料資源処理学研究室) → 溫室・圃場

Cコース (約 30分)

1号館 (集合) →
13号館 (食品安全健康学科食品安全評価学研究室) →
7号館 (生産環境工学科/バイオロボティクス研究室) →
エコテックゾーン

レストラン・売店



① カフェテリアグリーン

17号館 1F

② レストランすずしろ

17・18号館 1F

③ カフェチラディッシュ

「食と農」の博物館 1F

④ 生協購買「アグリ」

常磐松会館 1F
バイオリウム





MAP

1号館 | オープンキャンパス メイン会場

D o you? 農学ヘルプカウンター

学科別マナビ体験	P.3
331 森林総合科学科	P.4
332 生産環境工学科	P.4
333 造園科学科	P.4
342 酒造科学科(短大)	P.3
343 食料環境経済学科	P.4
344 環境緑学科(短大)	P.5

学科別マナビ体験	P.3
231 バイオサイエンス学科	P.3
232 生物応用化学科	P.3
242 食品安全健康学科	P.3
243 栄養科学科	P.3
241 教職	P.5

分野別模擬実習

1	2	3	4	5	6	7	8
131 生物産業学部	P.6						
132 生物産業学部	P.6						
141 農学部	P.6						
142 入試対策講座	P.9						
113 國際協力センター and 世界学生フォーラム	P.9						

模擬講義

1	2	3	4	5	6
432 模擬講義	P.7~8				
433					
431					
432					
433					
431					
432					
433					
431					
432					
433					

模擬講義

1	2	3	4	5	6	7	8
211 食品コース	P.6						
212 バイオコース	P.6						
213 草地コース	P.6						

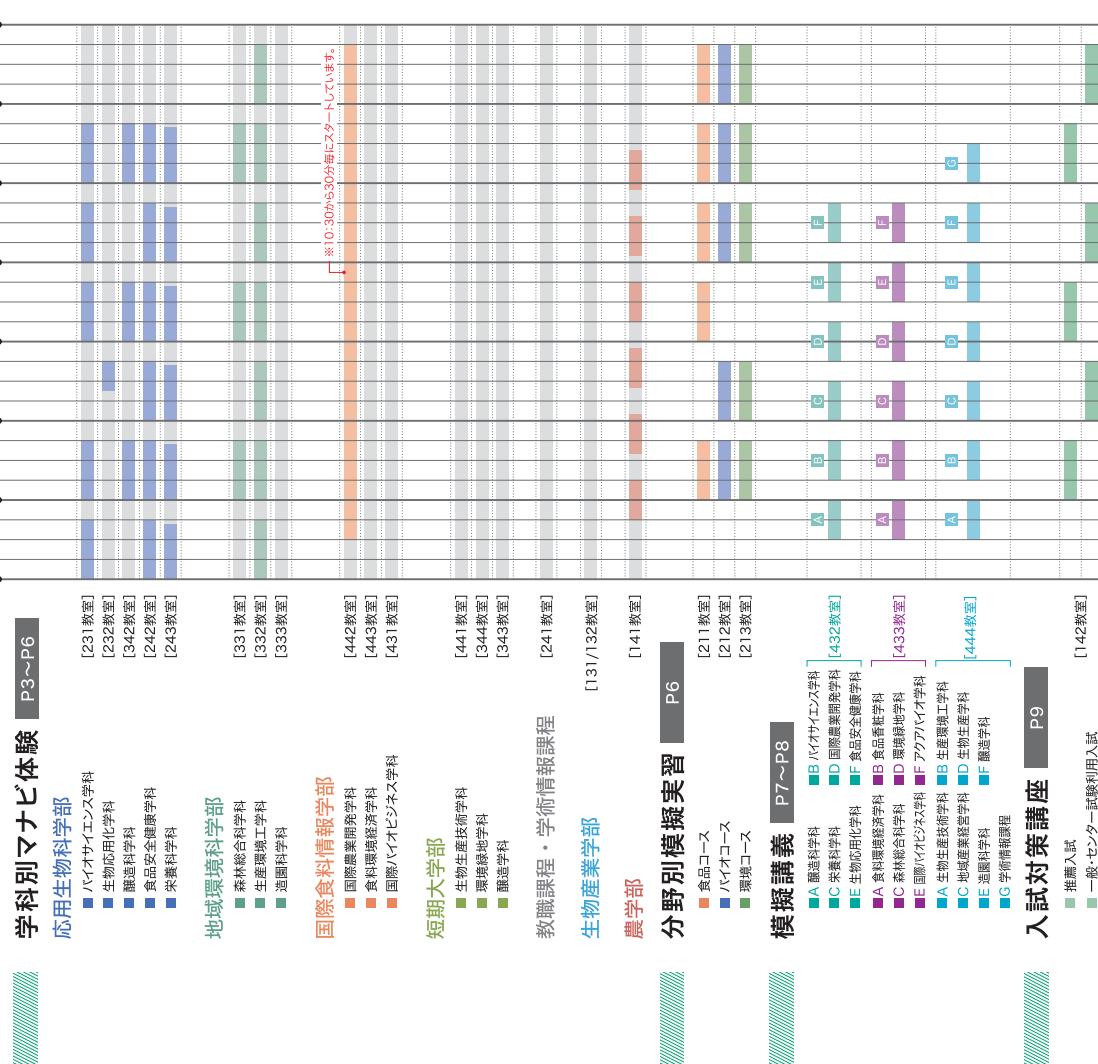
PRESENT!

アンケートに
答えてくじ引き!
抽選で豪華賞品!
などと/orize! などと/orize! などと/orize! などと/orize!

本気で 向かい合う。 だから 決しい。

「生命、食料、環境、健康、エネルギー」を
キーワードに地球上に生きるすべての生物を対象に、
それらの未知なる可能性、
人間との新たな関係を追求しています。

Time Schedule



Contents

- 学科別マナビ体験** P3～P6
- 分野別模擬実習** P6
- 模擬講義** P7～P8
- 入試対策講座・他** P9～P10
- 東京農業大学の授業を実際に受講してみませんか？30分の講義を体験することで、学科の学びももっとよくわかるかも！**
- 各講義の内容は、詳細ページをご覧ください。**
- 「農学」を楽しめましょう。**

東京農業大学に設置されている全学科の個性あふれる展示をご覧いただけます。研究室ツアーや学科別進路相談を実施しています。入選自由ですので、お気軽にお越しください！

「食品」「バイオ」「環境」の3分野に分かれた、普段見ることのできない実験室、実習室、触れるこのできない実験器具などを体験できます。お手頃料金ですので、ご希望のコースが決まつたら2階集合教室へ！

推薦入試および一般・センター試験利用入試の説明会を実施。推薦入試で合格した1年次生の体験談を聞くこともできます！



模擬講義時間割

大学の授業をひととおり早く体験!

東京農大の授業を実際に受講してみませんか?

30分の講義を体験することで、学科の学びがもっとよくわかるかも！

… 432教室 … 433教室 … 444教室

1時限目 10:30 ▶ 11:00

KEY WORD 酢酸と醸造
微生物 フェアトレード 地球環境問題

KEY WORD 「お買いもの」で社会貢献
食料環境経済学科 岩本 博幸 教授

KEY WORD 遺伝子と遺伝
遺伝子 脳 遺伝子操作による育種
福島 橋高 助教授

KEY WORD 遺伝子の働きを高めて記憶力をアップ～遺伝子操作によるスマートマウス～
バイオサイエンス学科 楠原 稔 教授

KEY WORD 食品と新商品 味覚と脳 美味しさをさくらんぼの匂いで表現するフロンティア～
食品香料学科 佐藤 広頬 教授

KEY WORD 遺伝空間と遺伝子操作による育種
福島 橋高 助教授

KEY WORD 森林資源 土壌 木材 水 食べ・健康
管理栄養士 田中 雄郎 教授

KEY WORD 森林の醸し出す資源～人工造林～
森林総合科学科 菅原 琴 教授

12:45 ▶ 13:15

KEY WORD 食料問題 開発途上国
生物多様性 野生生物管理
昆虫類の再生 竹内 寛俊 教授

KEY WORD ~昆蟲類の生息環境から～
環境生物学科 433 教室

KEY WORD 食料問題の役割～
国際農業開発学科 ハチャキル バビル 助教授

私たち日本人にとってもっとも身近な課題である里山には、古から新しい次へへと生まれる人がいる。里山の1.5倍以上の人材を生産する里山は常に需要がある。しかし、人口8億人以上で人口が増えてくることがあり、食料供給不足が問題になってきました。本講義では、食料問題が特に深刻な開發途上国の中にある熱帯地帯の農業の問題点とその解決策について、最新の研究事例を紹介します。

2時限目 11:15 ▶ 11:45

KEY WORD 生物多様性
生物多様性 地域の生態
生物多様性
生物多様性 地域の生態
生物多様性 地域の生態
地の生態

KEY WORD ~環境に寄り添う農業～
農業生産学科 444 教室

私たち日本人にとってもっとも身近な課題である里山には、古から新しい次へへと生まれる人がいる。里山の1.5倍以上の人材を生産する里山は常に需要がある。しかし、人口8億人以上で人口が増えてくることがあり、食料供給不足が問題になってきました。本講義では、食料問題が特に深刻な開発途上国の中にある熱帯地帯の農業の問題点とその解決策について、最新の研究事例を紹介します。

3時限目 12:00 ▶ 12:30

KEY WORD 食料問題 土壌
森林資源 土壌 木材 水 食べ・健康
管理栄養士 田中 雄郎 教授

KEY WORD 森林の醸し出す資源～人工造林～
森林総合科学科 433 教室

高血圧はなぜ発症するのか？ 様々な食べ物をしたらなぜ高血圧になるのか？ 食事によって病気を防ぐためにはどうすればいいのか？ 健康についての知識をつけるのが、私たちの人生です。しかし、多くの現象の原因を理解するためには、必ずや機械的な観察が必要です。つまり、食事と病気の関係性を理解するためには、個々の現象を詳しく見なければなりません。そこで、動物モデルを利用した実験結果を用いて、何が何を意味するかを詳しく説明します。



4時限目 13:30 ▶ 14:00

KEY WORD 生物多様性 地域の生態
生物多様性 地域の生態
生物多様性 地域の生態
地の生態

KEY WORD ~環境に寄り添う農業～
農業生産学科 444 教室

私たち日本人にとってもっとも身近な課題である里山には、古から新しい次へへと生まれる人がいる。里山の1.5倍以上の人材を生産する里山は常に需要がある。しかし、人口8億人以上で人口が増えてくることがあり、食料供給不足が問題になってきました。本講義では、食料問題が特に深刻な開発途上国の中にある熱帯地帯の農業の問題点とその解決策について、最新の研究事例を紹介します。



5時限目 14:15 ▶ 14:45

KEY WORD 食事療法 化学的立場
化学反応 代謝 ダイエット

KEY WORD ~バイオビジネス学の視点から都市と農業の共生を考える～
国際バイオビジネス学科 山田 美裕 助教授

私たちが直面する問題は、社会の問題ではなく自分の問題ではありません。しかし、現在では都市住民の新鮮な野菜の供給、都市化による空き地の造成、食生活改善など、様々な機能を有する都市農園が将来的な課題として本講義では、当センターにおける農業、都市農園の問題を中心に述べます。世界田舎～農村～都市の農業研究中で、新たな視点を探求する農業、都市農園の共生方法についてお話しします。



6時限目 15:00 ▶ 15:30

KEY WORD 味覚
味覚 おいしさ

KEY WORD ~水圈生物の謎を解明する～
水圈生物研究のフロンティア～
433 教室

私たちが直面する問題は、社会の問題ではなく自分の問題ではありません。しかし、現在では都市住民の新鮮な野菜の供給、都市化による空き地の造成、食生活改善など、様々な機能を有する都市農園が将来的な課題として本講義では、当センターにおける農業、都市農園の問題を中心に述べます。世界田舎～農村～都市の農業研究中で、新たな視点を探求する農業、都市農園の共生方法についてお話しします。



7時限目 15:45 ▶ 16:15

KEY WORD 岩塊 鹿嶋 錦
岩塊 鹿嶋 錦

KEY WORD ~醸造学研究は不要か？
醸造学研究は不要か？
444 教室

「私はね、これはもう\u2026



NOGAKU FESTIVAL

模擬講義時間割と受付と申込の方法についてもお話しします。
模擬講義時間割と受付と申込の方法についてもお話しします。
模擬講義時間割と受付と申込の方法についてもお話しします。
模擬講義時間割と受付と申込の方法についてもお話しします。
模擬講義時間割と受付と申込の方法についてもお話しします。
模擬講義時間割と受付と申込の方法についてもお話しします。

皆様へ

タイムプログラム

模擬店

文化学術展

進学説明会

ステージ企画

体育祭

協賛企業

ECO



※地図は裏表紙に載っています。

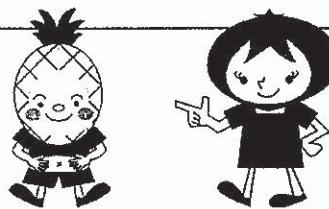
1号館3階 333・344教室

学科別個人相談会

「あの学科とこの学科の違いは?」「こういう勉強がしたいんだけど、この学科でいいの?」「この学科の研究の楽しさを教えてほしい」そんな質問に各学科の先生たちが答えます。

資料展示

推薦入試用作文用紙
入試の過去問題・解答用紙の展示など



農大アカデミアセンター地下1階 横井講堂

入試説明

入学試験を突破するためのポイントは?
「一般入試」「センター試験利用入試」と、目前に迫った「推薦入試」について、入試センターのスタッフが解説します。

オホーツクキャンパス紹介コーナー

横井講堂前にオホーツクキャンパス(北海道)紹介コーナーを開設し、現地の教職員・在学生が展示・紹介をします。

【お問合せ先】入試センター(農大アカデミアセンター1階)

TEL:03-5477-2226
FAX:03-5477-2615

ミライガク2015歩き方ガイド

ミライガク2015_表



東京ドームシティ プリズムホール
13:00～18:30
(入場受付は8:30まで)
参加無料
入退場自由

*2020年・お金・エコカー・ロボット。

くすり・スマホ・子ども・チョコレート」といった

身近なキーワードから、

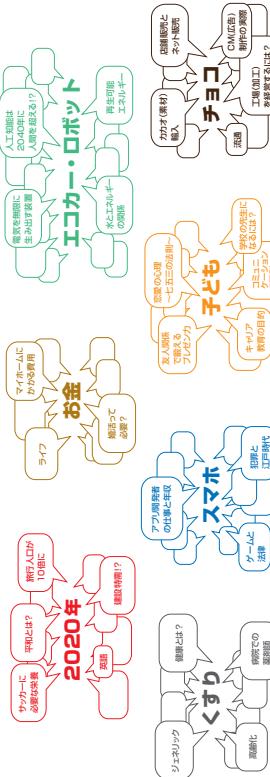
楽しく「社会・学問」の

繋がりに気づき、

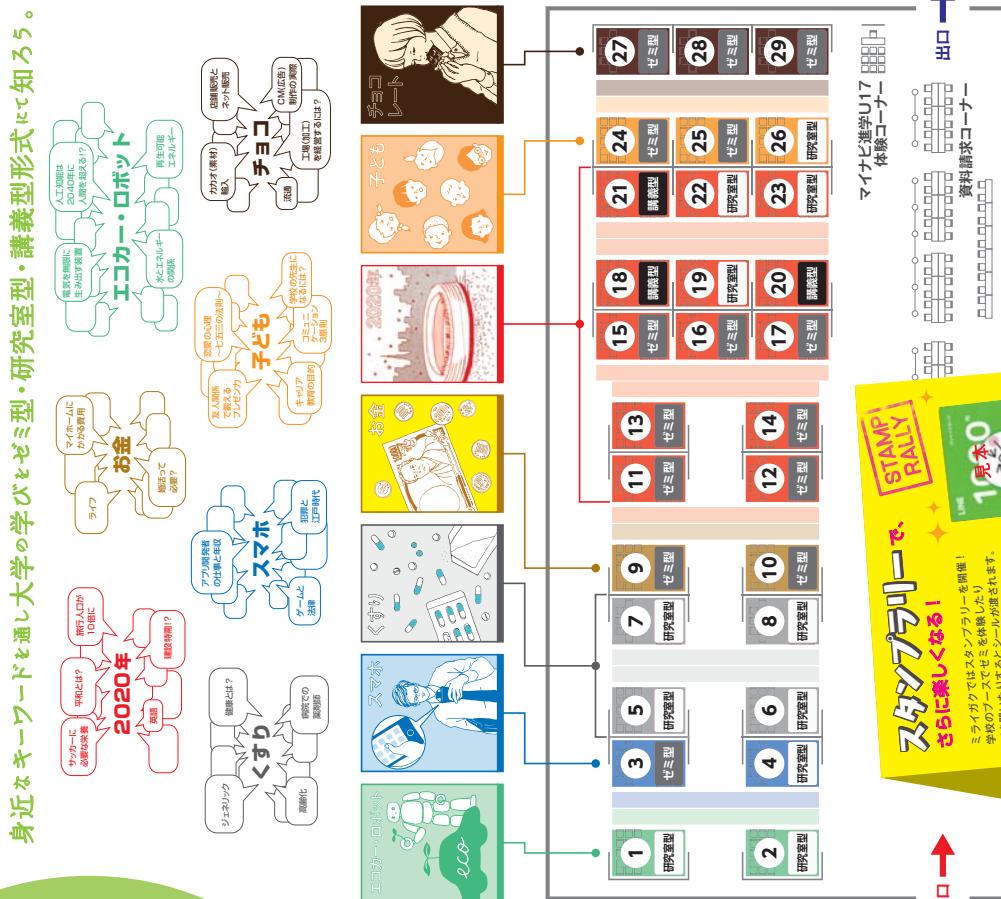
将来の選択肢を増やす

セミ・研究室体験型イベントです。

身近なキーワードを通じ大学の学びセミ型・研究室型・講義型形式にて知ろう。



キーワード	出展校名	セミの研究テーマ(タイトル)	出展形式
① エコロジー	横浜国大	アーティストは生きる力で世界を変える!人間地図!	研究室型
② 日本工業大学	次世代ロボット	スマホ・AI技術による「ゲーミフィケーション」の考え方でスマートな世界へとつなげよう!	研究室型
③ 宝冢市立メディア芸術学部	スマホ・AI技術による「ゲーミフィケーション」の考え方でスマートな世界へとつなげよう!	セミ型	
④ 東海大	スマホ・AI技術による「ゲーミフィケーション」の考え方でスマートな世界へとつなげよう!	研究室型	
⑤ 横浜理科大	あなたが開拓者となるには?!	研究室型	
⑥ 東京看護大	くすりを使わない医療	研究室型	
⑦ 日本薬科大	暮らしに活かす薬の力!カブトガラの作成	研究室型	
⑧ 自由大・目白大・駒込大・都大	育て方を本業!「ホーリング」の実践法	研究室型	
⑨ 松井	当該国のかばーの問題とは?どのようにして解決するのか?	セミ型	
⑩ 清澤大	にぎわいのある商店街をつくる!	セミ型	
⑪ 東京工科大	サステナブルな学入門	セミ型	
⑫ 東洋大	2020年の日本の社会は?~これから暮らしの仕組みと~	セミ型	
⑬ 神奈川大	日本企業の国際経営	セミ型	
⑭ 東京教院大	未来に繋がる建築デザイン~3Dプリンタによる会議システムを体験してみよう!	セミ型	
⑮ 共立女子大	未来の3Dプリンタによる会議システムを体験してみよう!	セミ型	
⑯ 武蔵野美大	一語学習型のツバグ~	セミ型	
⑰ 東洋英和女学院大	国際政治と安全保障	セミ型	
⑱ 帝京大	一人ひとりの「自分流」が育つかかる大学	研究室型	
⑲ 東京農業大	情報から読み解く水と「命」	研究室型	
⑳ 総合大	未央とお母さん技術者による研究する大学のグローバル人材育成	研究室型	
㉑ 立教大	新らいだ能力力!リーダーに求められる力とは	研究室型	
㉒ 日本体育大	2020年東京オリンピック競技選手の育成	研究室型	
㉓ 文京学院大	「クローバル英語」つづけ!	研究室型	
㉔ 東京女学園大	♪音楽のチカラってナニ?	セミ型	
㉕ 流通経済大	子ども×やさしい子育て!誰もが安心できる環境つくる?	研究室型	
㉖ 埼玉大	チヨコートークの工夫がわかる!~	セミ型	
㉗ 活元音楽大	経済のしくみを会員の問題	セミ型	
㉘ 戸板女子短期大	CIM音楽制作研究会	セミ型	



【TYPE1】セミ型
決められたタイムスケジュールにより、セミの授業を体験することができます。
■13:30～14:00
■14:30～15:00
■15:30～16:00
■16:30～17:00

【TYPE2】研究室型
実際の大学の研究室の雰囲気を体験できます。パネルや展示物を用いて、遊びを紹介します。

【TYPE3】講義型
実際の大学のゼミや学びの雰囲気を講義形式で体験することができます。

ミライガクではスタンプラリーを開催!
校舎の「アースセイバーン」を体験したり
校舎を歩いてみたりするシールを貰うと、
10枚集めると「100円OFF」が当たります!
抽選で豪華プレゼントが当たります!

出展大学・短期大学学問系統一覧

興味のある学問のカテゴリーから、話を聞きたい学校を探してみましょう！同じ分野を持つ学校同士でも本身は全然違うので、できる限りたくさんのお話をまわりましょう！

東京農業大学生命科学部（仮称）、
地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、
国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の卒業生に
に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

平成27年11月

一般財団法人 日本開発構想研究所

東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、
国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の卒業生に対する
企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

平成 29 年 4 月に予定している東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の開設に向けて、東京農業大学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる、全国 47 都道府県の企業等の採用担当者にアンケートを実施し、東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象

東京農業大学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる企業等 4,000 社の採用担当者にアンケートを実施し、945 件の有効回答があった。

(3) 調査方法

東京農業大学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる企業等 4,000 社の採用担当者にアンケート用紙及び東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答については第三者機関へ企業等から直接郵送。

集計結果より、東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の卒業生に対する採用意向を分析した。

(4) 調査実施期間

平成 27 年 9 月～平成 27 年 11 月

(5) 有効回収率等

配布数 : 4,000 社

有効回答数 : 945 件

有効回収率 : 約 23.6%

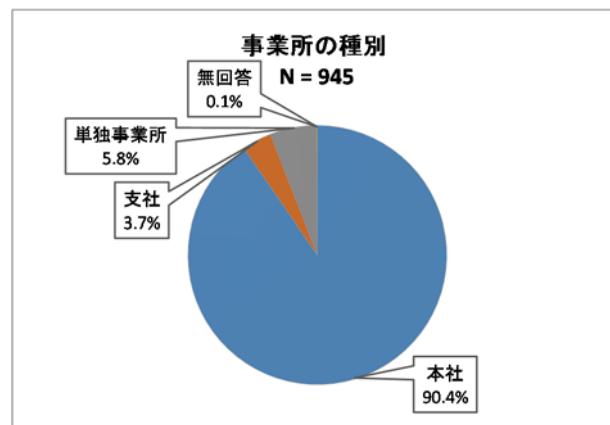
※東京農業大学にて設置を構想している生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科は仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

2. 調査結果

(1) 事業所の種別について

事業所の種別について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「本社」が 854 件（90.4%）と最も多く、次いで「単独事業所」55 件（5.8%）、「支社」35 件（3.7%）、「無回答」1 件（0.1%）の順になっている。

事業所の種別			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	本社	854	90.4
2	支社	35	3.7
3	単独事業所	55	5.8
	無回答	1	0.1
	N (%ベース)	945	100



(2) 事業所の所在地について

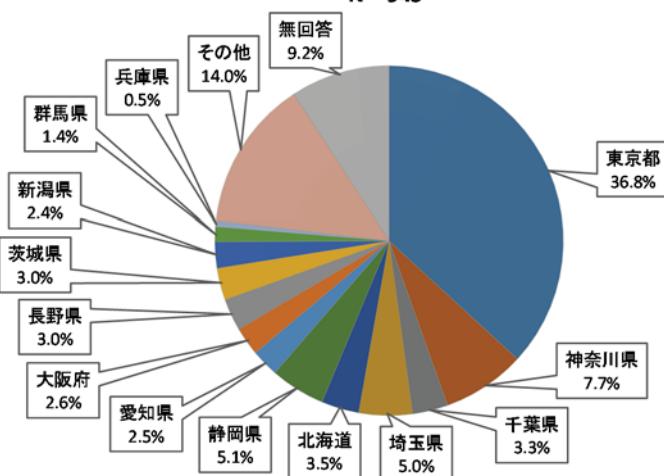
事業所の所在地について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「東京都」が 348 件 (36.8%) と最も多く、次いで「その他」 132 件 (14.0%)、「無回答」 87 件 (9.2%)、「神奈川県」 73 件 (7.7%)、「静岡県」 48 件 (5.1%)、「埼玉県」 47 件 (5.0%)、「北海道」 33 件 (3.5%)、「千葉県」 31 件 (3.3%)、「長野県」 28 件 (3.0%)、「茨城県」 28 件 (3.0%)、「大阪府」 25 件 (2.6%)、「愛知県」 24 件 (2.5%)、「新潟県」 23 件 (2.4%)、「群馬県」 13 件 (1.4%)、「兵庫県」 5 件 (0.5%) の順になっている。

事業所の所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京都	348	36.8
2	神奈川県	73	7.7
3	千葉県	31	3.3
4	埼玉県	47	5.0
5	北海道	33	3.5
6	静岡県	48	5.1
7	愛知県	24	2.5
8	大阪府	25	2.6
9	長野県	28	3.0
10	茨城県	28	3.0
11	新潟県	23	2.4
12	群馬県	13	1.4
13	兵庫県	5	0.5
14	その他	132	14.0
	無回答	87	9.2
	N (%ベース)	945	100

事業所の所在地

N = 945

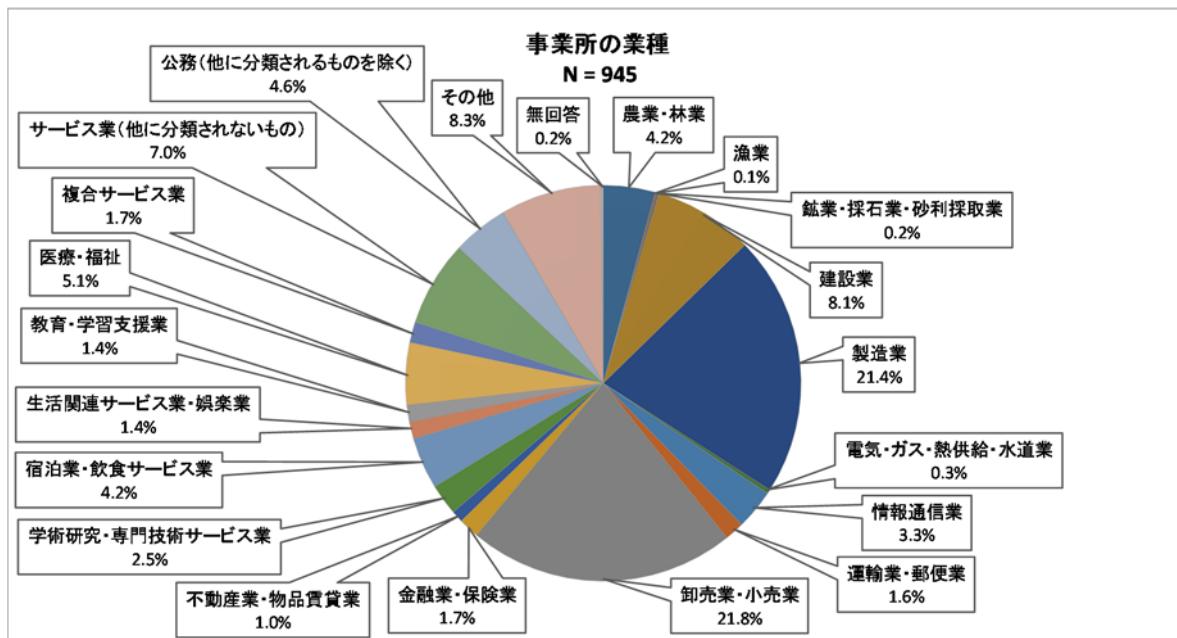


(3) 事業所の業種について

事業所の業種について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「卸売業・小売業」が 206 件 (21.8%) と最も多く、次いで「製造業」202 件 (21.4%)、「その他」78 件 (8.3%)、「建設業」77 件 (8.1%)、「サービス業（他に分類されないもの）」66 件 (7.0%)、「医療・福祉」48 件 (5.1%)、「公務（他に分類されるものを除く）」43 件 (4.6%)、「農業・林業」40 件 (4.2%)、「宿泊業・飲食サービス業」40 件 (4.2%)、「情報通信業」31 件 (3.3%) の順になっている。

事業所の業種

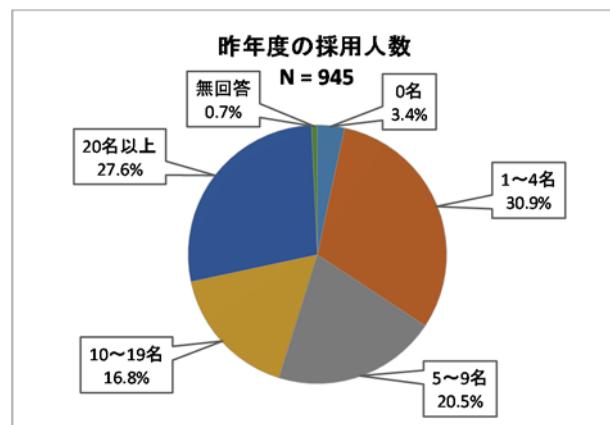
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農業・林業	40	4.2
2	漁業	1	0.1
3	鉱業・採石業・砂利採取業	2	0.2
4	建設業	77	8.1
5	製造業	202	21.4
6	電気・ガス・熱供給・水道業	3	0.3
7	情報通信業	31	3.3
8	運輸業・郵便業	15	1.6
9	卸売業・小売業	206	21.8
10	金融業・保険業	16	1.7
11	不動産業・物品賃貸業	9	1.0
12	学術研究・専門技術サービス業	24	2.5
13	宿泊業・飲食サービス業	40	4.2
14	生活関連サービス業・娯楽業	13	1.4
15	教育・学習支援業	13	1.4
16	医療・福祉	48	5.1
17	複合サービス業	16	1.7
18	サービス業（他に分類されないもの）	66	7.0
19	公務（他に分類されるものを除く）	43	4.6
20	その他	78	8.3
	無回答	2	0.2
	N (%ベース)	945	100



(4) 昨年度の採用人数について

昨年度の採用人数について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「1~4 名」が 292 件 (30.9%) と最も多く、次いで「20 名以上」 261 件 (27.6%)、「5~9 名」 194 件 (20.5%)、「10~19 名」 159 件 (16.8%)、「0 名」 32 件 (3.4%)、「無回答」 7 件 (0.7%) の順になっている。

昨年度の採用人数			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0名	32	3.4
2	1~4名	292	30.9
3	5~9名	194	20.5
4	10~19名	159	16.8
5	20名以上	261	27.6
	無回答	7	0.7
	N (%ベース)	945	100

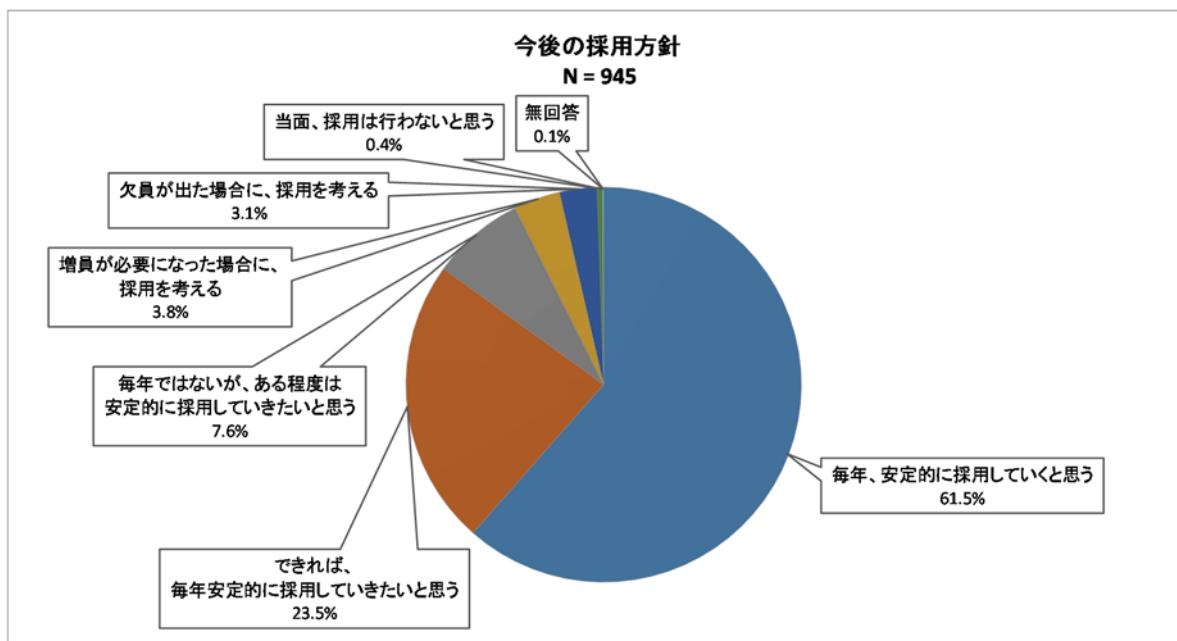


(5) 今後の採用方針について

今後の採用方針について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「毎年、安定的に採用していくと思う」が 581 件 (61.5%) と最も多く、次いで「できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う」 222 件 (23.5%)、「毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う」 72 件 (7.6%)、「増員が必要になった場合に、採用を考える」 36 件 (3.8%)、「欠員が出た場合に、採用を考える」 29 件 (3.1%)、「当面、採用は行わないと思う」 4 件 (0.4%)、「無回答」 1 件 (0.1%) の順になっている。

今後の採用方針

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	毎年、安定的に採用していくと思う	581	61.5
2	できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う	222	23.5
3	毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う	72	7.6
4	増員が必要になった場合に、採用を考える	36	3.8
5	欠員が出た場合に、採用を考える	29	3.1
6	当面、採用は行わないと思う	4	0.4
	無回答	1	0.1
	N (%ベース)	945	100

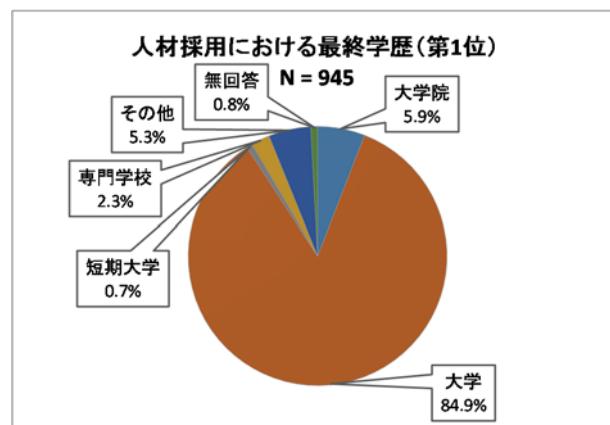


(6) 人材採用における最終学歴について

6-1 人材採用における最終学歴（第1位）について

人材採用における最終学歴（第1位）について調査したところ、回答のあった企業等945件のうち、「大学」が802件（84.9%）と最も多く、次いで「大学院」56件（5.9%）、「その他」50件（5.3%）、「専門学校」22件（2.3%）、「無回答」8件（0.8%）、「短期大学」7件（0.7%）の順になっている。

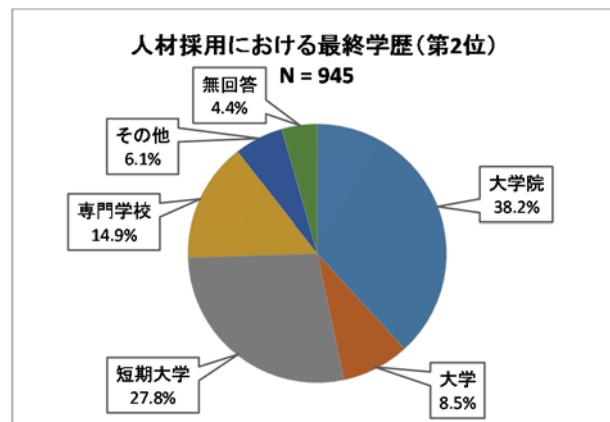
人材採用における最終学歴(第1位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	56	5.9
2	大学	802	84.9
3	短期大学	7	0.7
4	専門学校	22	2.3
5	その他	50	5.3
	無回答	8	0.8
	N (%ベース)	945	100



6-2 人材採用における最終学歴（第2位）について

人材採用における最終学歴（第2位）について調査したところ、回答のあった企業等945件のうち、「大学院」が361件（38.2%）と最も多く、次いで「短期大学」263件（27.8%）、「専門学校」141件（14.9%）、「大学」80件（8.5%）、「その他」58件（6.1%）、「無回答」42件（4.4%）の順になっている。

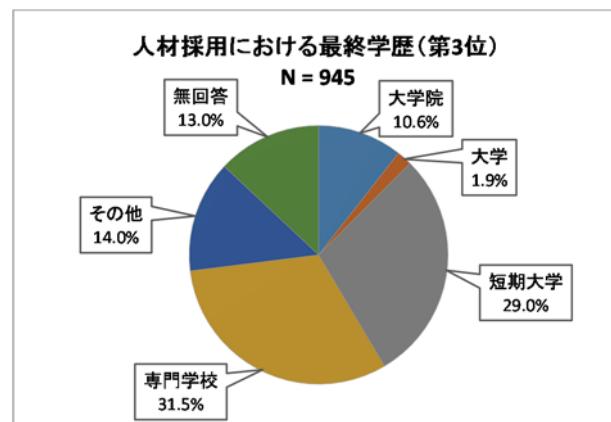
人材採用における最終学歴(第2位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	361	38.2
2	大学	80	8.5
3	短期大学	263	27.8
4	専門学校	141	14.9
5	その他	58	6.1
	無回答	42	4.4
	N (%ベース)	945	100



6-3 人材採用における最終学歴（第3位）について

人材採用における最終学歴（第3位）について調査したところ、回答のあった企業等945件のうち、「専門学校」が298件（31.5%）と最も多く、次いで「短期大学」274件（29.0%）、「その他」132件（14.0%）、「無回答」123件（13.0%）、「大学院」100件（10.6%）、「大学」18件（1.9%）の順になっている。

人材採用における最終学歴(第3位)		
No.	カテゴリ	件数
1	大学院	100
2	大学	18
3	短期大学	274
4	専門学校	298
5	その他	132
	無回答	123
	N (%ペース)	945
	(全体)%	100



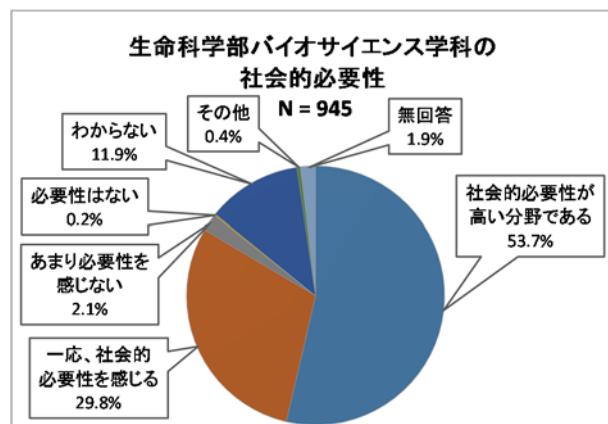
(7) 新設学部・新設学科の社会的必要性について

7-1 生命科学部バイオサイエンス学科の社会的必要性について

東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 507 件 (53.7%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」282 件 (29.8%)、「わからない」112 件 (11.9%)、「あまり必要性を感じない」20 件 (2.1%)、「無回答」18 件 (1.9%)、「その他」4 件 (0.4%)、「必要性はない」2 件 (0.2%) の順になっている。

なお、東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、789 件 (83.5%) となっている。

生命科学部バイオサイエンス学科の社会的必要性		件数	(全体)%
No.	カテゴリ		
1	社会的必要性が高い分野である	507	53.7
2	一応、社会的必要性を感じる	282	29.8
3	あまり必要性を感じない	20	2.1
4	必要性はない	2	0.2
5	わからない	112	11.9
6	その他	4	0.4
	無回答	18	1.9
	N (%ベース)	945	100

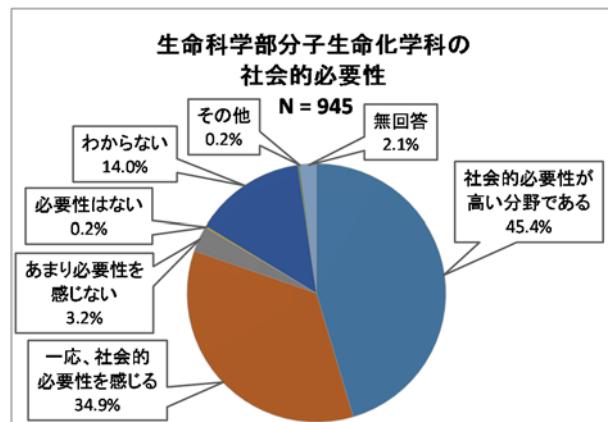


7-2 生命科学部分子生命化学科の社会的必要性について

東京農業大学生命科学部分子生命化学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 429 件 (45.4%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」330 件 (34.9%)、「わからない」132 件 (14.0%)、「あまり必要性を感じない」30 件 (3.2%)、「無回答」20 件 (2.1%)、「必要性はない」2 件 (0.2%)、「その他」2 件 (0.2%) の順になっている。

なお、東京農業大学生命科学部分子生命化学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、759 件 (80.3%) となっている。

生命科学部分子生命化学科の社会的必要性		件数	(全体)%
No.	カテゴリ		
1	社会的必要性が高い分野である	429	45.4
2	一応、社会的必要性を感じる	330	34.9
3	あまり必要性を感じない	30	3.2
4	必要性はない	2	0.2
5	わからない	132	14.0
6	その他	2	0.2
	無回答	20	2.1
	N (%ベース)	945	100

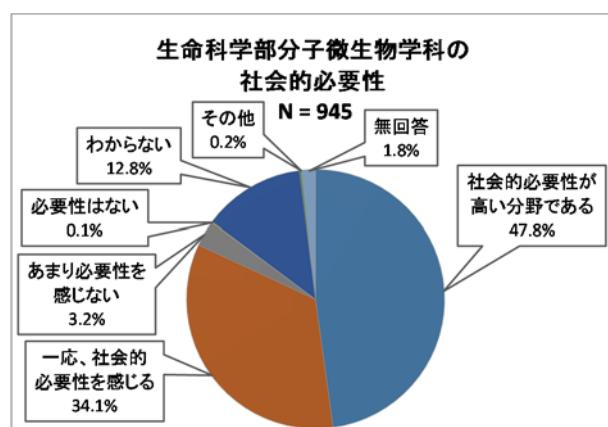


7-3 生命科学部分子微生物学科の社会的必要性について

東京農業大学生命科学部分子微生物学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 452 件 (47.8%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」322 件 (34.1%)、「わからない」121 件 (12.8%)、「あまり必要性を感じない」30 件 (3.2%)、「無回答」17 件 (1.8%)、「その他」2 件 (0.2%)、「必要性はない」1 件 (0.1%) の順になっている。

なお、東京農業大学生命科学部分子微生物学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、774 件 (81.9%) となっている。

生命科学部分子微生物学科の社会的必要性			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	452	47.8
2	一応、社会的必要性を感じる	322	34.1
3	あまり必要性を感じない	30	3.2
4	必要性はない	1	0.1
5	わからない	121	12.8
6	その他	2	0.2
	無回答	17	1.8
	N (%ベース)	945	100

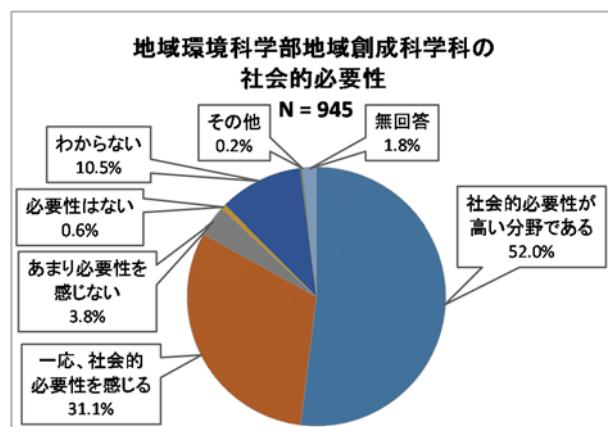


7-4 地域環境科学部地域創成科学科の社会的必要性について

東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 491 件 (52.0%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」294 件 (31.1%)、「わからない」99 件 (10.5%)、「あまり必要性を感じない」36 件 (3.8%)、「無回答」17 件 (1.8%)、「必要性はない」6 件 (0.6%)、「その他」2 件 (0.2%) の順になっている。

なお、東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、785 件 (83.1%) となっている。

地域環境科学部地域創成科学科の社会的必要性			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	491	52.0
2	一応、社会的必要性を感じる	294	31.1
3	あまり必要性を感じない	36	3.8
4	必要性はない	6	0.6
5	わからない	99	10.5
6	その他	2	0.2
	無回答	17	1.8
	N (%ベース)	945	100

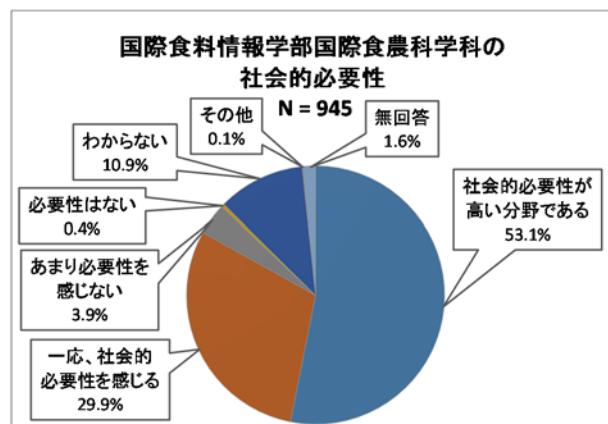


7-5 國際食料情報學部國際食農科学科の社会的必要性について

東京農業大学國際食料情報學部國際食農科学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 502 件（53.1%）と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」283 件（29.9%）、「わからない」103 件（10.9%）、「あまり必要性を感じない」37 件（3.9%）、「無回答」15 件（1.6%）、「必要性はない」4 件（0.4%）、「その他」1 件（0.1%）の順になっている。

なお、東京農業大学國際食料情報學部國際食農科学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、785 件（83.0%）となっている。

国際食料情報學部國際食農科学科の社会的必要性		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	502 53.1
2	一応、社会的必要性を感じる	283 29.9
3	あまり必要性を感じない	37 3.9
4	必要性はない	4 0.4
5	わからない	103 10.9
6	その他	1 0.1
	無回答	15 1.6
	N (%ベース)	945 100



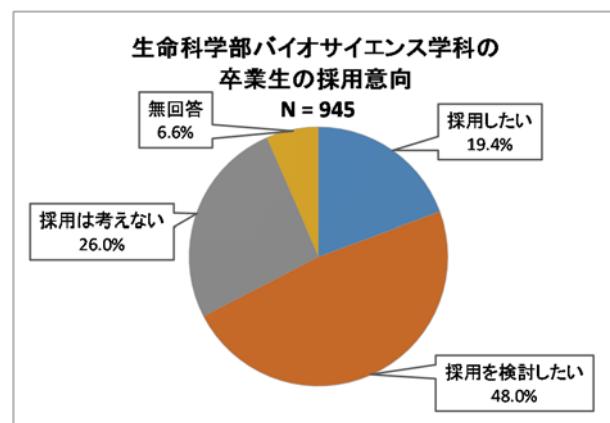
(8) 新設学部・新設学科の卒業生の採用意向について

8-1 生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用意向について

東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「採用を検討したい」が 454 件 (48.0%) と最も多く、次いで「採用は考えない」 246 件 (26.0%)、「採用したい」 183 件 (19.4%)、「無回答」 62 件 (6.6%) の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、637 件 (67.4%) となっている。

生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用意向		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	採用したい	183 19.4
2	採用を検討したい	454 48.0
3	採用は考えない	246 26.0
	無回答	62 6.6
	N (%ベース)	945 100

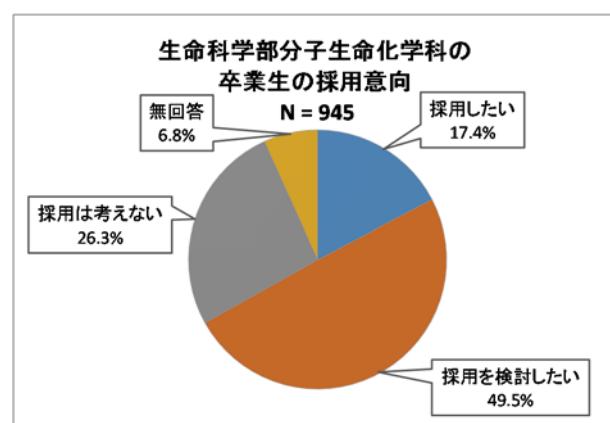


8-2 生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用意向について

東京農業大学生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「採用を検討したい」が 468 件 (49.5%) と最も多く、次いで「採用は考えない」 249 件 (26.3%)、「採用したい」 164 件 (17.4%)、「無回答」 64 件 (6.8%) の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、632 件 (66.9%) となっている。

生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用意向		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	採用したい	164 17.4
2	採用を検討したい	468 49.5
3	採用は考えない	249 26.3
	無回答	64 6.8
	N (%ベース)	945 100

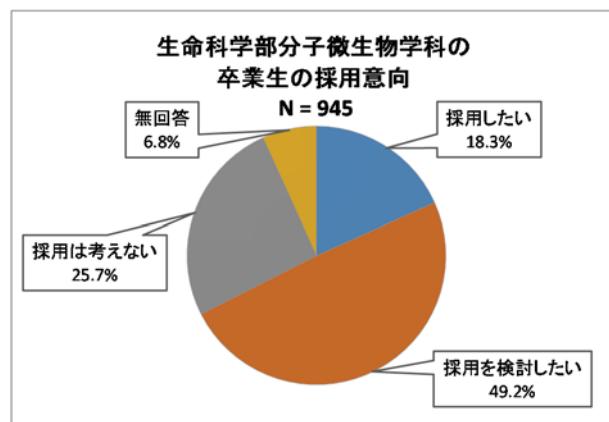


8-3 生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用意向について

東京農業大学生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「採用を検討したい」が 465 件（49.2%）と最も多く、次いで「採用は考えない」 243 件（25.7%）、「採用したい」 173 件（18.3%）、「無回答」 64 件（6.8%）の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、638 件（67.5%）となっている。

生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用意向			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	173	18.3
2	採用を検討したい	465	49.2
3	採用は考えない	243	25.7
	無回答	64	6.8
	N (%ベース)	945	100

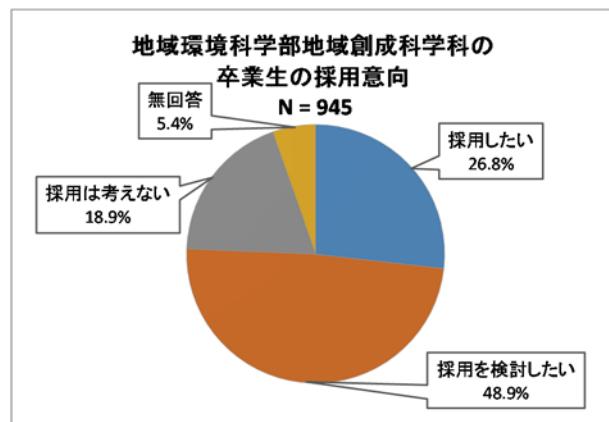


8-4 地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用意向について

東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「採用を検討したい」が 462 件（48.9%）と最も多く、次いで「採用したい」 253 件（26.8%）、「採用は考えない」 179 件（18.9%）、「無回答」 51 件（5.4%）の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、715 件（75.7%）となっている。

地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用意向			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	253	26.8
2	採用を検討したい	462	48.9
3	採用は考えない	179	18.9
	無回答	51	5.4
	N (%ベース)	945	100

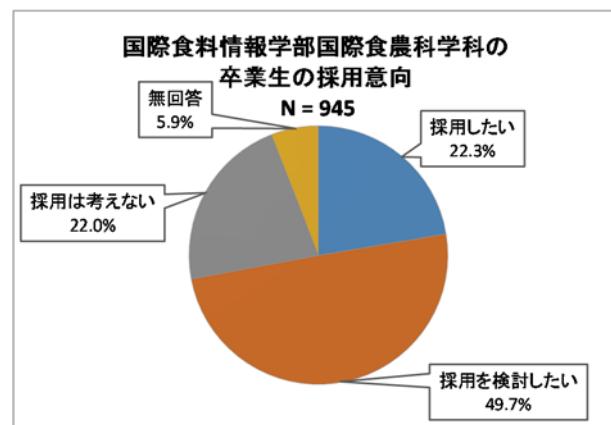


8-5 国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用意向について

東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「採用を検討したい」が 470 件 (49.7%) と最も多く、次いで「採用したい」 211 件 (22.3%)、「採用は考えない」 208 件 (22.0%)、「無回答」 56 件 (5.9%) の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、681 件 (72.0%) となっている。

国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用意向		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	採用したい	211 22.3
2	採用を検討したい	470 49.7
3	採用は考えない	208 22.0
	無回答	56 5.9
	N (%ベース)	945 100

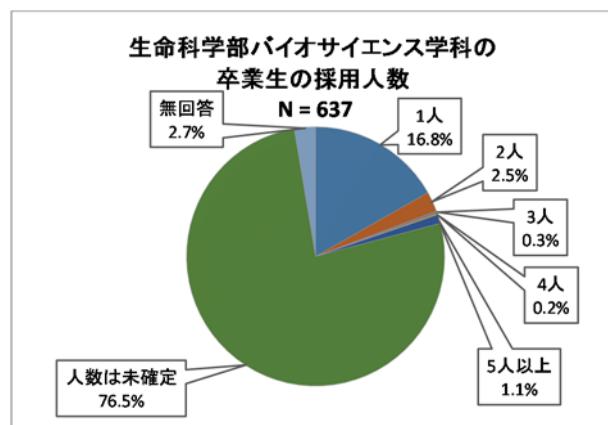


(9) 新設学部・新設学科の卒業生の採用人数について

9-1 生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用人数について

「(8) 8-1 生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 637 件に対して、東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 487 件 (76.5%) と最も多く、次いで「1人」 107 件 (16.8%)、「無回答」 17 件 (2.7%)、「2人」 16 件 (2.5%)、「5人以上」 7 件 (1.1%)、「3人」 2 件 (0.3%)、「4人」 1 件 (0.2%) の順になっている。

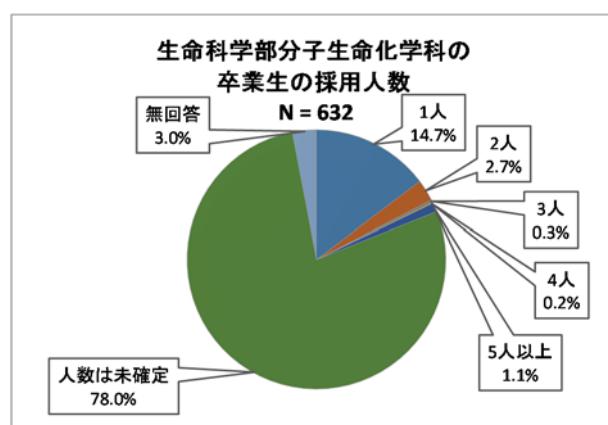
生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用人数			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	107	16.8
2	2人	16	2.5
3	3人	2	0.3
4	4人	1	0.2
5	5人以上	7	1.1
6	人数は未確定	487	76.5
	無回答	17	2.7
	N (%ベース)	637	100



9-2 生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用人数について

「(8) 8-2 生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 637 件に対して、東京農業大学生命科学部分子生命化学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 493 件 (78.0%) と最も多く、次いで「1人」 93 件 (14.7%)、「無回答」 19 件 (3.0%)、「2人」 17 件 (2.7%)、「5人以上」 7 件 (1.1%)、「3人」 2 件 (0.3%)、「4人」 1 件 (0.2%) の順になっている。

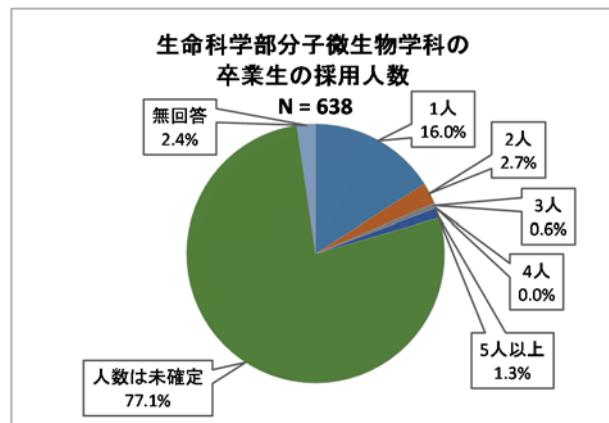
生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用人数			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	93	14.7
2	2人	17	2.7
3	3人	2	0.3
4	4人	1	0.2
5	5人以上	7	1.1
6	人数は未確定	493	78.0
	無回答	19	3.0
	N (%ベース)	632	100



9-3 生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用人数について

「(8) 8-3 生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 638 件に対して、東京農業大学生命科学部分子微生物学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 492 件 (77.1%) と最も多く、次いで「1人」 102 件 (16.0%)、「2人」 17 件 (2.7%)、「無回答」 15 件 (2.4%)、「5人以上」 8 件 (1.3%)、「3人」 4 件 (0.6%)、「4人」 0 件 (0%) の順になっている。

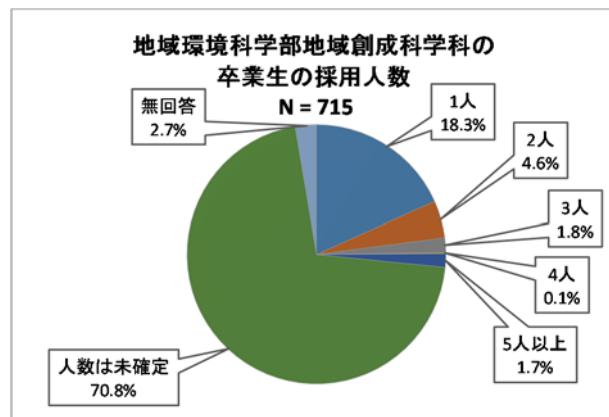
生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用人数		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	1人	102 16.0
2	2人	17 2.7
3	3人	4 0.6
4	4人	0 0.0
5	5人以上	8 1.3
6	人数は未確定	492 77.1
	無回答	15 2.4
	N (%ベース)	638 100



9-4 地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用人数について

「(8) 8-4 地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 715 件に対して、東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 506 件 (70.8%) と最も多く、次いで「1人」 131 件 (18.3%)、「2人」 33 件 (4.6%)、「無回答」 19 件 (2.7%)、「3人」 13 件 (1.8%)、「5人以上」 12 件 (1.7%)、「4人」 1 件 (0.1%) の順になっている。

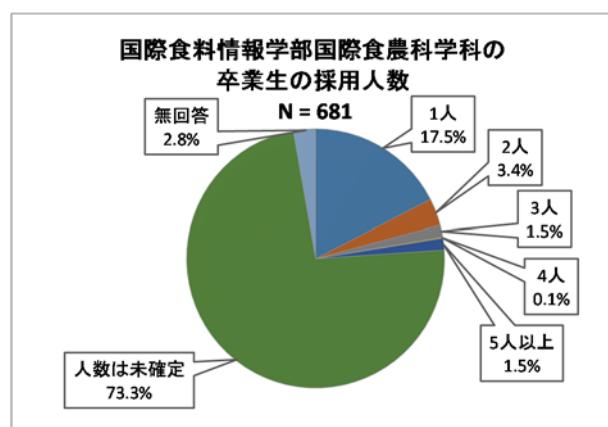
地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用人数		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	1人	131 18.3
2	2人	33 4.6
3	3人	13 1.8
4	4人	1 0.1
5	5人以上	12 1.7
6	人数は未確定	506 70.8
	無回答	19 2.7
	N (%ベース)	715 100



9-5 国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用人数について

「(8) 8-5 国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 681 件に対して、東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 499 件 (73.3%) と最も多く、次いで「1人」119 件 (17.5%)、「2人」23 件 (3.4%)、「無回答」19 件 (2.8%)、「3人」10 件 (1.5%)、「5人以上」10 件 (1.5%)、「4人」1 件 (0.1%) の順になっている。

国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用人数		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	1人	119 17.5
2	2人	23 3.4
3	3人	10 1.5
4	4人	1 0.1
5	5人以上	10 1.5
6	人数は未確定	499 73.3
	無回答	19 2.8
	N (%ベース)	681 100



3. 調査結果のまとめ

東京農業大学 生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(8) 新設学部・新設学科の卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(9) 新設学部・新設学科の卒業生の採用人数について」の将来的な採用人数の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定（※）」）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは、「(8) 新設学部・新設学科の卒業生の採用意向について」にて、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

生命科学部バイオサイエンス学科

下記の表より、東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、213人分となる。入学定員は140名であるため、約1.52倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は671人となり、これは、入学定員140名に対して、約4.79倍となる。

生命科学部バイオサイエンス学科

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 のみ	合計
1人(A)	40	(a) (A) × (a) 40
2人(B)	9	(b) (B) × (b) 18
3人(C)	1	(c) (C) × (c) 3
4人(D)	-	(d) (D) × (d) -
5人以上(E)	6	(e) (E) × (e) 30
人数は未確定(F)	122	(f) (F) × (f) 122
無回答	5	

合計採用意向 213人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 「採用を検討し たい」の合計	合計
1人(A)	107 (a) (A) × (a) 107	
2人(B)	16 (b) (B) × (b) 32	
3人(C)	2 (c) (C) × (c) 6	
4人(D)	1 (d) (D) × (d) 4	
5人以上(E)	7 (e) (E) × (e) 35	
人数は未確定(F)	487 (f) (F) × (f) 487	
無回答	17	

合計採用意向 671人

生命科学部分子生命化学科

下記の表より、東京農業大学生命科学部分子生命化学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、195 人分となる。入学定員は 115 名であるため、約 1.69 倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は 665 人となり、これは、入学定員 115 名に対して、約 5.78 倍となる。

生命科学部分子生命化学科

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 のみ	合計	回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 「採用を検討し たい」の合計	合計
1人(A)	30 (a)	(A) × (a) 30	1人(A)	93 (a)	(A) × (a) 93
2人(B)	10 (b)	(B) × (b) 20	2人(B)	17 (b)	(B) × (b) 34
3人(C)	1 (c)	(C) × (c) 3	3人(C)	2 (c)	(C) × (c) 6
4人(D)	- (d)	(D) × (d) -	4人(D)	1 (d)	(D) × (d) 4
5人以上(E)	6 (e)	(E) × (e) 30	5人以上(E)	7 (e)	(E) × (e) 35
人数は未確定(F)	112 (f)	(F) × (f) 112	人数は未確定(F)	493 (f)	(F) × (f) 493
無回答	5		無回答	19	
合計採用意向 195 人			合計採用意向 665 人		

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

生命科学部分子微生物学科

下記の表より、東京農業大学生命科学部分子微生物学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、211 人分となる。入学定員は 115 名であるため、約 1.83 倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は 680 人となり、これは、入学定員 115 名に対して、約 5.91 倍となる。

生命科学部分子微生物学科

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 のみ	合計	回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 「採用を検討し たい」の合計	合計
1人(A)	34 (a)	(A) × (a) 34	1人(A)	102 (a)	(A) × (a) 102
2人(B)	11 (b)	(B) × (b) 22	2人(B)	17 (b)	(B) × (b) 34
3人(C)	2 (c)	(C) × (c) 6	3人(C)	4 (c)	(C) × (c) 12
4人(D)	- (d)	(D) × (d) -	4人(D)	- (d)	(D) × (d) -
5人以上(E)	7 (e)	(E) × (e) 35	5人以上(E)	8 (e)	(E) × (e) 40
人数は未確定(F)	114 (f)	(F) × (f) 114	人数は未確定(F)	492 (f)	(F) × (f) 492
無回答	5		無回答	15	
合計採用意向 211 人			合計採用意向 680 人		

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

地域環境科学部地域創成科学科

下記の表より、東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、341 人分となる。入学定員は 80 名であるため、約 4.26 倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は 806 人となり、これは、入学定員 80 名に対して、約 10.07 倍となる。

地域環境科学部地域創成科学科

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 のみ	合計	回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 「採用を検討し たい」の合計	合計
1人(A)	53 (a) (A) × (a)	53	1人(A)	131 (a) (A) × (a)	131
2人(B)	25 (b) (B) × (b)	50	2人(B)	33 (b) (B) × (b)	66
3人(C)	11 (c) (C) × (c)	33	3人(C)	13 (c) (C) × (c)	39
4人(D)	1 (d) (D) × (d)	4	4人(D)	1 (d) (D) × (d)	4
5人以上(E)	11 (e) (E) × (e)	55	5人以上(E)	12 (e) (E) × (e)	60
人数は未確定(F)	146 (f) (F) × (f)	146	人数は未確定(F)	506 (f) (F) × (f)	506
無回答	6		無回答	19	

合計採用意向 341 人

合計採用意向 806 人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

国際食料情報学部国際食農科学科

下記の表より、東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、278 人分となる。入学定員は 100 名であるため、2.78 倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は 748 人となり、これは、入学定員 100 名に対して、7.48 倍となる。

国際食料情報学部国際食農科学科

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 のみ	合計	回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 「採用を検討し たい」の合計	合計
1人(A)	38 (a) (A) × (a)	38	1人(A)	119 (a) (A) × (a)	119
2人(B)	14 (b) (B) × (b)	28	2人(B)	23 (b) (B) × (b)	46
3人(C)	9 (c) (C) × (c)	27	3人(C)	10 (c) (C) × (c)	30
4人(D)	1 (d) (D) × (d)	4	4人(D)	1 (d) (D) × (d)	4
5人以上(E)	9 (e) (E) × (e)	45	5人以上(E)	10 (e) (E) × (e)	50
人数は未確定(F)	136 (f) (F) × (f)	136	人数は未確定(F)	499 (f) (F) × (f)	499
無回答	4		無回答	19	

合計採用意向 278 人

合計採用意向 748 人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

以上の調査結果と、今回の調査対象以外の進路も考えられることから、東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の進路は十分に確保できるものと考える。

調査票

東京農業大学 生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、
国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)の設置に係るアンケート調査

- ・このアンケート調査は2017年4月に設置を予定している新学部・新学科の設置構想の基礎資料とするため、貴社の採用状況・意向についてお聞きするものです。
- ・このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
- ・回答は、該当する番号を回答欄へ直接記入してください。

★調査回答締め切りのお願い

2015年10月2日(金)までに、同封の返信用封筒にてご投函頂きますようお願いいたします。

【 貴社についてお聞きします 】

【回答欄】

- Q1. 本社・支社・事業所等についてお聞きします。
次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 本社 2. 支社 3. 単独事業所

- Q2. 所在地についてお聞きします。次の中から該当する番号を1つお選びください。
※Q1の【企業】で「1. 本社」以外を選択された場合は、その所在地をお答えください。

1. 東京都 2. 神奈川県 3. 千葉県 4. 埼玉県
5. 北海道 6. 静岡県 7. 愛知県 8. 大阪府
9. 長野県 10. 茨城県 11. 新潟県 12. 群馬県
13. 兵庫県 14. その他()

- Q3. 業種についてお聞きします。次の中から最も当てはまる番号を1つお選びください。

1. 農業・林業 2. 漁業
3. 鉱業・採石業・砂利採取業 4. 建設業
5. 製造業 6. 電気・ガス・熱供給・水道業
7. 情報通信業 8. 運輸業・郵便業
9. 卸売業・小売業 10. 金融業・保険業
11. 不動産業・物品販貸業 12. 学術研究・専門技術サービス業
13. 宿泊業・飲食サービス業 14. 生活関連サービス業・娯楽業
15. 教育・学習支援業 16. 医療・福祉
17. 複合サービス業 18. サービス業(他に分類されないもの)
19. 公務(他に分類されるものを除く) 20. その他(具体的に)

- Q4. 昨年度に採用された人数について、該当する番号を1つお選びください。

(支社または単独事業所でお答えいただいている場合は、そちらでの採用数をお願いします)

1. 0名 2. 1~4名 3. 5~9名 4. 10~19名 5. 20名以上

- Q5. 今後の人材採用について、どのようにお考えですか。お考えに近い番号を1つお選びください。

1. 毎年、安定的に採用していくと思う
2. できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う
3. 每年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う
4. 増員が必要になった場合に、採用を考える
5. 欠員が出た場合に、採用を考える
6. 当面、採用は行わないと思う

- Q6. 今後、人材の採用にあたり、どのような出身学歴(最終学歴)の方の採用をお考えですか。
「採用対象となる」と思われる番号を第3位までお選びください。

1. 大学院
2. 大学
3. 短期大学
4. 専門学校
5. その他()

a: 第1位

b: 第2位

c: 第3位

【 ここからは、同封の「生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)の概要」をご覧になりながらお答えください 】

Q7. 東京農業大学が構想している新学部・新学科の社会的必要性についてどのようにお考えになりますか。学部・学科ごとに次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 社会的必要性が高い分野である 2. 一応、社会的必要性を感じる
3. あまり必要性を感じない 4. 必要性はない
5. わからない 6. その他（具体的に）

a : 生命科学部バイオサイエンス学科（仮称）→ b : 生命科学部分子生命化学科（仮称）→
c : 生命科学部分子微生物学科（仮称）→ d : 地域環境科学部地域創成科学科（仮称）→
e : 国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）→

Q8. 東京農業大学が構想している新学部・新学科卒業生の採用意向についておたずねします。学部・学科ごとに次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. 採用は考えない

1つでも1、2を選ばれた方はQ9へお進みください。
全て3を選ばれた方はQ10へお進みください。

a : 生命科学部バイオサイエンス学科（仮称）→ b : 生命科学部分子生命化学科（仮称）→
c : 生命科学部分子微生物学科（仮称）→ d : 地域環境科学部地域創成科学科（仮称）→
e : 国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）→

Q9. 東京農業大学が構想している新学部・新学科の卒業生を何人程度採用したいと考えますか。Q8にて「採用したい」「採用を検討したい」を選択した学科について、次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上 6. 人数は未確定

a : 生命科学部バイオサイエンス学科（仮称）→ b : 生命科学部分子生命化学科（仮称）→
c : 生命科学部分子微生物学科（仮称）→ d : 地域環境科学部地域創成科学科（仮称）→
e : 国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）→

Q10. 東京農業大学が構想している新学部・新学科の設置構想にあたり、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。その他、大学の教育内容・活動等について、ご意見等ございましたら、あわせてご記入ください。

◆◆ 最後までご協力いただき、ありがとうございました ◆◆

東京農業大学 大学改革推進室（担当：村越）

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 電話：03-5477-2650 FAX：03-5477-2804



正門に掛かる門標は棟方志功の揮毫

進化する東京農大

2017年4月設置構想中

新設 生命科学部※<仮称> 世田谷キャンパス

新設 バイオサイエンス学科※<仮称> 定員 140名

新設 分子生命化学科※<仮称> 定員 115名

新設 分子微生物学科※<仮称> 定員 115名

地域環境科学部 世田谷キャンパス

新設 地域創成科学科※<仮称> 定員 80名

国際食料情報学部 世田谷キャンパス

新設 国際食農科学科※<仮称> 定員 100名

“生きる”を支える

東京農業大学

TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE FOUNDED IN 1891

※学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。

「農のこころ」を育み “生きる”を支える東京農業大学



東京農業大学 学長

農学博士 高野 克己

東京農大は生命・食料・環境・健康・エネルギー・地域再生など、人類の生存に関わる幅広い農学領域を対象に、国内外の様々な課題解決に取り組んでいます。

人類はその叡智により自然の恵みを享受し、高度に複雑化した現代社会を創造しました。一方では、地球規模の気候変動に伴う環境変化と自然災害の増加、人口増加による食料危機、水不足、生活環境の悪化、経済格差の拡大など、地球とそこに生きる多様な生き物、人類の生存を脅かす課題に直面しています。

東京農大は建学の精神「人物を畠に還す」と教育・研究の理念「実学主義」に基づき、世界水準の先端研究と生命を大切にする「農のこころ」を育む実学教育を推進し、未来の問題を解決できる人物をグローバル社会に輩出します。

東京農大は、農と生命を科学し、“生きる”を支えるエシカル（環境保全・社会貢献など）な社会の構築を目指します。

学部改組の趣旨

新設 ●生命科学部（新設・仮称）※¹

生物の設計図である遺伝子は、生命のメカニズムの情報を伝える物質であり、それを利用して人々の生活をより豊かにする試みに、社会の注目が年々高まっています。また、生命を作り機能させている化学反応と、最もシンプルな生物である微生物の研究・応用は、環境、食料、健康、エネルギーなどの新技術開発に貢献する大きな潜在能力を秘めています。生命の本質を科学する本学部では、基盤をなす分子・遺伝子・細胞からまるごとの微生物・動植物まで幅広い理解をベースに、それらの解析と革新的な活用法の探求に主眼をおいています。その専門教育と研究活動の成果によって、将来にわたり社会問題の解決に貢献し国際的に活躍できる人材の育成をめざしていきます。

●地域環境科学部

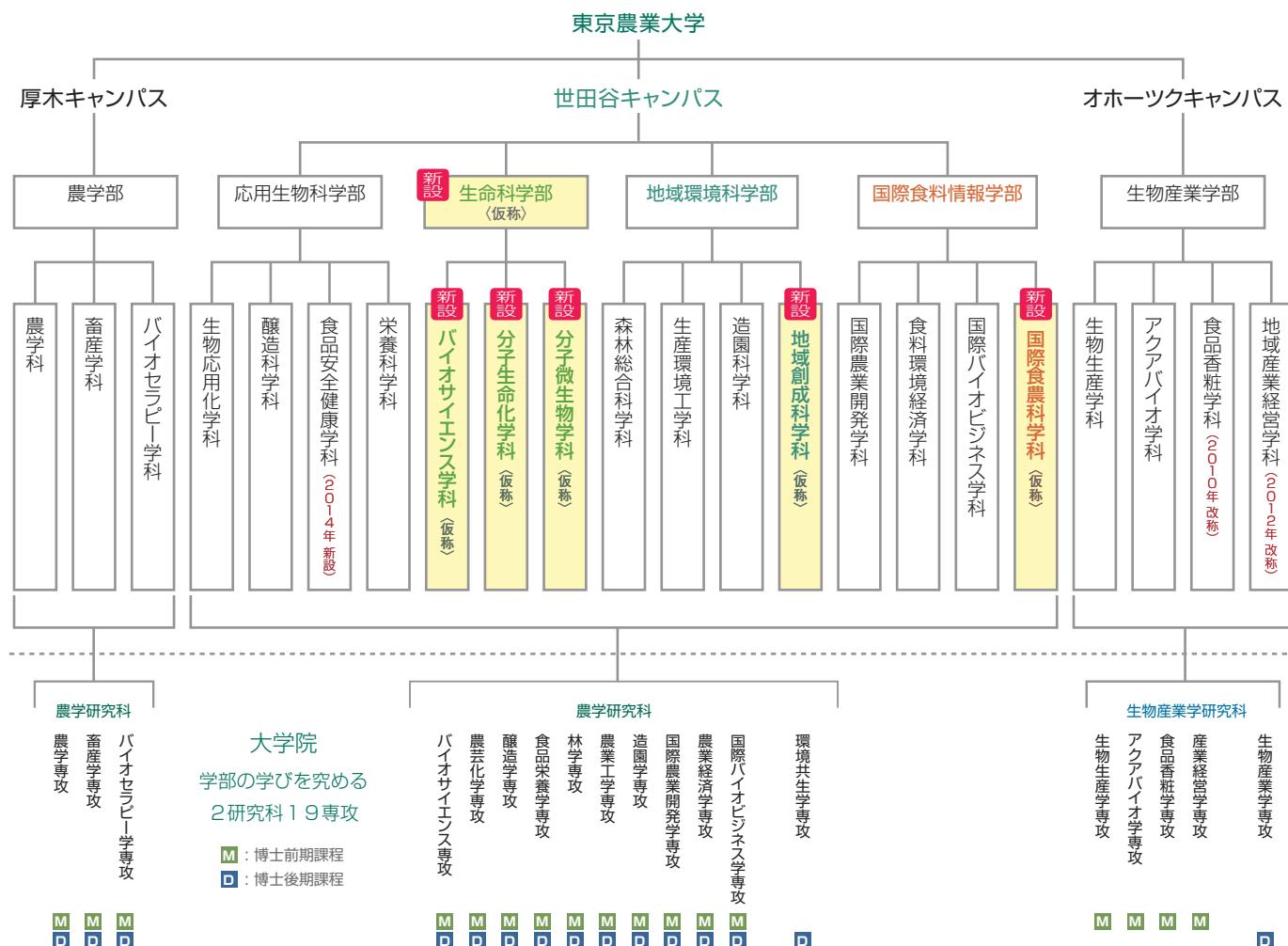
近年、地球温暖化や気候変動などによって巨大台風の襲来や局地的豪雨、猛暑日など地球規模の環境問題が表面化しています。2013年6月のリオ+20では「グリーンエコノミー」が提言され、環境問題への具体的な取り組みが世界的に問われています。社会では、生産力優先から生活重視へ、開発主義から生物多様性保全へ、さらに地域づくりの視点もグローバル経済からローカル経済重視へと変化してきました。そのため新たな地域環境科学部では、21世紀の環境の時代における「地域づくり」や「地域再生」を基本理念に、農学系の知識や技術を基礎として、持続可能な循環型社会の構築に貢献し、地域で活躍できる人材の育成をめざします。

●国際食料情報学部

日本の「和食」が世界無形文化遺産に、「能登の里山里海」等が世界農業遺産に登録されるなど、近年、伝統的な食農文化に対する国民の関心が増大しています。こうした背景から、農業生産をとりまく社会では、地域の食農文化を継承し世界に発信していくことのできる人材、また、農業を基盤とした経営の6次産業化の発展に貢献できる人材、さらに食の世界市場に向けた経営展開を実現できる人材の育成が欠かせない時代を迎えています。そのため「日本と世界の食料・農業・農村問題の解決に向けて、国際的情報網の活用のもと、総合的・実践的に挑戦する」を国際食料情報学部の基本理念とし、社会のニーズに応え、活躍できる人材の育成をめざします。

※1 学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。

多様な農学分野をカバーする 3キャンパス6学部22学科へ



生命科学部

バイオサイエンス学科

<仮称／設置構想中>

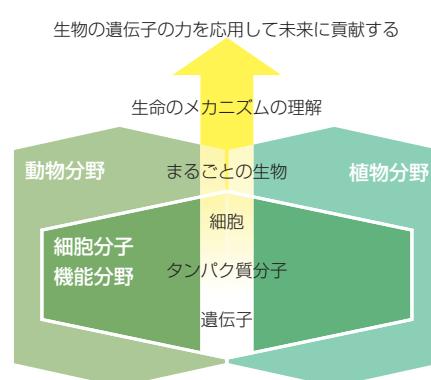
学科のキーワード

- ◆動物 ◆植物 ◆細胞 ◆機能分子 ◆遺伝子操作 ◆ゲノム
- ◆脳 ◆発生 ◆細胞培養 ◆増殖・分化 ◆育種 ◆遺伝子工学
- ◆植物の環境耐性 ◆創薬 ◆機能性食品開発 ◆イメージング

遺伝子の力を解き明かし、未来の生活に貢献する

遺伝子は生物の設計図。最先端のバイオ技術を駆使して、遺伝子の働きを解き明かし、遺伝子の力を最大限に引き出して、人類が抱えている食料、健康、環境の諸問題の解決をめざします。細胞、そして動物と植物を研究対象として、遺伝子操作を中心とした遺伝子工学技術から、生きている生物の内部を観察するライブイメージング（可視化）技術に至るまで、基礎・専門的の技法を身につけます。講義では最先端の知識を学習します。

●教育課程の特色



■取得資格(予定)

中学校教諭一種免許状(理科)^{*2}
高等学校教諭一種免許状(理科／農業)^{*2}
危険物取扱責任者、学芸員、司書

■予想される進路

大学院、化学系企業、製薬企業、環境科学・生物関連企業、食品系企業など

予想される研究テーマ

- 遺伝子操作マウスを用いたレチノイン酸(ビタミンA)により記憶力が良くなるメカニズムの解析 ●藻類の細胞増殖制御に関する研究 ●生物間コミュニケーション分子の解析 ●哺乳動物の未熟な卵子を成熟させる体外培養法の確立 ●イネ乾燥耐性品種選抜のためのDNAマーカー探索 ●植物の低温驯化プロセスにおけるタンパク質リン酸化酵素活性化の分子機構

*1 学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。

*2 課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

生命科学部

分子生命化学科^{※1}

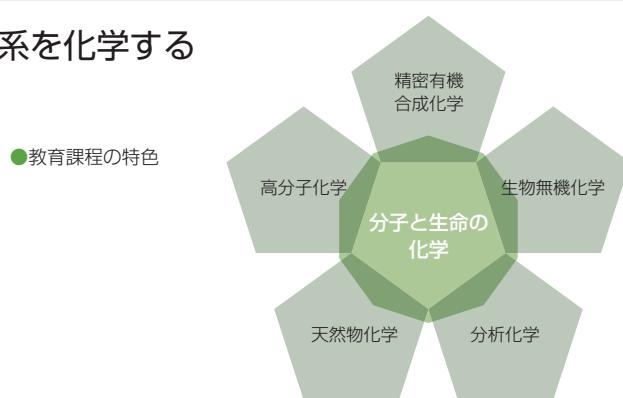
<仮称／設置構想中>

学科のキーワード

- ◆原子・分子 ◆化学力養成 ◆農学領域を化学の視点から
- ◆日常生活で取り扱う最小単位 ◆遺伝子よりも小さい
- ◆新物質の探究 ◆バイオプラスチック

原子・分子の視点から生命、農業、生態系を化学する

生物圏のあらゆる“生命”現象には、原子・分子が関わっています。この原子・分子の動きを化学的な視点で解き明かしていくことで、これから農学の可能性をより広げていくことを狙いとしています。精密有機合成化学、天然物化学を中心に、高分子化学、分析化学を基盤とする研究・教育を展開、また大学院への進学もサポートし、汎用性のある基礎力を有する人材を育成します。さらに、農場実習などの「農の現場を知る」ための実習も行います。



■取得資格(予定)

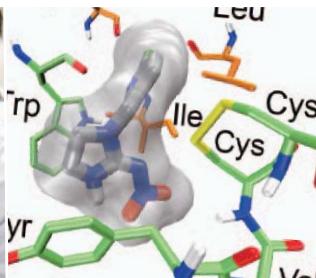
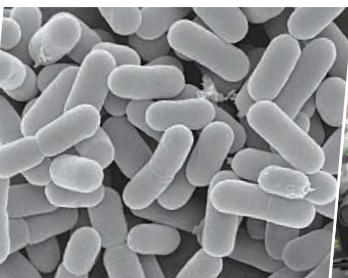
中学校・高等学校教諭一種免許状(理科)^{※2}、
危険物取扱責任者、学芸員、司書

■予想される進路

大学院、化学系企業、製薬企業、公務員、環境科学・生物関連企業など

予想される研究テーマ

- 超微量で生物の機能・行動に影響を与える物質の設計
- 植物・動物・微生物からの新規有用化合物の探索および分離
- 生物学的・化学的手法によるバイオプラスチックの創製
- 細胞を構成する有機分子の解析・合成
- 医療・農薬の開発につながる天然有機化合物の合成



生命科学部

分子微生物学科^{※1}

<仮称／設置構想中>

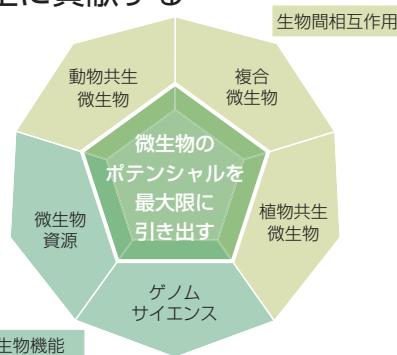
学科のキーワード

- ◆微生物探索 ◆プロバイオティクスと健康 ◆病原菌応答 ◆生物間相互作用
- ◆ゲノム ◆バイオインフォマティクス ◆環境浄化 ◆有用物質生産
- ◆発酵代謝 ◆腸内細菌 ◆極限微生物 ◆微細藻類

微生物を先端科学で追求し、動植物の健全な生育と環境保全に貢献する

微生物は地球上の最もシンプルな生命体。あらゆる環境に生息しますが、これまでに見つかっている微生物種はほんの数%にすぎません。植物や動物、そして広大な地球環境を研究対象として、これまで未解明であったミクロの世界を先端科学のちからで追求することで、未来の農学分野への貢献を目指します。未解明の生命現象へ果敢に挑戦する独創性に富む人材の育成を目指します。

●教育課程の特色



■取得資格(予定)

中学校教諭一種免許状(理科)^{※2}、
高等学校教諭一種免許状(理科／農業)^{※2}、
学芸員、司書、危険物取扱責任者

■予想される進路

大学院、バイオ産業、製薬企業、食品産業、発酵産業、
健康産業、検査業界、環境科学、公務員、教員

予想される研究テーマ

- 未知微生物の探索と有用な生命現象の発見
- ゲノム情報を活用した微生物の新規機能開発
- 植物-微生物間の病原応答機構に関する分子応答解析
- 微生物に対する動物の生体防御機構
- 極限環境微生物が持つ環境ストレス耐性能力の有効利用
- 乳酸菌のゲノムネットワーク解析による有用物質生産
- 酵母と乳酸菌の協調的増幅に関わる因子の推定
- 腸内細菌が健康におよぼす影響

※1 学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。

※2 課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

地域環境科学部

地域創成科学科^{※1}

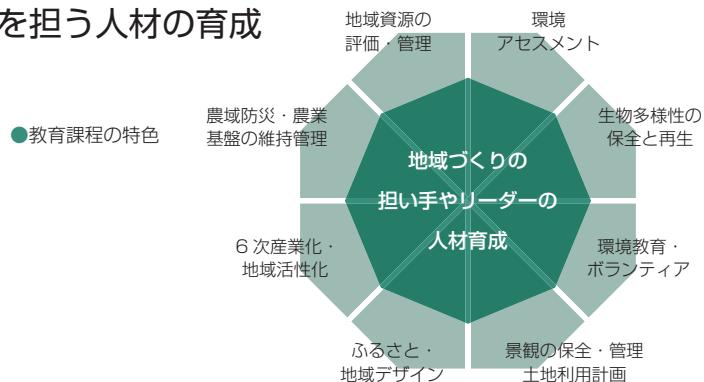
<仮称／設置構想中>

学科のキーワード

- ◆生物多様性 ◆土地利用 ◆自然再生 ◆SATOYAMA
- ◆地域防災 ◆農業施設 ◆農村都市交流 ◆地域貢献 ◆環境教育
- ◆農山村インターンシップ

持続可能な循環型社会の再構築とそれを担う人材の育成

里山などの“地域”的伝統的な文化や知恵と最新の技術を融合させ、持続可能な土地利用の構築、地域づくりの実現に貢献します。地域が抱える問題を総合的に捉え、生物多様性や生態系に配慮した土地利用、地域防災に関する保全・管理技術、環境教育、政策立案、地域マネジメントといった実学型教育を通じて、地域づくりの担い手やリーダーになり得る人材の育成を目指します。



■取得資格(予定)

高等学校教諭一種免許状(農業)^{※2}、学芸員、司書、測量士補、自然再生士補、樹木医補、技術士補

■予想される進路

大学院、農産物流通業、建設業(土木・造園)、農業協同組合、観光・レクリエーション業、地方自治体、教員など

予想される研究テーマ

- 伝統的な草地利用による春植物の保全 ●農地や樹林地におけるファイトレメディエーション ●動植物、植生調査による自然空間の実態把握 ●気象観測データによる土砂災害の予測と最適避難経路の選定
- 食品廃棄物の肥料化による地域内の窒素・炭素循環 ●住民参加型の農業施設管理とその経済性評価
- ボランティアによる中山間地の草地管理と景観認識調査



国際食料情報学部

国際食農科学科^{※1}

<仮称／設置構想中>

学科のキーワード

- ◆和食 日本人の伝統的な食文化 ◆世界農業遺産 ◆伝統野菜
- ◆食育 ◆農業の教育力 ◆食のマルシェ ◆6次産業化 ◆フードツーリズム
- ◆地産地消 ◆スローフード ◆フェアトレード

世界に向けて日本の食農技術・文化を展開

日本の食と農に関する文化、それらを支える栽培や加工技術は、今日、世界的に注目を集めています。本学科では、農学の柱となる生産科学系、食品科学系、食農文化系、食農政策系、食農教育系などの多様性のある教育システムで、総合的に食と農の伝統と新たな発展の可能性を理解し、国際的な視野で活躍できる人材の育成を目指します。

●教育課程の特色



■取得資格(予定)

高等学校教諭一種免許状(農業)^{※2}、学芸員、司書、食の6次産業化プロデューサー、フードスペシャリスト

■予想される進路

大学院、食品系商社、総合商社、食品メーカー、貿易、広告・マスコミ、農業協同組合・生活協同組合、NPO、公務員、教員、新規就農、農業法人など

予想される研究テーマ

- 食文化・農村文化と地域振興 ●都市農村交流による地域活性化とメディア戦略 ●調理加工特性を活かした食品素材の有効利用
- 食品の機能性に関する研究 ●伝統野菜の生理・生態に関する研究
- 世界のフェアトレードによる国際貢献活動に関する研究 ●海外における学校菜園の教育効果
- 食育プログラムの開発

※1 学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。

※2 課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

緑あふれる都市型キャンパス

東京農業大学のメインキャンパスである世田谷キャンパスは、小田急線経堂駅を最寄りとしています。新宿まで30分強、渋谷へは正門前バス停からやはり30分程度ということもあります、非常に都心にアクセスしやすい立地にあります。

広い敷地内には、100種類以上の樹木があふれ、落ち着いた雰囲気に包まれています。講義棟である1号館、図書館やコンピュータセンターが入った「農大アカデミアセンター」など、新校舎も次々に誕生しています。



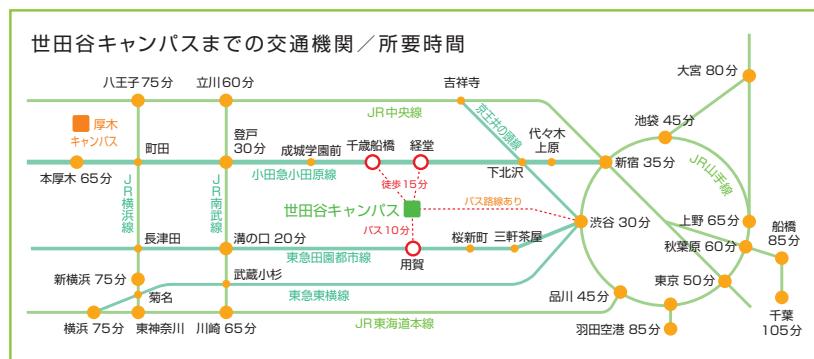
キャンパスより新宿方面を望む



6階建ての講義棟・1号館



芝生がひろがる「ユリノキ広場」は学生の人気スポット



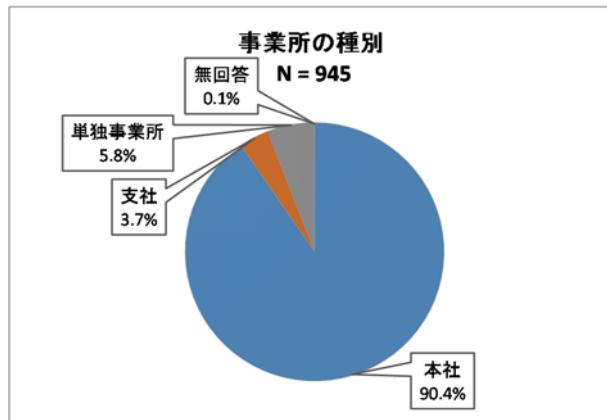
東京農業大学
www.nodai.ac.jp

お問い合わせ先

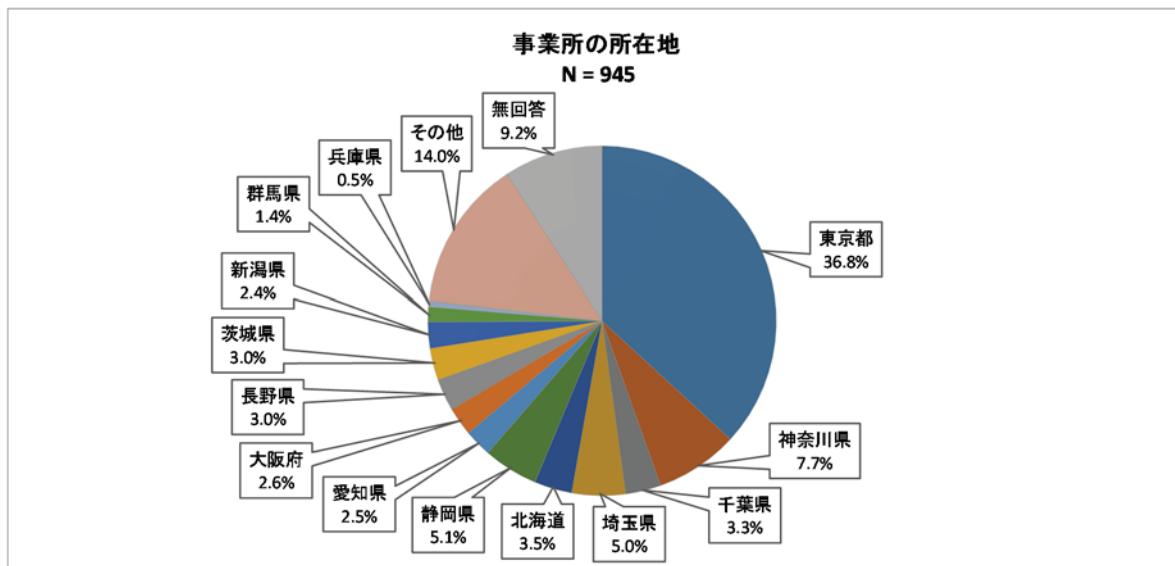
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
TEL.03-5477-2226 (入試センター)

单纯集計表

事業所の種別			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	本社	854	90.4
2	支社	35	3.7
3	単独事業所	55	5.8
	無回答	1	0.1
	N (%ベース)	945	100



事業所の所在地			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京都	348	36.8
2	神奈川県	73	7.7
3	千葉県	31	3.3
4	埼玉県	47	5.0
5	北海道	33	3.5
6	静岡県	48	5.1
7	愛知県	24	2.5
8	大阪府	25	2.6
9	長野県	28	3.0
10	茨城県	28	3.0
11	新潟県	23	2.4
12	群馬県	13	1.4
13	兵庫県	5	0.5
14	その他	132	14.0
	無回答	87	9.2
	N (%ベース)	945	100

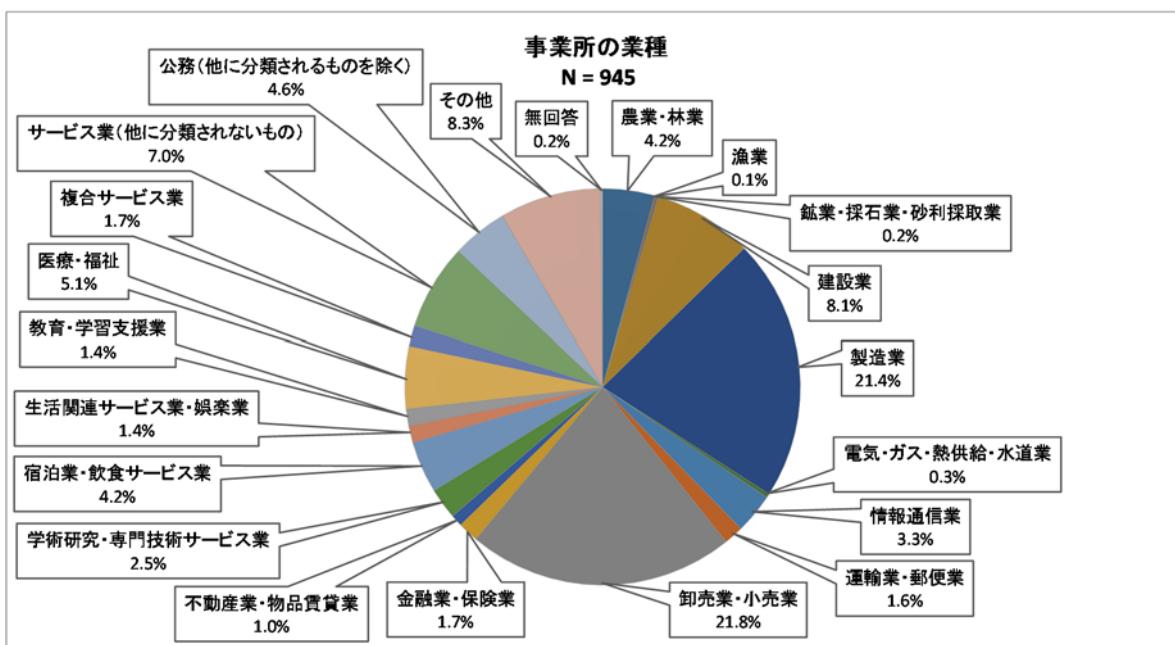


事業所の業種

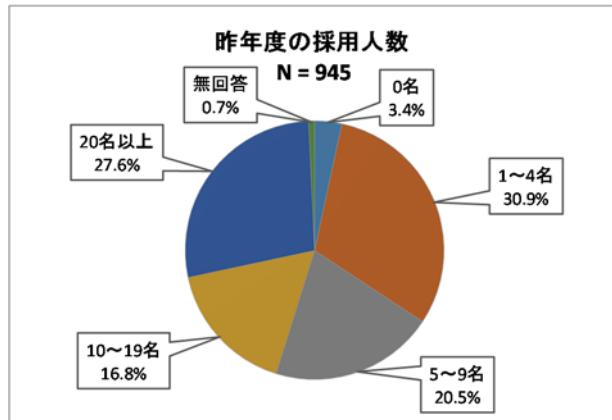
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農業・林業	40	4.2
2	漁業	1	0.1
3	鉱業・採石業・砂利採取業	2	0.2
4	建設業	77	8.1
5	製造業	202	21.4
6	電気・ガス・熱供給・水道業	3	0.3
7	情報通信業	31	3.3
8	運輸業・郵便業	15	1.6
9	卸売業・小売業	206	21.8
10	金融業・保険業	16	1.7
11	不動産業・物品貯蔵業	9	1.0
12	学術研究・専門技術サービス業	24	2.5
13	宿泊業・飲食サービス業	40	4.2
14	生活関連サービス業・娯楽業	13	1.4
15	教育・学習支援業	13	1.4
16	医療・福祉	48	5.1
17	複合サービス業	16	1.7
18	サービス業(他に分類されないもの)	66	7.0
19	公務(他に分類されるものを除く)	43	4.6
20	その他	78	8.3
	無回答	2	0.2
	N (%ベース)	945	100

事業所の業種

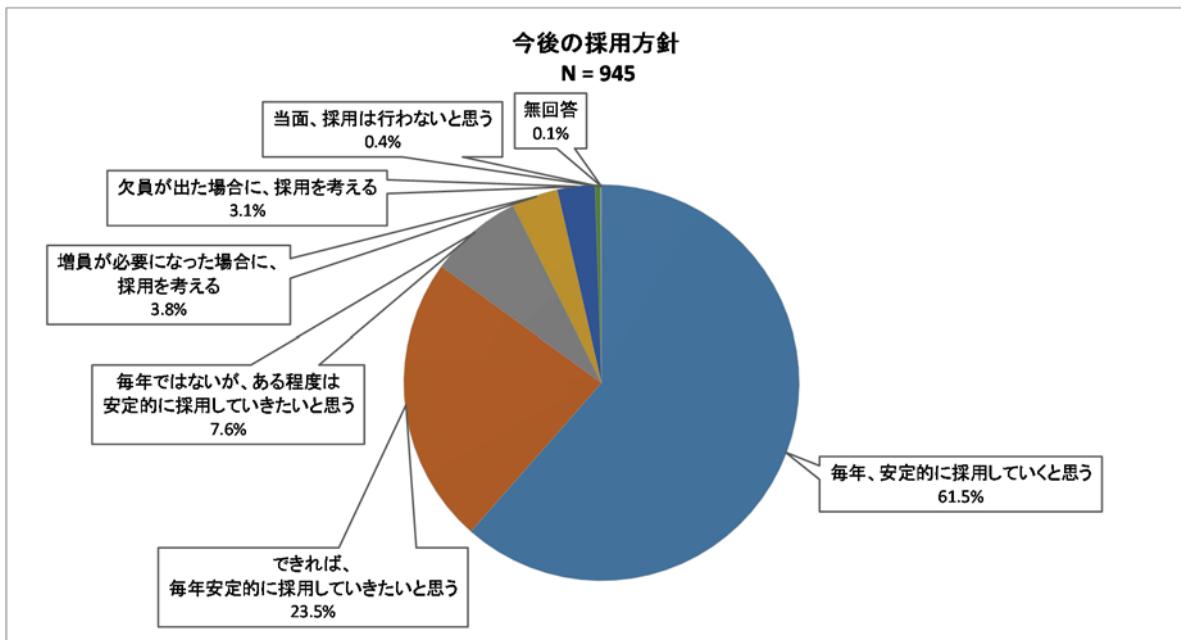
N = 945



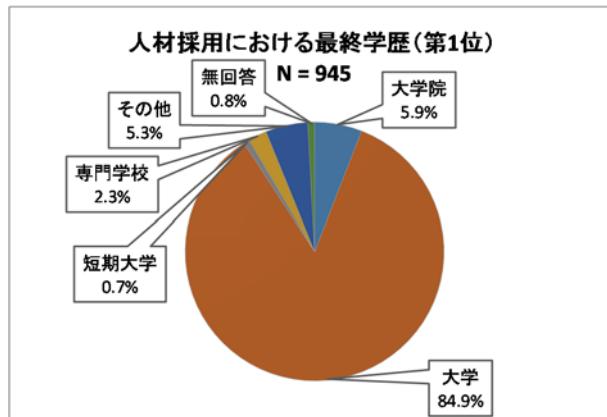
昨年度の採用人数			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0名	32	3.4
2	1~4名	292	30.9
3	5~9名	194	20.5
4	10~19名	159	16.8
5	20名以上	261	27.6
	無回答	7	0.7
	N (%ベース)	945	100



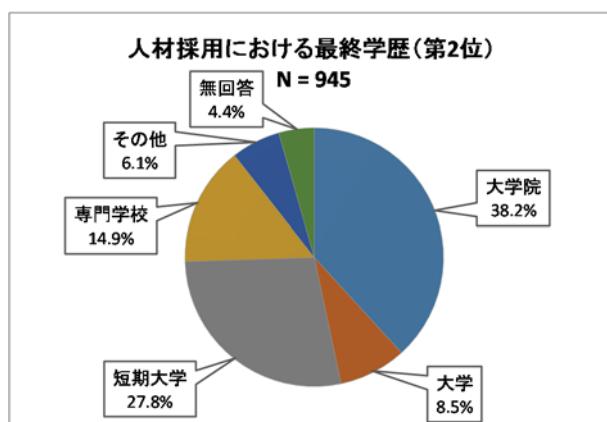
今後の採用方針			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	毎年、安定的に採用していくと思う	581	61.5
2	できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う	222	23.5
3	毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う	72	7.6
4	増員が必要になった場合に、採用を考える	36	3.8
5	欠員が出た場合に、採用を考える	29	3.1
6	当面、採用は行わないと思う	4	0.4
	無回答	1	0.1
	N (%ベース)	945	100



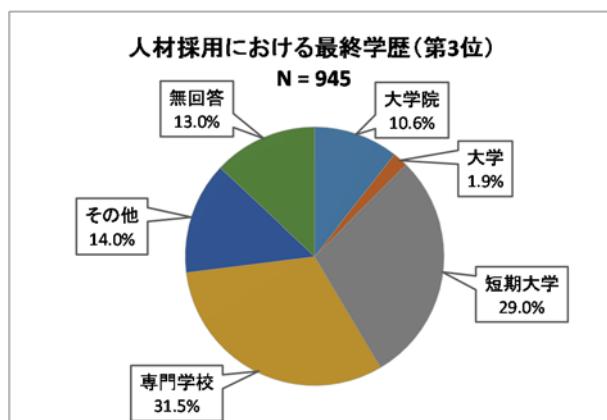
人材採用における最終学歴(第1位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	56	5.9
2	大学	802	84.9
3	短期大学	7	0.7
4	専門学校	22	2.3
5	その他	50	5.3
	無回答	8	0.8
	N (%ベース)	945	100



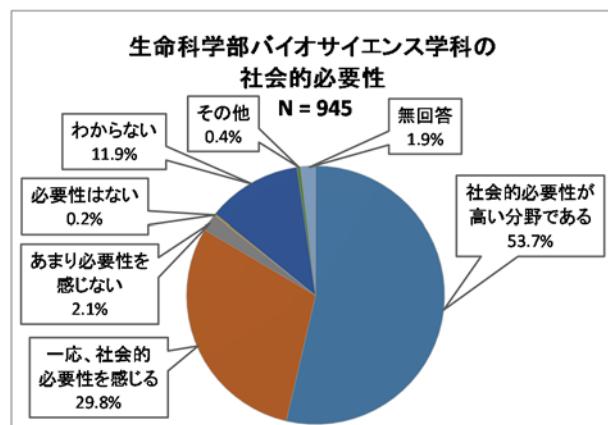
人材採用における最終学歴(第2位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	361	38.2
2	大学	80	8.5
3	短期大学	263	27.8
4	専門学校	141	14.9
5	その他	58	6.1
	無回答	42	4.4
	N (%ベース)	945	100



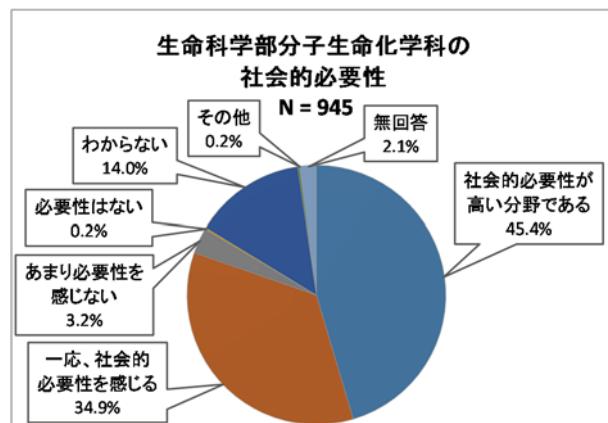
人材採用における最終学歴(第3位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	100	10.6
2	大学	18	1.9
3	短期大学	274	29.0
4	専門学校	298	31.5
5	その他	132	14.0
	無回答	123	13.0
	N (%ベース)	945	100



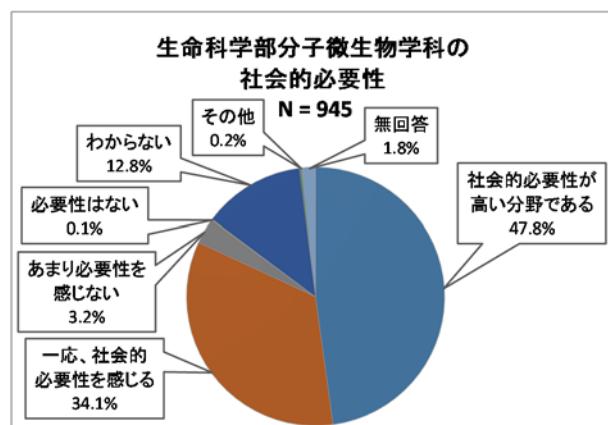
生命科学部バイオサイエンス学科の社会的必要性		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	507 53.7
2	一応、社会的必要性を感じる	282 29.8
3	あまり必要性を感じない	20 2.1
4	必要性はない	2 0.2
5	わからない	112 11.9
6	その他	4 0.4
	無回答	18 1.9
	N (%ベース)	945 100



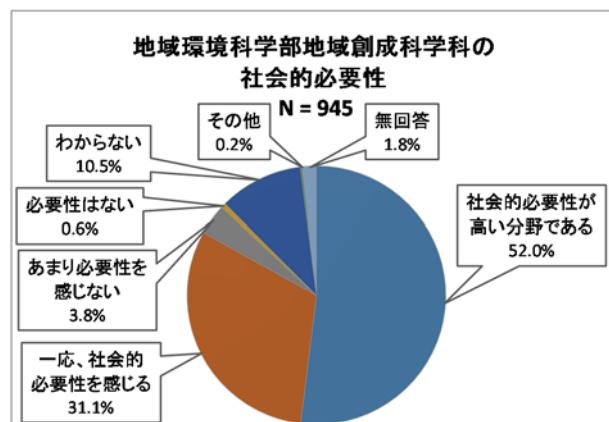
生命科学部分子生命化学科の社会的必要性		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	429 45.4
2	一応、社会的必要性を感じる	330 34.9
3	あまり必要性を感じない	30 3.2
4	必要性はない	2 0.2
5	わからない	132 14.0
6	その他	2 0.2
	無回答	20 2.1
	N (%ベース)	945 100



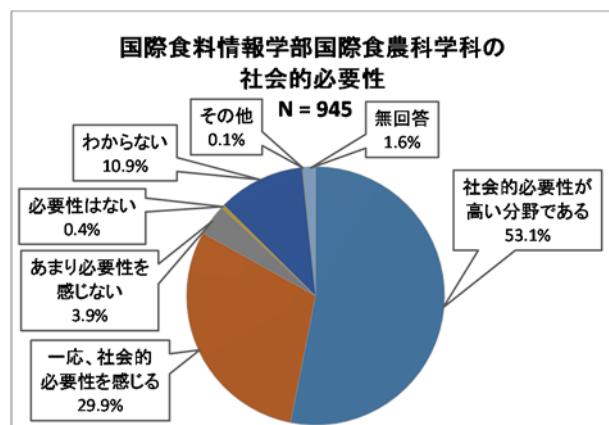
生命科学部分子微生物学科の社会的必要性		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	452 47.8
2	一応、社会的必要性を感じる	322 34.1
3	あまり必要性を感じない	30 3.2
4	必要性はない	1 0.1
5	わからない	121 12.8
6	その他	2 0.2
	無回答	17 1.8
	N (%ベース)	945 100



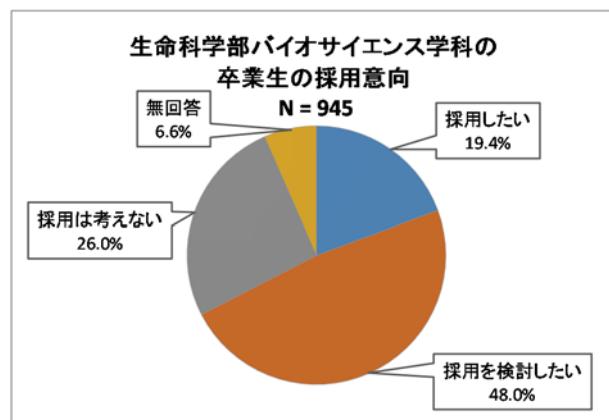
地域環境科学部地域創成科学科の社会的必要性		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	491 52.0
2	一応、社会的必要性を感じる	294 31.1
3	あまり必要性を感じない	36 3.8
4	必要性はない	6 0.6
5	わからない	99 10.5
6	その他	2 0.2
	無回答	17 1.8
	N (%ベース)	945 100



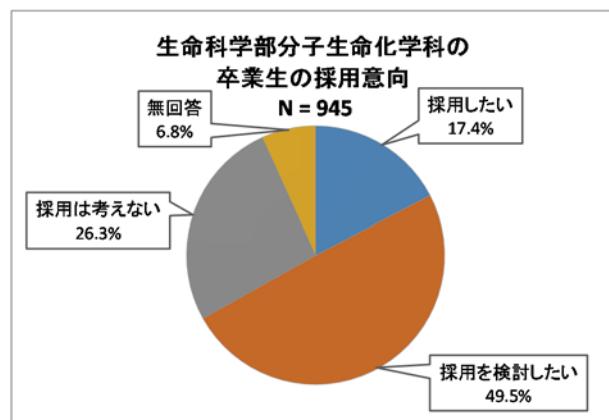
国際食料情報学部国際食農科学科の社会的必要性		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	502 53.1
2	一応、社会的必要性を感じる	283 29.9
3	あまり必要性を感じない	37 3.9
4	必要性はない	4 0.4
5	わからない	103 10.9
6	その他	1 0.1
	無回答	15 1.6
	N (%ベース)	945 100



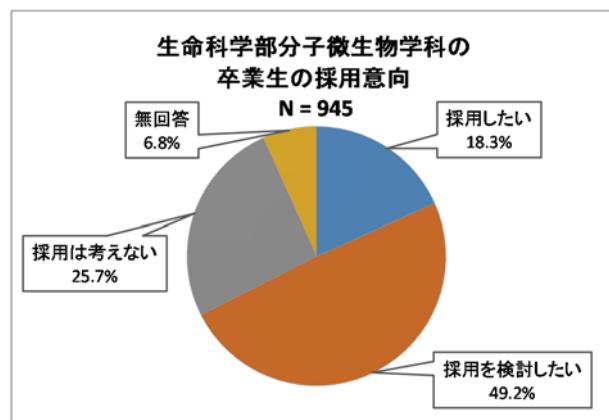
生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用意向		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	採用したい	183 19.4
2	採用を検討したい	454 48.0
3	採用は考えない	246 26.0
	無回答	62 6.6
N (%ベース)		945 100



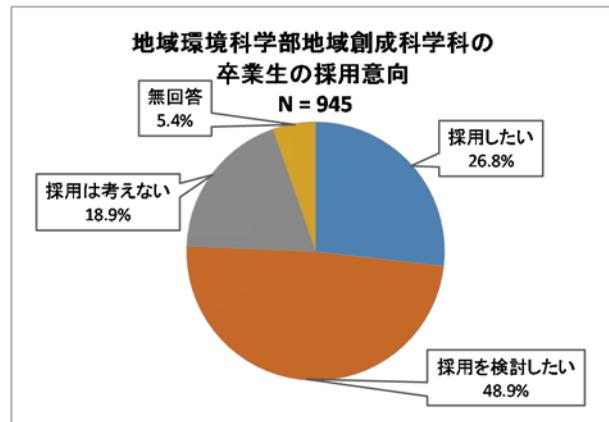
生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用意向		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	採用したい	164 17.4
2	採用を検討したい	468 49.5
3	採用は考えない	249 26.3
	無回答	64 6.8
N (%ベース)		945 100



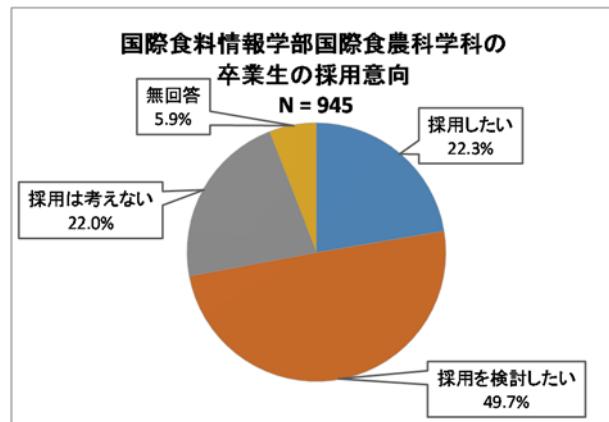
生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用意向		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	採用したい	173 18.3
2	採用を検討したい	465 49.2
3	採用は考えない	243 25.7
	無回答	64 6.8
N (%ベース)		945 100



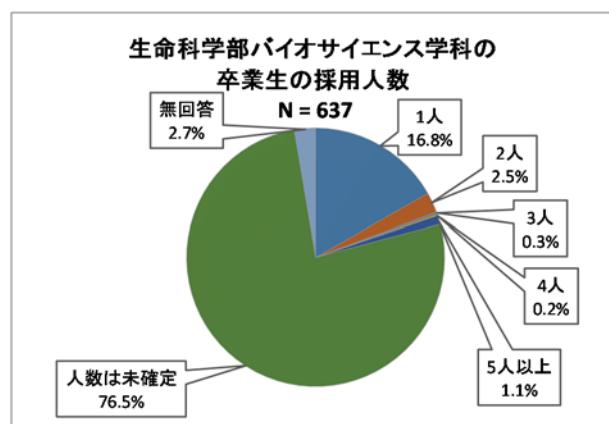
地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用意向		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	採用したい	253 26.8
2	採用を検討したい	462 48.9
3	採用は考えない	179 18.9
	無回答	51 5.4
N (%ペース)		945 100



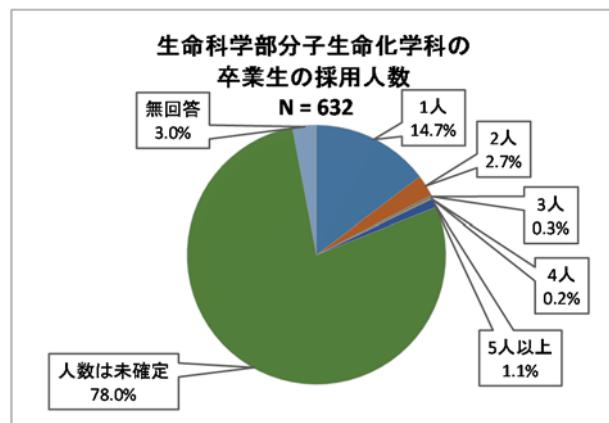
国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用意向		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	採用したい	211 22.3
2	採用を検討したい	470 49.7
3	採用は考えない	208 22.0
	無回答	56 5.9
N (%ペース)		945 100



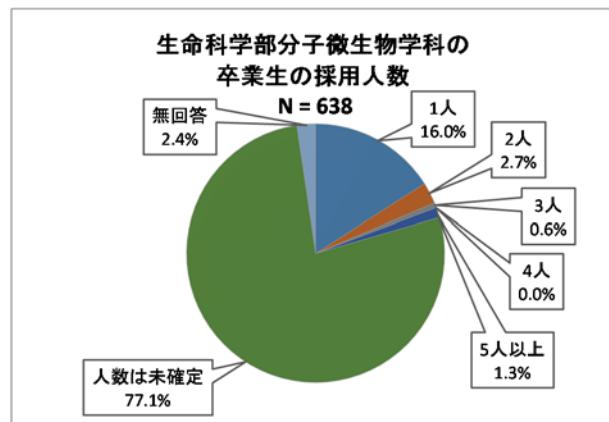
生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用人数		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	1人	107 16.8
2	2人	16 2.5
3	3人	2 0.3
4	4人	1 0.2
5	5人以上	7 1.1
6	人数は未確定	487 76.5
	無回答	17 2.7
	N (%ベース)	637 100



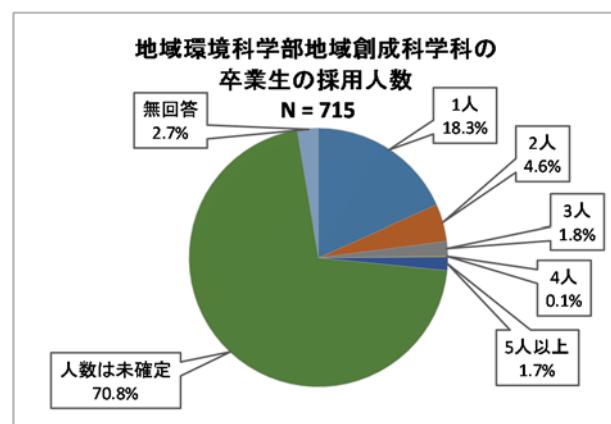
生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用人数		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	1人	93 14.7
2	2人	17 2.7
3	3人	2 0.3
4	4人	1 0.2
5	5人以上	7 1.1
6	人数は未確定	493 78.0
	無回答	19 3.0
	N (%ベース)	632 100



生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用人数		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	1人	102 16.0
2	2人	17 2.7
3	3人	4 0.6
4	4人	0 0.0
5	5人以上	8 1.3
6	人数は未確定	492 77.1
	無回答	15 2.4
	N (%ベース)	638 100



地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用人数		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	1人	131 18.3
2	2人	33 4.6
3	3人	13 1.8
4	4人	1 0.1
5	5人以上	12 1.7
6	人数は未確定	506 70.8
	無回答	19 2.7
	N (%ベース)	715 100



国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用人数		
No.	カテゴリ	件数 (全体)%
1	1人	119 17.5
2	2人	23 3.4
3	3人	10 1.5
4	4人	1 0.1
5	5人以上	10 1.5
6	人数は未確定	499 73.3
	無回答	19 2.8
	N (%ベース)	681 100

